

678.25
C15

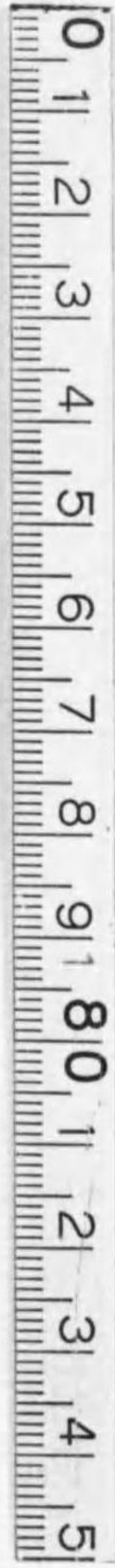
678.25-G15ㄅ



1200500750583

最近十年對世界及米國貿易概況
中南米

外務省通商局編



始



9
1

外務省通商局編

最近十年
の中南米
對世界及米國貿易概況

東京八
紘閣發行

678.25
G15

目次

はしがき……………一

中南米貿易統計の概要……………一

第一部 中南米の情勢及世界上の地位……………三

一、中南米の自然及人文……………三

面積及氣候—礦物資源—森林資源—農業—牧畜—人口

二、中南米の産業……………六

農林業—畜産業—鑛業—製造工業

三、中南米諸國の貿易政策……………一〇

四、中南米の對外貿易……………一三

總説—世界向輸出—對外輸入—中南米の主要輸出市場
及輸入相手國

第二部 中南米の對北米合衆國貿易……………一六

一、總説……………一六

二、地方別による中南米の對北米合衆國貿易……………二六

カリブ海沿岸諸國—伯利西爾—南米西岸諸國—東海岸、
南米温帯諸國

三、北米合衆國貿易に於ける中南米の位置……………三三

輸入—輸出

四、北米合衆國貿易に於ける中南米各國の位置……………三七

輸入—地金銀輸入—輸出

五、北米合衆國の對中南米貿易機構……………四七

貿易の經濟的分類—商品別輸入—商品別輸出

六、中南米より合衆國への輸入關稅狀況……………五五

中南米及其他の諸國よりの有税及無税輸入—從價相當
率關稅—商品別の課稅狀態—各國より輸入品に對する
課稅狀態—合衆國對中南米諸國通商協定

七、合衆國の對中南米貿易戻及支拂戻……………六〇

附 中南米諸國の外國貿易に於ける特殊問題……………六〇

一、現今に於ける中南米貿易の發展……………六〇

二、一九一三年乃至一九一九年間の中南米對合衆國貿易
の比較……………六六

三、一九一三年乃至一九一九年に於ける中南米貿易……………六九

四、一九一四年より一九三九年間の經濟狀態の變遷……………七六

五、世界經濟に及ぼせる戰爭の影響……………八〇

六、中南米の對外貿易に於ける大戰の影響……………八二



最近十年の中南米諸國の對世界及び對米國貿易

外務省通商局

はしがき



本書は北米合衆國關稅委員會編纂「中南米の外國貿易」に關する報告書中、主として一九二九年より一九三八年の十ヶ年間に亘る中南米二十ヶ國の對米貿易を中心とする對外貿易を檢討したもので、有益な參考資料と思料せらるゝに付通商局第五課末松島、山崎囑託をして翻譯せしめたものである。

中南米貿易統計の概要

中南米諸國の貿易統計には固有の性格があるため留保付で慎重に取扱ふ必要がある。諸國の貿易統計を全體としての中南米若くは中南米特殊地域の數字に結び付ける場合特に其の然るを知るのである。

中南米數個國の輸出入評價制度は夫々異なるのみならず、一國に付て見ても屢々改變が行はれる。或る國では評價基準にF・O・B値段を使用し、又他の國ではC・I・Fを使用する。或る國々に於ては表記價格を採用し、又他の國々に於てはその基準を公定價格に置いてゐる。斯の如き評價の

特に顯著な例はヴェネズエラ國の輸出に見られる。即石油の輸出—ヴェネズエラ國主要輸出品—is 公定價格にて指定されるが、この輸出は現在公表價格の約六〇%に値するのみである。他の例はグアテマラに於ける輸入價格決定方法である。即外國の表記價格に二五%を加へるが、此の額は運賃、保險料、手数料、その他諸費用をカバーするに足るものである。

中南米の或る國では貿易統計の輸出入表に使用される分類法が屢々變更され、或る商品に付ては過去數年間の比較を非常に困難ならしめて居る。ボリヴィア、ブラジル、ウルグアイ。ヴェネズエラ及墨西哥の輸入分類法は一九二九年—三八年の十年間に廣範圍に及ぶ改變を受けた爲に過去の統計を近年の統計と比較することは不可能な程である。

中南米諸國の貿易統計は各國が使用する通貨に各種あり、又貨幣換算率も相異し、而もその換算率の下落せる國もある。單にその國の貿易趨勢を同ふ尺度となるに過ぎない。通貨の或るもの、特に米弗にリンクしてゐるものは可成り安定してゐるが、他の通貨は頗る變動する。斯の如き通貨にて記録された統計を米弗に換算する困難は、爲替換算率の多種及特殊國に對する換算率の割當乃至多様のレートを適用される商品のために更に複雑化される。譬へば、亞爾然丁の通貨を換算する場合、換算率を調整する必要があつた。即一九三六—三八年間の換算率は或る部分は公定相場を基準となしたるも他の部分は自由相場を基準となしたるものを入手することが出来たからである。本報告中に屢々使用された爲替換算率は、輸出入統計を換算するには適して居るが、關係諸國の價格を同價値の「弗」貨に計算するには、近似値を出すにさへ不適當である。一例として、智利國のペソの公定相場は約〇・〇五弗である。然るに輸出爲替手形の相場は約〇・〇四弗であつて、貿易統計は「ペソ」に付六ペソとなつて居る。而して此の金ペソは〇・二〇六一弗に値し、貿易統計換算のみを目的として使用されるものである。

或る國の貿易経路——特にパラグアイ及ウルグアイ——はその輸出仕向地及輸入品原産地を正確に決定することすら不可能である。例へばパラグアイ國への輸出は大部分「通過名義にて」亞爾然丁國へ積出され、又亞爾然丁國へ直接輸出として記載されたものが、次には亞爾然丁國産品として其の國から再輸出される。同様にパラグアイ國輸入は亞爾然丁より大量に入るが、恐らくは亞爾然丁から再輸出されたものが多量に入つて居る。コスタ・リカ國の貿易統計は商品の輸入を原産地に依つて記録しない。

資料の或る様式は中南米の或る國の貿易状況分析には役立つであらうが、他には有用ではない。輸出價格及數量の指數は亞爾然丁、智利、及ウルグアイに於てのみ得られる。主要生産品が一個乃至數個から成つて居る國の輸出品分析に對して主要輸出品の數量と年平均價格及數量に信頼を置く外はない。輸出がより多く多様な國に對しては——譬へば墨西哥——斯の如き統計は満足なものでない。西爾然丁及智利を除き、輸入價格及數量の指數は役に立たない。

第一部 中南米の情勢及世界上的地位

中南米の自然及人文

一般に使用されてゐる中南米と云ふ言葉は北米のリオ・グランデ以南に横はる西半球の地域を意味してゐる。本報告に於てはこの言葉は上記地域中の獨立二十個國に限定することとする。此等の國は四個の地理的地域に包含される。即、南米、中米、墨西哥及西印度諸島である。

(一) 面積 及 氣候

中南米の共和制二十個國の總面積は約八、〇〇八、〇〇〇平方哩である。この總面積中、六、九五二、〇〇〇平方哩即世界陸地の一三%は南米であり、二一八、〇〇〇平方哩は中米、七六四、〇〇〇平方哩は墨西哥、七四、〇〇〇平方哩は西印度諸島である。南米の面積は北米合衆國の二・三分の一である。ブラジルは北米合衆國より約三〇〇、〇〇〇平方哩大であつて、南米大陸の二分の一近くを占めてゐる。中米六共和國の面積は、イリノイス、インディアナ、オハイオ、ミシガン及ウイスマコンシンを併せた面積よりも稍大である。墨西哥は、テキサス、アリゾナ、ニューメキシコ、カリフォルニア、オレゴンを併せた總面積よりも大なる面積を占めてゐる。西印度諸島中三つの共和國、玖瑪、ハイテイ、ドミニカは大體ネブラスカの面積に等しい。

南米の南三分の一を除き、中南米の大部分は熱帯地方に屬するが、緯度以外種々の理由に依り、この地方は多様な氣候を有してゐる。南米は南極に向つて亞弗利加よりも一、〇〇〇哩以上南寄りて温帯に深く突出してゐる唯一の南大陸である。

然し乍ら、南米は北米、歐洲或は亞細亞が北極に接近して居る程南極に接近して居ないので、その温帯は、北大陸に於ける同地帯の特長たる極端な氣候に支配されない。而も南米大陸の地形は、その最も廣大なる部分が赤道に位する。斯くの如く、此の大陸の約三分の二は熱帯に屬し、南米は世界中熱帯地方に最大の面積を有して居る。

潮流、委節風及アンデス山脈——世界最大山脈の一である——は南米の各地方の氣候に深い影響を與へて居る。南米の多數國は全く熱帯地方にあ

るが、その地域の大部分は著しき高所に位し、此地帯の氣候は溫和である。南温帯に屬する部分の四季は米國と反對である。中米の氣候は山嶽、高原及季節風に依つて大體決定される。鬱蒼たる森林に蔽はれた斜面を持つ中南米の山脈はカリブ海よりも遙に太平洋側に迫り、東部に廣い海岸平地を有してゐる。海岸平地の氣候は熱く且濕潤であつて豪雨多く、植物が繁茂してゐる。奥地の氣候は海岸よりも快適であつて高原は溫和である。中米の多數國に於ける降雨は一年を通じ順調である。墨西哥は面積廣大なるため氣候は一國內なるに不拘、最も變化に富めるものゝ一である。普通雨季及乾季の二季節に分れ、雨量は高度と緯度に著しく支配される。熱帯海岸地方及高度三千呎に達する地域の隣接地方に於ては、氣候は概ね熱く、濕潤であつて、降雨は多量である。中部墨西哥の高原地帯は總面積の約四分の三を含み高度六千呎に達して居るが、氣候は溫和である。此の地方は雨に乏しいが、墨西哥谿谷の雨量は一年平均二十五吋である。熱帯地方に位する西印度諸島の共和國に於ては緯度より推定される其の極端な氣温は北東貿易風と微風に依り幾分和らげられてゐる。此處に於ても亦、高度は氣候を決定する要素であつて熱帯及亞熱帯を温帯にかけて分布して居る。この地域全體の雨量は平均一年六十吋である。

(二) 礦物資源

中南米は重要礦物資源に富むが、鑛床の位置、運搬困難、資金不足等がその發展を遅延せしめてゐる。然し銅、錫、鉛、亞鉛、滿俺及貴金屬殊に銀の鑛床は廣く採掘されてゐる。現代工業の基礎と看做されてゐる礦物資源——石炭、鐵、石油——の中石油のみは相當の發展を遂げた。亞爾然丁、暮利比亞、伯刺西爾、智利、コロンビア及秘露は炭鑛を所有してゐるが、南米は出炭量に於て大陸中最下位にある。鐵は南米の殆ど至る處に發見されると言ふが、鑛床は大部分未發掘のまゝである。主なる鐵埋藏地は伯刺西爾、瑪瑪、智利、秘露及ヴェネズエラである。然し、或る國の鑛床は高品位鑛より成立してゐるが、その鑛脈へ到達の困難、適當なる運輸便の缺如、炭鑛所在地の僻遠等が鐵の産出を遅延させて居る理由である。南米は石油の世界的資源の一であり、亞爾然丁、暮利比亞、コロンビア、エクアドル、秘露、ヴェネズエラに油脈がある。ヴェネズエラ、コロンビア及秘露は石油の大産出國であつてヴェネズエラの外國貿易は殆ど同國の石油資源にかゝつてゐる。

南米は世界的に商業價值に富む銅鑛床を有してゐる。銅は殆ど南米各國に發見されるが、最も重要な鑛床は暮利比亞、智利、エクアドル及秘露にある。暮利比亞は著名な銅鑛地方を有し、又智利は廣大な埋藏地を有するが、其の内には世界最大の單一銅鑛と信ぜられて居るものがあり、同國は現在銅産出に於て米國に次ぎ世界第二位を占めて居る。暮利比亞は錫では第二位の大産出國である。南米に於て發見される他の金屬には、鉛、亞鉛、水銀、クロム、滿俺、蒼鉛、アンチモニー、ウォルフラム、金及銀がある。南米に於ける、差して重要ならざる礦物資源を挙げればコバルト、モリブデン、雲母、硫黄、加里鹽、石灰、大理石、瑪瑙、納瑪瑙及蛋白石である。或る物資に付て南米は唯一乃至少數の對世界供給地の一であ

る。智利は世界に於て硝石鑛床を有する唯一の國であつて有利な採掘に充分の埋藏量を有するを以て知られてゐる。然し近年人造硝石の商業用生産は智利鑛床の軍事的重要性を減少した。暮利比亞は世界稀なる錫産出地の一であつて、コロンビアの白金も亦同様である。伯刺西爾は恐らく世界最大の滿俺鑛を有してゐる。秘露は蒼鉛及バナデイウムの産額に於て第一位を占め又ヴェネズエラ及トリニダード島は世界最大のアスファルト鑛床を有し、秘露、智利は共に鳥糞の重要供給國である。

墨西哥は長い間重要な鑛産地域であつた。世界の如何なる國よりも銀を産出し、亦石油の大供給國の一に列する。銀、金、鉛、銅及石油は墨西哥經濟上の最重要礦物であるが、此の外に鐵、錫、亞鉛、水銀、アンチモニー、モリブデン、砒素、石墨及カドミウムを含む重要な鑛床を有してゐる。

(三) 森林資源

軟木は世界至る處豊富且廣範圍に散布してゐるため、中南米の輸出用木材の生産は實際的にはキャビネット・ウッドに制限されてゐる。然し南米の森林資源は廣大なため一々記述する煩を避け、此處には管主要産品を示すに止める。ヴェネズエラのみでも、其の木材は六百餘種に及ぶと稱せられる。南米の森林は、マホガニー、紫檀、黒檀、杉、胡桃、樺及糸杉の如き硬木並に松、落葉松、ポプラ、ユーカリ樹、月桂樹及バルサム木等の如き軟木を有し、又廣大なる藥草地帯がある。その他の森林産物には護謨、ココナツト、ブラジル・ナツト、トンカ・ピーズ、バラタ、ケブラチヨ及タンニン材染料木がある。

上記の木材の大部分特に硬木は中米及墨西哥にも亦發見され又一部は西印度諸共和國にもある。

(四) 農業

南米は種々の農産物を産出する。熱帯、亞熱帯地方の主要農産は珈琲、砂糖、煙草、棉花、米、カカオ、バナナ、オリブ、ピーナツツ、熱帯果實及野菜、シトロン、葡萄、生薑、その他藥味、カスタービン、タグア・ナツト、パバース・ナツト、サイザル麻及マテ茶である。温帯地方及熱帯地方の高地に於ける特殊農産物は麥、小麥、馬鈴薯、アルファルファ(むらさきうまごやし)及亞麻仁であつて、その他穀類、果實及野菜をも多量に産する。以上農産物の大部分は亦中米でも生育する。中米ではバナナ及チクルが特に重要な輸出品である。最も知られてゐる果物及野菜は實際には墨西哥で栽培される。主要熱帯産品は甘蔗、珈琲、米、ヘネケン、バナナ、ココナツツ、カカオ、パイン・アップル及數多の藥味の如きものである。西印度諸島の共和國に於ける最重要農産物は砂糖、煙草、珈琲、カカオ、バナナ、ココナツツ、棉花及ヘネケンである。

(五) 牧 畜

氣候の快適、牧場の豊富及草木の繁茂は中南米の大部分を牧畜好適地とする。畜牛は廣く行はれるが亞爾然丁、伯刺西爾、ウルグアイ、パラグアイが主要産地である。
羊はウルグアイ及亞爾然丁に於て特に重要である。養豚は中南米到る所實際に盛んである。中南米の牧畜能力は未だ充分に發揮されて居ない。遠隔邊僻の地方に位する擴大なる地域も經濟狀況次第では利用される。

(六) 人 口

人口調査は多数の中南米諸國に於いては稀に行はれるに過ぎないため、計算は實際甚だ困難である。その結果利用し得る統計は殆ど概算である。中南米二十共和國の人口は一九三七年末に一億二千三百萬と概算された。右總計の内譯は南米八八、三五〇、〇〇〇、中米七、一二五、〇〇〇、墨西哥一九、一五〇、〇〇〇、西印度諸島八、五〇〇、〇〇〇であるが、伯刺西爾一國で中南米全人口の約三分の一を占め、略二分の一が南米の人口である。然し世界陸地の一五%を占める中南米二十共和國も人口では世界全人口の六%を有するにすぎず、世界陸地の一三%を占める南米も世界總人口の四%に過ぎない。中南米二十箇國は北米合衆國の一平方哩四十一人に比し平均十五人である。中南米では他國同様住民は小地域に集團してゐる。南米全體の人口稠密度は一平方哩僅か十三人で、住民の約四分の三は全南米面積の略々四分の一に住んでゐる。アマゾン流域及バタゴニアの廣漠たる地方では一平方哩に付二人を出でない。伯刺西爾の人口稠密度は一平方哩當り十三人であるが、其の人口四千人中四分の三は海岸より百哩以内の地域に集つてゐる。全中米は一平方哩約三十三人であるがサルヴァドルは百二十七人である。墨西哥は一平方哩二十五人程度の人口密度である。西印度諸島では、ハイティは一平方哩に付二百五十五人、玖瑪は九十人で、人口最も稠密である。

中南米諸國は農村の方が多いが、然し世界的の大且つ重要な都市地方の一に數へられる南ブラジル及ラブラタ地方がある。中南米には、人口百萬以上の都市が四つ、五十萬より百萬迄の都市が四つあり、人口十萬から五十萬の都市は約四〇ある。此等都市の大多數は南米に位置する。中米には人口十萬以上のものが三都市にすぎない。墨西哥には人口百萬以上の都會が一、十萬乃至五十萬のものが四都市ある。西印度諸島共和國は人口五十萬乃至百萬の都會は僅に一、十萬乃至五十萬のもの四である。

中南米の産業

(一) 農 林 業

中南米の經濟基礎は農業であるが、或る地方にあつては牧畜である。人口の三分の二以上は農業(牧畜も含む)に従事してゐると見られてゐる。多数の中南米諸國に於て、農民の大部分は實際的に自給自足家族單位を基礎として居る。農産物の多くは、國際貿易には入らないで、僅に少數のものが中南米諸國間で取引される。而して主要食糧品産物(野菜及動物共)に關する限り中南米全體は事實自給自足の状態にあると言へる。中南米間の食料品取引を除き、米は多量に輸入される少數主要食糧品の一つである。然し中南米に於ては、多数の農産物及林産物は其の一部若くは大部分は世界市場に輸出するため産出さる。世界經濟に於ける中南米農産物の重要性は世界貿易に於て珈琲は十分の九、亞麻仁二分の一、ココア三分の一、蓖麻子種子三分の一に上ると言ふ事實が證明する。更に中南米は棉花、小麦、玉蜀黍、煙草、チクル、ヘネケン、熱帯果實、藥味、採油用胡桃及種子、護謨、硬木の丸太及挽材、染料木、タンニン材、キニイネ及その他の藥材等を産出し且大量に輸出する。

中南米諸國には單一農産物若くは此種少數産物の輸出に大部分依存してゐる國がある。一九三八年の中米全部、西印度諸島の三共和國及ボリヴィア智利、秘露及ヴェネズエラを除く全南米諸國の輸出は大部分農産物(牧畜を除く)である。前記四箇國及墨西哥は農産物よりも、鑛産物を多量に輸出する。コロンビア及エクアドルの外國貿易の大部分は實質的に農鑛兩産物であつて、ウルグアイは主として畜産物から成り立つてゐる。一九三八年の亞爾然丁輸出の四七%以上は農産物(畜産物を含まず)であり玉蜀黍、小麦及亞麻仁種子の三種は三九%である。尙その他の重要農林産物は燕麥、大麦、小麦粉、糠及ケブラチヨ糖である。一九三八年の伯刺西爾總輸出額の四五%に該當する珈琲輸出は二九六百萬弗である。珈琲、棉花、ココア及採油用胡桃及種子の農林産物四種は同國輸出貿易總額の七〇%を超える。一九三八年のブラグアイ國輸出額は八百萬弗以上で、その二七%は棉花、一八%はケブラチヨ糖、七%はマテ茶であつて、即約五二%を以上三種の産物が占めてゐる。一九三八年のコロンビア國輸出額は八百萬弗であるが、その内六一%以上は珈琲、六%はバナナである。一九三八年のエクアドル國の輸出總額は約一三百萬弗だが、その中カカオ二三%、珈琲一〇%、米六%、タグア四%以上を占める。即略四四%が以上の産物に依つて占められてゐる。

農林産品は中米の輸出に於ても大きな割合を占めてゐる。一九三八年のコスタリカ外國貿易の約八五%は珈琲、バナナ、ココアの三種である。一九三七年に於けるサルバドル外國貿易の約九〇%以上は珈琲である。一九三八年のグアテマラ外國貿易の略九〇%は珈琲及バナナであつた。以上の農林産品は又同年に於けるホンデラス外國貿易に於ても六〇%を占めてゐる。

西印度諸島共和國も亦同じく二、三種の農林産物輸出に負ふてゐる。一九三八年の玖瑪國總輸出の約八〇%は砂糖及砂糖製品であつた。ドミニカ共和國は大部分粗糖、ココア及珈琲の三産物に依存してゐる。一九三八年に於ける以上の三産物は同國輸出の八一%であつた。ハイティ外國貿易は

玫瑰、ドミニカ共和国よりも更に多様であるが。一九三八年の外國向總輸出の九七％は農産物であつた。

(二) 畜 産 業

畜産業は當初の植民地時代以來中南米の各所で行はれて來た。冷凍設備の發達、改良、種畜の廉價、且適當なる輸送の便に助成せられ、畜産業及附屬工業は急速な發達を遂げた。中南米は國際貿易上生肉、冷藏肉、冷凍肉全部の約三分の二、羊肉、仔羊肉では約二分の一及罐詰肉は殆ど其の全部を占める。中南米諸國は牛皮及覆皮に付ては世界産額の三〇％、羊皮及仔羊皮二〇％、山羊皮一〇％、馬皮一五％、野豚及豚皮約九五％を産出し以上品目の世界貿易上の割前は更に大である。

中南米諸國中、最主要畜産品輸出國は、ウルグアイ、パラグアイ及伯刺西爾である。前記諸國の内現在尙畜産物を重要輸出品として居る國はウルグアイのみである。一九三八年に於けるウルグアイ國輸出の約八四％は畜産品で、羊毛のみでも四四％を占め、殘餘の四〇％は生肉、冷藏肉、罐詰肉、皮革類、獸脂及其他の動物産品であつた。亞爾然丁の動物産品輸出は一九三八年の輸出總額の四五％以上であつた。之等の輸出は牛肉、羊毛、皮革類及同製品である。一九三八年のパラグアイ總輸出の三六％は畜産品であつて、首位は牛皮であるが、これは動物産品輸出の約三分の一に當る。伯刺西爾からも相當量の動物産品が輸出されるが、之等の商品は伯刺西爾輸出總額に比し僅少であつて（一九三八年には約九％である）、其の主要商品は皮革類、生肉、冷凍肉、冷藏肉及罐詰肉である。

(三) 鑛 業

中南米諸國には鑛産物が永く重要な意義を持ち、此等の國からの輸出は鑛産物が大部若くは殆ど全部である國もある。中南米の錫産額は世界の産額の約三分の一、銀は三分の一、銅は四分の一、石油は七分の一である。廉價燃料の不足は中南米鑛物資源の開發を遅延せしめた。相當大なる炭田があるが、其の大多數は頗る邊陲の地に在るのみならず、其の炭質は貧弱である。コロンビア、秘露、ヴェネズエラ及墨西哥は中南米に於て最大且強力なる動力資源を有し、從つて以上の國は石炭のみならず、石油及水力をも有してゐる。

中南米五箇國——ボリヴィア、智利、ヴェネズエラ、秘露及墨西哥の外國貿易は主として鑛産物から成立してゐる。

一九三八年に於けるボリヴィア國輸出總額の約九二％、此の價格三百萬弗は鑛産物であり、その中錫のみで六八％を占めてゐる。その他輸出される鑛物は銀、鉛、ウオルフラム、亜鉛、アンチモニー及銅である。智利輸出總額は一九三八年に於て約一四一百万弗に上つたが、その中四八％以上は銅棒、二二％は硝石であつて、鑛産物總輸出高は智利から外國向積出高の七八％に當る。

ヴェネズエラに於ける石油、アスファルト及同製品の輸出は一九三八年の同國總輸出額二七八百萬弗に對して、其の割合が九〇％である。一九三八年の秘露輸出額は七六百萬弗、割合で云へば五〇％以上になるが石油、銅及精銅から成り立つてゐる。墨西哥は世界中で最も種類の多い鑛産物地帯の一である。一九三八年の墨西哥輸出總額一八五百萬弗の略々七九％は鑛物及鑛産物であり、其の重要性の順位は石油及石油製品、金、銀、鉛、亜鉛、銅、アンチモニーである。劣位金屬は一九三八年の墨西哥輸出總額の殆ど三〇％を占め、貴金屬は三九％、而して石油及同製品は九％を超えてゐる。一九三八年のコロンビア國の石油、金及白金の輸出額は同國總輸出額の約三五％である。同國は白金産額に於いて世界第二位でソ聯にのみ一籌を輸して居る。エクアドル輸出の約三分の一（一九三八年は三百萬弗）は鑛産物で、主なるものは石油、シアン化物、銀及金であつた。伯刺西爾からも鑛産物は輸出されるが、輸出中の小部分である。然し、同國は滿掩鑛の産地及輸出國であるが、此の鑛石は鋼鐵製造上の戰略的物資である。鐵鑛も亦伯刺西爾で採掘されるが、主に國內市場で消費される。

(四) 製 造 工 業

本來中南米の經濟は農牧産物及森林産品、鑛産品に依存してゐるが、國に依つては製造工業が次第に重要性を帯びて來た所もある。

中南米の製造工業は熟練工の不足、多數國に於ける人口寡少及重工業發展に本質的に必要な商品の缺乏の爲遅延した、中南米の石炭及鐵の質及遠隔の地方にあることや石炭と鐵とが互に距つた場所に在ることが、工業發達を阻止する主因である。多數國にては輸入石炭及石油に依存する結果運費が高價なため、此等の燃料を奥地に運んでは斯業の利益が僅少となること、製造工業を海岸地方に偏在せしめた主なる原因である。

中南米の製造工業は主として消耗品の生産を行つてゐた。此等生産品は綿布、靴、その他布地、家具、建築材料、石鹼、化粧品、煙草、葉巻、酒、麥酒、網撚絲、味付及罐詰肉、罐詰果實、ベイント、燻寸、紙、錫罐、硝子製品及家庭用品の如きものである。尙數個國には多數の職工を使用してゐる自動車組立工場がある。中南米諸國に於ける工場的大部分は外國資本に依り經營されてゐるが、最近小工場は内國資本に依るものが次第に増加して來た。

輸出關係の主要製造工業は鑛業、農業、牧畜、森林産品でも簡單に製造されるものに從事してゐる。此等工業は肉の罐詰及冷凍、製粉、砂糖の採收及精製、葉巻製造、採油用種子及木の實壓搾等である。中南米諸國中、最も製造工業の發展せる國は亞爾然丁、伯刺西爾、智利及墨西哥である。前記の國に於て之等の諸國若くは國內の地方にて工業の盛んな所は熱帯地方ではない。亞爾然丁は製造工業に於て中南米中第一位にある。工業の活潑に行はれてゐる所は大體ブエノスアイレス地方である。一九三七年度亞爾然丁全工業の約七五％は直轄區及ブエノスアイレス地方のものである。亞爾然丁の工場は、幼稚なる農、牧、森林業産品例へば冷藏肉、冷凍肉、罐詰肉、小麥粉、油、ヘット、染料及レザー以外に非常に進歩した消耗

品を多種多量に生産する。之等工場の多くは、小工場にして一九三五年には千人以上の職工を使用するもの三六に過ぎず、然かも其の多くは食料品及肉の製造或は自動車組立工場であつた。一九三五年の亞爾然丁に於ける四〇、六一三の工場の中二九、四〇〇即約七三%は五人若くは五人以下の職工を使用してゐたにすぎぬ。消耗品の生産は伯刺西爾工業經濟の主要都市を構成してゐる。伯刺西爾に於ける最大工業の一は織物工業である。紡績工業は工業中最も重要な一部門であるが、羊毛、人絹織物、大麻、ジュート及亞麻布も亦生産される。農林加工品を除いては輸出工業には見るべきものがない。

消耗品生産に於いて智利は實質的な自足状態に達した。同國の製造工業はその使用人數から見て農業に次ぐ。労働人員の約二四%が工業部門に従業してゐるが、この工業部門は殆どサンチャゴ地方に集中してゐる。智利國製造工業の九〇%以上は此の地方に存在してゐる。輸出用の製造工業は主として鑛物、特に銅及硝石に關するものである。

墨西哥は國內の需要消耗品の大部分を生産する。尙若干の重工業もあつて建築用鋼材、レール、車輪、發條、釘及鐵線の如きものを製造する。然し墨西哥最大の工業は加工食料品、飲料品、並に粗布織物である。これらの製造に於て墨西哥は實際自足状態にある。外國向の製造工業は主として同國鑛物及森林産物粗製品である。

中南米諸國の貿易政策

中南米諸國は全部でないにしても、現在世界の多數國が採用して居る如く多種多様な貿易管理を行つてゐる。即關稅に加ふるに、其の管理には爲替管理、割當制、二國間協定、公定相場、輸出稅及輸出補助金制がある。尤も叙上の管理の凡てが中南米共和二十個國に依つて採用されてゐる譯でなく或る國では管理を非常に嚴格に行ひ、又或る國では他國よりも一層包含的である。

中南米二十個の貿易政策は單一でない。一般に、關稅は一九二九年以來増加し且高率になつた。關稅が國家歳入の大部分をなす國が多く又最初から其の目的で計畫され、政府收入の主要源泉となつてゐる國もある。又他の國では政府收入のために附加稅が課せられ、關稅は國家歳入の見地からはさして重要でなくなつた。關稅が國內産業保護及促進に充てられた國に於ては保護主義を適用したため關稅の受取高が減少した。

不況時代には中南米諸國の輸出金額が低下したことは外債支拂並に國內經濟に必要な輸入獲得を困難ならしめた。之等諸國の多くは農産物及原料の生産者である爲、主要輸出品の價格が輸入品の大部分たる製造工業品の價格に比し急落した事實により不況に陥つた。如斯不利なる事情ありしため中南米諸國は一九三〇—三九年の十年間に爲替管理を行ひ又財源保護及通貨維持に専念し、其他の貿易制限を採用した。合衆國を除いては中南米

諸國の主要市場は歐洲である。事實、南米の國々は輸出品の大部を歐洲市場に賣捌いてゐる。一九三〇—三九年の十年間、歐洲諸國の殆んど全部は嚴重な附加的貿易障壁を設け又或る國では經濟的自足政策を採用した。歐洲諸國は輸入統制及制限に努力し爲替管理、割當制度及二國間協定の如き方策を廣範圍若くは小範圍に採用した。この措置は中南米諸國の不況を更に悪化せしめた。即中南米は産物の大部分を常に歐洲に賣捌き且、輸出市場の保持、賣却品に對する支拂の安全並に彼等自身の經濟組織を守らんとする上に歐洲の貿易制限の繼續や擴張は頗る大なる關係を持つて居るからである。

一般に、南米諸國は他の中米諸國に比し爲替管理を維持してゐる國が多い。之等諸國は輸出貿易の大部分は自由爲替を直に利用し得る合衆國に向けられるので、隣國南米諸國よりも制限措置を餘り必要としなかつたことは疑ない處である。中南米諸國に於ける爲替管理は廣く且頗る多種多様である、各國は嚴格に之を實施してゐる。

或る國に於ては、外國爲替買の換算率は法律又は法令に依り決定される。他の國々にては各種の公定及非公定換算率、商品別若くは國別又は其の兩者に適用する相異なる換算率がある。又國に依つては爲替を供給國間及輸入商品別に割當てる所もある。一國が當事國に取つて重要輸出市場なるや否やに鑑みて爲替割當額を決定せんと屢々試みられた。この制度に依れば、爲替割當額にて特定國に恩典を與へ、又其の國よりの輸入に適用する換算率を定めて恩典を附與することも出来る。同様の方法で、特殊商品の輸入も恩典に浴し得る。有利な換算率に依る適當な爲替は必需商品に對して役立つ一方、他の商品は其の支拂に對し爲替割當が少いか、若くは皆無なるため輸入は不可能となる場合がある。

斯くて此の方策は、屢々國內産業保護或は助長に適用され得るのである。中南米諸國の大部分は諸外國との間に二國間協定を締結した。之等は求償、清算、或は種々のバーター協定であつて、中南米の協定國の或種輸出維持及相手國からの支拂確保、協定國間に於ける輸出入貿易の均等化、過剩生産品の交換に備へるためのものである。斯かる協定は中米諸國よりも、南米諸國に於て廣範圍に行はれてゐる。中南米諸國は常に歐洲諸國との輸出貿易均衡を保つてゐる關係上、其の輸出市場確保及擴張上、協定國から多量の物品を有利なる爲替換算率で買付ける必要に置かれて居つた。之等の協定は屢々第三國がその産物を中南米に賣込む機會を縮小せしむる結果となつた。

割當制、關稅、公定評價は中南米諸國の多くの國に依つて、その貿易管理制度の附隨的部分として使用されてゐる。割當制は特殊商品に對する爲替割當と關聯して屢々課せられ貿易協定の交渉に於ては其掛引に利用せられ、又國の財政機構の保護或は個人工業特に綿織機業保護の爲、特殊商品の輸入制限に役立てられた。

稅率の變更、稅品目の再分類、固定評價の變更權が政府當局に與へられて居るので、稅則も亦協定取極に於ける重要な條件となり、多くの中南米諸國に依つて利用された。

中南米諸國は、最近の諸外國と同様、或る種の商品の過剰に苦しめられてゐたが、その苦惱を緩和し或は他國の補助金附商品と世界市場で競争するため、輸出補助に倚賴するに至つた。此の實行方法は現在に至るも、中南米中の或る國の貿易政策の一部となつてゐる。輸出税も亦様々な目的の爲に或る國では利用されてゐる。もし或る特殊な國が或る産物を獨占乃至一部獨占して居る場合は政府の財源として同産物に對し輸出税を賦課し得る。同時に又國內で處置し得る原料品輸出——メキシコのヘネケン輸出税の如く——を阻止する爲にも使用せられ、又或る一國に依つては、通貨下落に依りて起り得る輸出商品の値上りから生ずる利益を政府に回收する爲にも利用される。

第一表 中南米面積、人口及人口密度 (註三)

國名	面積 (平方哩)	最近人口調査		最近推定		一平方哩當住民數
		年	人口	年	人口	
亞利桑那	一、〇七九、九六五	一九一四	七八八、五	一九三六	一二、七六二	一一・八
智利	五〇六、七九二	一九〇〇	一、八一六	一九三六	三、〇〇〇	五・九
伯利西	三、二七五、五一〇	一九二〇	三〇、六三六	一九三六	四二、三九五	一二・九
智倫	二九六、七一七	一九三〇	四、二八八	一九三七	四、五九七	一五・五
哥倫比亞	四四八、七九四	一九二八	七、八五一	一九三八(註一)	九、〇三三	二〇・一
秘魯	二七五、九三六	一九二八	—	一九三六(註一)	三、〇〇〇	一〇・九
巴拉圭	一六一、六四七(註二)	一九二九	六五六	一九三六	九五〇	五・九
烏拉圭	四八二、一三三	一九二六	二、六九九	一九三六	七、〇〇〇	一四・五
南米合計	七二、一五三	一九〇八	一、〇四三	一九三七	二、〇九三	二九・〇
中南米合計	三五二、〇五一	一九三六	三四、二八	一九三六	三、四二八	九・七
中南米合計	六、九五一、六九八	—	—	—	八八、二五八	一二・七
中南米合計	二、三〇〇	一九二七	四七二	一九三七	六〇七	二六・四
中南米合計	一、三、一七六	一九三〇	一、四三八	一九三七	一、六六五	一二・八
中南米合計	四、五、四五二	一九二一	二、〇〇五	一九三七(註一)	二、四六六	五・三

國名	面積 (平方哩)	最近人口調査		最近推定		一平方哩當住民數
		年	人口	年	人口	
ホンデユラス	四四、二七五	一九三〇	八五四	一九三六	一、〇〇〇	二二・六
ニカラガ	六〇、〇〇〇	一九二〇	六三八	一九三六(註一)	八五〇	一四・二
バネマ	三三、三八〇	一九三〇	四六七	一九三六	五三五	一六・五
中米總計	二一八、二八三	一九三〇	一六、五五三	一九三七	七、一三三	三二・六
墨西哥	七六四、九四四	一九三〇	—	一九三七	一九、一五四	二五・一
西印度諸島	四四、一六四	一九三一	三、九六二	一九三六	四、三七〇	九八・九
多米尼加共和國	一九、三三二	一九三五	一、四八〇	一九三六	一、五二〇	七八・六
ハイチ	一〇、二〇四	一九一八	一、六三一	一九三六(註一)	二、六〇〇	二五四・八
西印度諸島合計	七三、七〇〇	—	—	—	八、四九〇	一一五・二
中南米二十ヶ國合計	八、〇〇七、六二五	—	—	—	一二三、〇二五	一五四

註一 不確定或は推定。
 註二 約十萬平方哩のチャコ地方を含む、同地方の所有權はボリヴィアと争つてゐる。
 註三 一九三七—三八年年度國際聯盟統計年鑑及ステイツマン年鑑に據る。

中南米の對外貿易

(一) 總說

中南米は熱帯食料品、原料品及礦物の世界的重要産出國であり、又製造工業品及半工業品の大量消費國である。然し乍ら、中南米地域は斯かる産品の市場としてよりも、國際貿易に於ける海運の供給者として重要性がある。斯る地位は中南米が世界との關係に於て一部分債務者の位置であるといふ點に歸する。一九二九年—三八年の十年間に於ける、中南米二十ヶ國の外國市場(中南米諸國をも含み)向積出は世界總輸出額の九%から一〇

%であつて、世界總輸入額の六%から八%を輸入した。不況時代には、中南米の輸入は世界總額との關係に於て輸出よりも減少した。尤も輸出も幾分低下してきた。中南米の輸出は世界總輸出額より見て一九三七年に於ては一九二九年に於けるよりも多大であつたが輸入は左程でなかつた。不況時代に於ては中南米輸入品價格よりも輸出品價格が暴落したにも拘らず、中南米への輸入不振は輸出不振よりも遙かに急速であつた。従つて不況時代に於て中南米への輸入が量の點では同地方よりの輸出よりも急激に低下したことは明白である。事實、中南米の或る國から輸出された或る種の産品の數量は増加したけれども、其の産品の總價額は低下した。一九三七年に於ける中南米輸出は世界總輸出額の一〇%を超え、輸入は世界總輸入額の七%に達した。

(二) 世界 向 輸 出

近年に於ける中南米輸出貿易は一般に世界貿易の趨勢に従つて來た。一九二九年乃至一九三八年の期間に於て、輸出は一九二九年に最高水準に達し、一九三二年乃至一九三三年には最低になり、その後成り回復した。この増減は世界經濟狀態の結果であるが、主として商品價格の變動に起因して居る、尤も輸出品の實質量の變動も又要因をなして居る。一九二九年乃至一九三八年の輸出統計は第二表の如くである。

一九三二年度の中南米輸出總額は一九二九年の輸出の僅か三分の一強である。一九三六年は約三分の二であり、一九三七年は五分の四を超える。最不況時代からの輸出は急速恢復し一九三六年には一九三二年よりも價格に於て八四%、一九三七年には一三三%増大した。一九三八年には輸出が低下し、一九三六年度より稍少くなつたが、一九三二年よりは尙七六%以上多かつた。一九三九年度輸出は前年よりも多くなつて居る。

中南米は中南米諸國中主要輸出地域で總輸出の約七七%を占め、墨西哥及西印度諸島は總額の約一〇%、中米は約三%に過ぎない。一九二九年乃至一九三八年中に於ける此等地方の輸出貿易の重要性には先づ變化がなく、一九三八年は一九二九年と殆ど同様であつた。(第三表参照)

中南米の輸出貿易は大部分少數の國に集中されてゐる。事實、一九三八年及一九二九年に於ては二十ヶ國中の七ヶ國中中南米輸出總額の八五%を占めてゐる。此等の國を一九三八年輸出額順に列擧すれば亞爾然丁(中南米輸出總額の二四%)、伯刺西爾(一六%)、ヴェネズエラ(一五%)、墨西哥(二〇%)、玖瑪(八%)、智利(八%)及コロンビア(五%)である。多少の例外はあるが、七ヶ國は一九二九年乃至一九三八年を通じて略々同じ關係を維持してゐる。亞爾然丁は一九二九年及一九三八年に於いて首位に在つて、其の貿易の割合は一九二九年に於て三一%、一九三八年には二四%であつた。一九三八年に於ける亞爾然丁國輸出の重要性が少なくなつたのは、收穫不足と北米及歐洲の或る國の亞爾然丁産品購入減退が幾分影響したのに依るものであつた。伯刺西爾は一九二九年乃至一九三八年を通じて中南米諸國中重要輸出國の第二位として、その位置を維持し、その全輸出の割合は狭い範圍内で變動し一四・五%から一七%の間を動いてゐる。智利は一九二九年に於て中南米諸國中輸出國として第四位(一〇%)に位してゐた

が、一九三八年には第六位に下つた。智利の位置は、硝石輸出の平均價額及數量の低落に依り特に影響を受けた。他に中南米に於いて位置に著しき變化を見た國はヴェネズエラである。一九二九年に同國は第六位であり、全貿易額の五%であつたが、一九三八年度には第三位に上り、その割合は一五%となつた。此の様に上昇したのは主としてヴェネズエラに於ける石油輸出の大量増加に依つたものである。玖瑪は一九二九年及一九三八年に於て中南米産品輸出國として第五位であつた。同國の位置を左右する主要原因は一部分、北米との貿易に於て占めてゐる特惠關稅に負ふところが大きいである。

中南米の輸出は主に礦産物、畜産物、農産及林産物であり、農、林産物には、熱帯及亞熱帯地方の多様な産物を含んで居り、温帯地方よりの産物も亦多い。全中南米の輸出は原料及半製品が、殆んど其の大部分を占めて居る。

中南米の輸出する礦産物中、主要なるものは原油、硝石、錫、銅、銀、金及瀝青である。畜産物の積出は主として肉、獸皮、皮革及羊毛である。輸其林産物は多種類の軟木、堅木、タンニン材及染料材を含んでゐる。熱帯農産物輸出は甘蔗(粗糖及精糖)、珈琲、ココア、チクレ、バナナ、煙草、採油用種子及木の實、ヘネケン、糖蜜及ブラジル・ナツトである。其の他の農産物の輸出は、小麦、玉蜀黍、大麦、燕麥を含む穀物、棉花及亞麻仁である。

此等中南米産品は大部分輸出用として製造せられる。實際、之等産品の大部分はもし輸出市場が乏しくなれば僅に限られた國內用途の外に無い。従て商品の價格及外國の需要量は中南米諸國の經濟に深甚な影響を及ぼして來るのである。

第二表 中南米二十箇國輸出總額(一九二九—一九三八年)(註)

年 度	價 額	一九二九年及同 年以後との比較	一九三二年及同 年以後との比較
一九二九年	二、九二二・九	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%
一九三〇年	一、九九二・六	六八・四	一
一九三一年	一、四八九・七	五一一・一	一
一九三二年	一、〇三八・八	三五・七	一〇〇・〇
一九三三年	一、一四五・二	三九・三	一一〇・二
一九三四年	一、六七六・三	五七・五	一六一・四

註 北米合衆國關稅委員會編纂

年 度
一 九 三 五 年
一 九 三 六 年
一 九 三 七 年
一 九 三 八 年

價 額
百 萬 弗
一、七三八・九
一、九一一・五
二、四二〇・五
一、八三三・七

年一九二九年及同
以後との比較
%

年一九三二年及同
以後との比較
%

第三表 一九二九年—三八年間の特別年度に於ける中南米二十箇國の輸出總額 (單位百萬弗)

國 名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	價 額	輸出總額との百分率	價 額	輸出總額との百分率	價 額	輸出總額との百分率
中南米二十箇國合計 (註四)	二、九一二・九	一〇〇・〇	一、〇三八・八	一〇〇・〇	一、九一一・五	一〇〇・〇
南 米	二、二二四・六	七六・〇	七九四・四	七六・五	一、四六六・三	七六・七
亞 然 丁	九〇七・六	三一・二	三三一・四	三一・九	五三六・一	二八・〇
亞 利 比 亞 (註五)	五一一・一	一・八	一〇四・四	一・〇	三七三	一・九
利 比 亞 (註六)	四六一・五	一五・八	一七八・一	一七・二	三二一・一	一六・八
智 倫 比 亞 (註七)	二八二・八	九・七	三四・三	三・三	一一二・八	五・九
哥 倫 比 亞 (註七)	一二三・五	四・二	六六・三	六・四	八九・九	四・七
智 倫 比 亞 (註七)	一七二・二	〇・六	八・七	〇・八	一三・九	〇・七
秘 魯 (註六)	一一二・八	〇・四	七・五	〇・七	七・一	〇・四
秘 魯 (註六)	一一六・八	四・〇	三七・一	三・六	八三・三	四・四
秘 魯 (註六)	九二・〇	三・二	二七・四	二・六	七二・一	三・八
秘 魯 (註六)	一四九・三	五・一	九三・二	九・〇	一九二・七	一〇・一

國 名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	價 額	輸出總額との百分率	價 額	輸出總額との百分率	價 額	輸出總額との百分率
中 國	一〇一・一	三五	四八・八	四・七	五〇・九	二・七
コスタリカ (註七)	一八・二	〇・六	八・五	〇・八	八・三	〇・五
エル・サルヴァドル (註七)	一八・四	〇・六	五・五	〇・五	一〇・一	〇・五
グアテマラ (註五)	二四・九	〇・九	一〇・七	一・〇	一五・〇	〇・八
ホンデユラス (註七)	二四・六	〇・九	一七・六	一・七	九・一	〇・五
ニカラガア (註七)	一〇・九	〇・四	四・五	〇・五	四・二	〇・二
巴 拿 馬 (註七)	四・一	〇・一	二・〇	〇・二	四・二	〇・二
墨 西 哥 (註七)	二八四・六	九・八	九七・三	九・四	二一五・四	一一・三
西 印 度 諸 島 (註七)	三一二・六	一〇・七	九八・三	九・四	一七八・九	九・三
玖 瑪 島	二七二・四	九・三	七九・九	七・七	一五四・七	八・一
ドミニカ共和国 (註八)	二三・五	〇・八	一一・二	一・〇	一四・七	〇・七
ハイチ (註八)	一六・七	〇・六	七・二	〇・七	九・五	〇・五

第三表の二

國 名	一九三七年		一九三八年 (註三)	
	價 額	輸出總額との百分率	價 額	輸出總額との百分率
中南米二十箇國合計 (註四)	二、四二〇・五	一〇〇・〇	一、八三三・七	一〇〇・〇
南 米	一、八九八・三	七八・四	一、四二二・一	七七・六
亞 然 丁	七五七・四	三一・三	四三七・六	二三・九
亞 利 比 亞 (註五)	四六・二	一・九	三五・二	一・九
利 比 亞 (註六)	三五〇・三	一四・五	二九六・一	一六・二
智 倫 比 亞 (註六)	一九二・二	七・九	一三八・七	七・六

國名	一九三七年		一九三八年(註三)	
	輸出總額との百分率	價額	輸出總額との百分率	價額
哥倫比亞(註七)	四・三	一〇四・四	五・〇	九一・四
エクアドル(註六)	〇・六	一四・〇	〇・六	一一・七
パラグアイ	〇・四	九・〇	〇・四	八・〇
秘魯	三・八	九三・二	四・二	七七・二
ウルグアイ	三・二	七八・〇	三・二	五八・九
ヴェネズエラ(註六)	一〇・五	二五三・六	一四・六	二六七・三
中米	二・六	六二・一	三・二	五八・七
コスタリカ(註七)	〇・五	一一・五	〇・六	一一・八
エルサルヴァドル(註七)	〇・六	一五・六	〇・七	一三・五
グアテマラ(註五)	〇・七	一六・一	〇・九	一六・四
ホンデュラス(註七)	〇・四	九・六	〇・五	八・五
ニカラグア(註七)	〇・二	五・二	〇・三	四・六
バネマ	〇・二	四・一	〇・二	三・九
墨西哥(註七)	一〇・二	二四七・五	一〇・一	一八六・一
西印度諸島	八・八	二二・六	九・一	一六六・八
玖瑪	七・七	一八五・八	七・九	一四四・五
ドミニカ共和国(註八)	〇・七	一七・八	〇・八	一五・四
ハイチ(註八)	〇・四	九・〇	〇・四	六・九

註一 特記せざる限り、數字は特殊貿易を示し、商品のみにして即地金及正貨を含まず。北米合衆國關稅委員會編纂
 註二 換算率は一九二九年、一九三二年に於ては純分率二三・二二ダグレン、一九三六年、三七年、三八年に於ては一三七・一ダグレン米弗貨に據る。
 註三 全部或は一部推定。
 註四 中南米諸國輸出總額の對世界輸出總額(スペインを除く)比率は一九二九年一八・九%、一九三二年一八・二%、一九三六年一九・一%、一九三七年一九・三%、

(三) 對 外 輸 入

輸出と共に中南米の輸入も亦一九二九年度に最高調に達したが、其後輸入は著しく減退し、一九二九年乃至一九三八年の十年間に於て一九三二年には最低となつた。一九三二年後、中南米輸入貿易は可なり回復したが、一九二九年度の水準には達しなかつた。斯かる變動は世界經濟狀態により齎らされたものであつて、商品價格の變化並に對外貿易に於て移行する商品の實質量の變化に基因する。一九二九年より三八年に至る輸入統計は第四表の如くである。

一九三二年に於ける中南米輸入總計は一九二九年の約四分の一に過ぎず、一九三六年には一九二九年輸入の二分の一、一九三七年には三分の二に達した。中南米輸入は一九三六年に於て一九三二年よりも一〇〇%、一九三七年に於ては一六八%増大した。一九三八年には輸入は多少低落したが、輸出の如く急激でなく、一九三二年よりも尙ほ一四〇%多かつた。價格は幾分輸入總額を變へたが、輸出に於ける程重要ではなかつた。南米は常に中南米總輸入の七五%を超えてゐる。(一九三八年には七九%)墨西哥及西印度諸島の買付は總輸入の七%から一〇%で、中米は約五%である(第五表参照)一九二九年―三八年の間に於ては輸入市場としての前記三地域の地位關係に多少の變動があり、一九三八年に於ける三地域の割合は一九二九年に於けると殆ど同様であつた。然し乍ら輸入に於ける西印度の共和國の割合は總額の一〇・六%から八・三%に低下した。中南米の七主要輸出國は亦外國品の七大買付國でもある。一九三八年には、一九二九年と同様、全中南米輸入の略々八四%を占めてゐる。此等七箇國は外國市場に於ける主なる輸出國並に買付國ではあつたが、中南米外國貿易の輸出入双方に同様の地位を占めて居たのではなかつた。一九三八年に於ける輸入額順に列挙すれば、七主要國は亞爾然丁(中南米總輸入額の三〇%)、伯刺西爾(二〇%)、墨西哥、玖瑪、ヴェネズエラ(七%)、智利(七%)及コロンビア(六%)であつた。之等の中、一九二九年に比べて一九三八年に最大の増加を示してゐるのはヴェネズエラである。即ち一九二九年にはヴェネズエラは中南米輸入國中第七位で、總輸入の四%を占めるに過ぎなかつたが、一九三八年には七%を占めて第四位になつた。その他中南米輸入貿易に於て、増加した國は、伯刺西爾(一九二九年度一七%、一九三八年度二〇%)及コロンビア(一九二九年度五%、一九三八年度六%)

であつた。残りの四主要輸入國たる亞爾然丁、墨西哥、玖瑪及智利は輸入市場としての重要性が低落した。中南米の輸入は大部分同地方生産に對する補助的なものである。中南米諸國は地方的消費の爲に主として食料品を生産する。而して更に工業化された少數の國では直接消費の爲に、織物、服地、莫大小類及靴の如き工業製品を生産する。又或る工業國では限られた數量ではあるが永持する消耗品や製品を生産する。輸出に就て觀れば此等諸國は殆ど全部が農、牧畜、林及礦から生ずる原料に倚賴してゐる。中南米諸國の輸入は多種多様頗る變化に富み、且消費と生産用の兩品を含んでゐる。之等二つのグループの孰れか一方によつて示される比率並に各グループ内に於て輸入される商品の種類は各國毎に變り、且つ大部分は各國の經濟、購買力及國民の習慣に依るものである。消耗品の輸入には、織物、服地、味付食料品（例へば罐詰果物、牛乳、魚類及小麦粉）の如き永持しない消耗品と永持する消耗品即チラヂオ、電氣冷蔵庫、自動車、タイヤ及護謨製品の如きものの双方を含んでゐる。生産品の輸入も亦多様で、化學品、石油、石炭、農工業用機械、モーター（ガソリン及電氣）、電氣器具、ミシン、事務所用品及設備品、航空機、機關車、車輛及同附屬品、製鍊及半製鍊の鐵及鐵鋼製品を含んでゐる。

多くの中南米諸國は自國內に於ける製造工業の發展を企圖してゐる。この努力が成功する範圍に於ては、或る種製品の輸入は恐らく減少するであらう。然し、中南米住民の生活水準及購買力が彼等の努力に依つて改善されるとすれば、中南米の輸入はその性質に多少の變化はあつても縮小せられるよりも寧ろ進展するに違ひなし。

第四表 一九二九年—三八年に於ける中南米諸國輸入總額（註）

年 度	價 額 百萬弗	一九二九年との比較 %	一九三二年との比較 %
一九二九年	二、四二五・〇	一〇〇・〇%	
一九三〇年	一、七九一・五	七三・九	
一九三一年	一、〇二四・二	四二・二	
一九三二年	六八七・七	二五・五	一〇〇・〇
一九三三年	七八一・八	三二・二	一〇〇・〇
一九三四年	一、〇二七・九	四二・四	一六六・一
一九三五年	一、二三五・二	四六・八	一八三・五
一九三六年	一、二四一・〇	五二・二	二〇〇・六
一九三七年	一、六五六・九	六八・三	二六七・八

年 度
一九三八年

價 額
百萬弗
一、四八八・五

一九二九年との比較
六一・四%

一九三二年との比較
二四〇・六%

註 北米合衆國關稅委員會編纂

第五表 一九二九年—三八年間に於ける中南米二十箇國の輸入總額（註一）

國 名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	價 額	輸入總額との百分率	價 額	輸入總額との百分率	價 額	輸入總額との百分率
中南米二十箇國合計（註一）	二、四二五・〇	一〇〇・〇	六八七・七	一〇〇・〇	一、二四一・〇	一〇〇・〇
南 米	一、八七〇・六	七七・一	四五五・八	七三・七	九二八・七	七四・八
亞 爾 然 丁	八一九・五	三三・八	二一五・二	三四・八	三四七・〇	二八・〇
慕 利 比 亞（註五）	二六・一	一・一	四・七	〇・八	二〇・六	一・七
伯 刺 西 爾（註六）	四二一・七	一七・四	一〇五・八	一七・一	二四七・一	一九・九
智 利	一九六・八	八・一	二六・〇	四・二	七一・三	五・七
哥 倫 比 亞（註七）	一一三・〇	五・一	二九・二	四・七	六八・四	五・五
エ ク ア ド ル（註六）	一六・八	〇・七	四・三	〇・七	一一・一	〇・九
パ ラ グ ア イ	一三・二	〇・五	三・八	〇・六	七・三	〇・六
秘 露	七六・〇	三・一	一七・六	二・九	五〇・二	四・〇
ウ ル グ ア イ（註九）	九二・〇	三・八	二六・一	四・二	五二・七	四・二
ヴ ァ ネ ズ エ ラ（註六）	八五・五	三・五	二二・一	三・七	五三・〇	四・三
中 米	一一四・三	四・七	三九・〇	六・三	六四・〇	五・二
コ ス タ リ カ（註七）	二〇・二	一	五・五	〇・九	八・四	〇・七
エ ル ・ サ ル ヴ ァ ド ル（註七）	一七・八	〇・七	五・二	〇・八	八・四	〇・七
グ ァ ア テ マ ラ（註七）	三〇・四	一・三	七・五	一・二	一四・四	一・二

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	價額	輸入總額との百分率	價額	輸入總額との百分率	價額	輸入總額との百分率
ホンデユラス(註七)(會計年度)	一四・九	〇・六	八・四	一・四	八・八	〇・七
ニカラダ(註七)	一一・八	〇・五	三・五	〇・六	五・一	〇・四
巴 拿 馬(註六)	一九・二	〇・八	八・九	一・四	一・八・九	一・五
墨 西 哥(註七)	一八四・二	七・六	五七・六	九・三	二二七・七	一〇・三
西 印 度 諸 島	二五五・九	一〇・六	六六・三	一〇・七	一一〇・六	九・七
玖 瑪(註六)	二一六・二	八・九	五一・〇	八・二	一〇三・二	八・三
ドミニカ共和国(註十)	二二・五	一・〇	七・八	一・三	九・八	〇・八
ハイテイ(註十)(會計年度)	一七・二	〇・七	七・五	一・二	七・六	〇・六

第五表の二

國名	一九三七年		一九三八年(註三)	
	價額	輸入總額との百分率	價額	輸入總額との百分率
中南米二十箇國合計(註一)	一、六五六・九	一〇〇・〇	一、四八八・五	一〇〇・〇
南 米	一、二五七・三	七五・九	一、一八二・二	七九・四
亞 然 丁	四八二・一	二九・一	四四二・六	二九・七
利 比 亞(註五)	二二・〇	一・三	二四・四	一・六
伯 刺 西 爾(註六)	三三三・三	二〇・二	二九二・七	一九・七
智 倫 比 亞(註七)	八八・三	五・三	一〇三・二	六・九
哥 倫 比 亞(註七)	九六・一	五・八	八八・〇	五・九
エクタドル(註六)	一一・〇	〇・七	一〇・三	〇・七
巴拉ダ(註六)	九・三	〇・六	八・一	〇・五
秘 露	六〇・一	三・六	五九・四	四・〇

國名	一九三七年		一九三八年(註三)	
	價額	輸入總額との百分率	價額	輸入總額との百分率
ウルグアイ(註九)	六三・六	三・八	四八・六	三・三
ヴェネズエラ(註六)	九〇・五	五・五	一〇四・九	七・一
中 米	七九・四	四・八	七二・六	四・九
コスタリカ(註七)	一一・八	〇・七	一一・二	〇・八
エルサルヴァドル(註七)	一〇・三	〇・六	九・一	〇・六
グアテマラ(註七)	二一・〇	一・三	二一・〇	一・四
ホンデユラス(註七)(會計年度)	一〇・三	〇・六	九・一	〇・六
ニカラダ(註七)	四・二	〇・三	三・六	〇・三
巴 拿 馬(註六)	二一・八	一・三	一七・六	一・二
墨 西 哥(註七)	一七〇・二	一〇・三	一一〇・〇	七・四
西 印 度 諸 島	一五〇・〇	九・〇	一二三・七	八・三
玖 瑪(註六)	一二九・四	七・八	一〇五・九	七・一
ドミニカ共和国(註十)	一一・五	〇・七	一〇・二	〇・七
ハイテイ(註十)(會計年度)	九・一	〇・五	七・六	〇・五

註一 特記せざる限り數字は特殊貿易を示し、商品のみであり即地金及正貨は含まず。北米合衆國關稅委員會編纂。
 註二 換算率は一九二九年及一九三二年度に於ては純分率二三・二二ダグレン、一九三六年、三七年、三八年度に於ては二三・七一ダグレンの弗貨に依る。
 註三 全部或は一部推定に依る。
 註四 中南米諸國輸入總額の對世界輸入總額(スペインを除く)比率は一九二九年一六・九%、一九三二年一四・五%、一九三六年一五・六%、一九三七年一六・〇%
 一九三八年一六・二%なり。
 註五 地金及正貨を含む。
 註六 一般輸出品。
 註七 地金及正貨を含む一般輸出品。

註八 一九三六年以降は運賃を含む。
註九 公定相場。
註十 地金を含む。

(四)中南米の主要輸出市場及輸入相手國

世界主要工業國中、北米合衆國は中南米輸出の最大市場(第六表参照)で、近年全中南米輸出の約三分の一を輸入してゐる。一九三八年に於て北米合衆國は中南米輸出の三〇・二%、英國は二六・八%、獨逸は一〇・五%、佛蘭西は四・一%、伊太利は一・六%、日本は一・三%、その他(中南米諸國を含む)が三五・五%を占めてゐる。一九二九年—一九三八年間、北米合衆國及英國はその重要性に於て多少低下したとは云へ、中南米産品の市場として首位を維持してゐた。獨逸及日本は重要性を増加する一方佛蘭西と伊太利とは低下した。以上六ヶ國は一九二九年度に於て中南米輸出の七〇%、一九三八年には六五%を占めた。

北米合衆國は亦中南米輸入品の主要供給國である。(第六表参照)一九二九年の中南米市場に於ける北米の占める割合は三八・五%であつたが一九三二年には三二・二%に低落し、以來略々同水準(一九三八年には三三・九%)を保つてゐる。英國の割合は一九三二年度の二六・三%から一九三八年度にあつては一・七%に下落した。然るに獨逸は一九三二年の九・五%から一九三八年には一六・二%へと増加した。以上の北米合衆國、英國、獨逸の三國で一九三八年に於ける中南米輸入總額の六〇%以上を供給したのである。その他の重要工業國中、佛蘭西、伊太利、日本は各々約三%を供給した。此等三國中では日本のみが一九二九—三八年間に於て貿易の割合を増加した。之等六主要工業國は一九三八年に於ける中南米輸入の約七〇%を供給して居る。

第六表 一九二九年より一九三八年間に於ける中南米二十箇國の外國貿易(註六)

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	價額(千弗)	百分率	價額(千弗)	百分率	價額(千弗)	百分率
輸出總額(註二)	二九,二二七	一〇〇・〇	一〇,四二二	一〇〇・〇	一,八二六	一〇〇・〇
北米合衆國(註四、五)	九八八、〇五四	三三・九	三三二、五一一	三一九	六〇五、八八二	三三・二

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	價額(千弗)	百分率	價額(千弗)	百分率	價額(千弗)	百分率
英國	五三五、九〇四	一八・四	二〇三、四四八	一九・五	三四三、四〇五	一八・八
獨逸	二三四、七七五	八・一	七六、九一四	七・四	一四八、九七四	八・一
佛蘭西	三三八、一八	一・〇	一、一〇九	〇・一	三五、九八八	二・〇
伊太利	九一、七九九	三・一	三二、七三六	三・二	三二、四四〇	一・八
日本	一八一、七九四	六・三	六九、七六八	六・七	九一、八三一	五・〇
其他諸國	八七六、五二六	三〇・一	三二四、七六五	三・二	五六八、三三七	三・一
輸入總額(註一)	二、四一五、三九八	一〇〇・〇	六一九、三六二	一〇〇・〇	一、二〇一、九五六	一〇〇・〇
北米合衆國(註四、五)	九三一、〇一四	三八・五	一九八、八五七	三二・一	三八五、七〇四	三二・一
英國	三六二、〇三九	一五・〇	一〇一、一九七	一六・三	一六七、七〇九	一三・九
獨逸	二六一、九四四	一〇・八	五八、七二一	九・五	一八八、〇五八	一五・七
佛蘭西	一四七、七六七	六・一	六、四四二	一・〇	三五、八六〇	三・〇
伊太利	一一三、四一一	四・七	三三、七一	五・五	二四、一五五	二・〇
日本	一二四、四七九	五・二	三〇、四〇八	四・九	三九、七九九	三・三
其他諸國	六〇七、七四四	二五・二	一九〇、〇二六	三〇・七	三六〇、六七一	三〇・〇

第六表の二

國名	一九三七年		一九三八年(註一)	
	價額(千弗)	百分率	價額(千弗)	百分率
輸出總額(註二)	三、三二九、一五三	一〇〇・〇	一、八〇二、三〇〇	一〇〇・〇
北米合衆國(註四、五)	七一九、五七九	三〇・九	五四三、九八九	三〇・二
英國	四一〇、五八八	一七・六	三〇二、四五七	一六・八
獨逸	二〇四、三三六	八・八	一八八、九一五	一〇・五
佛蘭西	三七、九五六	一・一	二四、一二八	一・三
伊太利	七〇、七六八	三・〇	二八、三八三	一・六
日本	九四、九三五	四・一	七三、四八七	四・一

國名	一九三七年		一九三八年(註一)	
	額	百分率	額	百分率
その他諸國	七九〇、九九一	三四・〇	六四〇、九四一	三五・五
輸入總額(註二)	一、六二四、二〇五	一〇〇・〇	一、四六七、〇七一	一〇〇・〇
北米合衆國(註四、五)	五五二、二五九	三四・〇	四九八、三〇五	三三・九
英	二一四、五七二	一三・二	一七一、二二八	一・七
獨逸	二五〇、二七五	一五・四	二二七、七九四	一六・二
日本	四六、三六二	二・八	三七、六七九	二・六
伊太利	三八、二五七	二・四	四三、九一八	三・〇
佛蘭西	四八、五一八	三・〇	四八、二六七	三・三
その他諸國	四七三、九六二	二九・二	四二九、八八〇	二九・三

註一 暫定數。
 一九二九年—三七年間のホンデュラス貿易統計は七月三十一日に終る會計年度に依る。一九三八年度は政府の布告に依る六月三十日に終る十一月間、ハイチの資料は九月三十日に終る會計年度に據る。
 註二 エル・サルヴァドルよりの英國、日本、伊太利、佛蘭西向輸出は「その他諸國」中に含む。
 註三 コスタリカの對北米合衆國貿易は、一九二九年及一九三二年に於ける巴拿馬を含む。
 註四 コロンビア國輸出よりは次の如き金の輸出を除外して居る。一九二九年 五、〇二六、三九七弗、(北米合衆國へ五、〇一三、〇七七弗)、一九三二年—二、九四一、二九二弗、一九三六年—一、八八四、三八一弗、一九三七年—一、八〇九、七五七弗、一九三八年—一〇、五〇三、八七九弗、凡て北米合衆國向である。
 註五 北米合衆國關稅委員會議議。

第二部 中南米の對北米合衆國貿易

總 說

中南米及北米合衆國兩國間の貿易は主として兩國に於て生産される多様な商品に依存してゐる。此の相違は兩國の氣候、天然資源及經濟的發展の差異から生じたものである。

中南米は大部分熱帯地方に屬し、熱帯食料品及各種原料品の世界的な主要産地であり、更に、殆ど非工業地域である。一方、北米合衆國は温帯地方に屬し、高度に工業化されてゐる。その輸出品は主として製造工業品及温帯農業地方に共通する農産品である。兩地方間の貿易は本質的に中南米熱帯食料品並に工業原料品と北米合衆國の製品及半製品との交換から成立してゐる。

北米合衆國へは珈琲、砂糖、バナナ、チクレ、煙草、ヘネケン並にその他多くの熱帯産物、金、銀、銅、石油、硝石並にその他の鑛産物、亞麻仁、羊毛、皮革類、その他の農産及畜産物にして、米國に於て自國では自給し得ぬ品が輸出される。北米合衆國より中南米への主なる輸出品は自動車、トラック、鑛山用機械、電氣機械、農業用器具、綿布及小麦粉である。

貿易は主として需給關係の必要に伴ひ行はれるものではあるが、全部が左様な譯ではない。爲に兩地方間に於ける通商に影響を與へる重要な問題が起つて來たのである。中南米の一部は温帯に屬して居るので此の地方よりの農産物及畜産物の多くは北米と同じである。即ち兩地方は多數の同じ鑛物を産し、亞爾然丁、伯刺西爾、墨西哥及瑪瑪を含む諸國は急速に工業化を續けつゝある。此等の事實は總て中南米及北米合衆國産物の補助的性質を減少せしめて居る。然し乍ら、中南米は北米合衆國に産出しない必需食料品及原料の資源を持ち又北米合衆國に於て利用される多數の原料、之等は北米合衆國の産品だけでは國內の需要を充すに足らないもの、補足的且必要なる資源地なのである。更に中南米は工業が發展したとは云へ未だ依然として北米合衆國の多數の工業品を必要とする。

斯く貿易の根柢が大部分恒久的な地理的要素の上に置かれてゐるが、最近の十ヶ年に北米合衆國の對中南米貿易の性質及配給に於て著しい變化が生じた。北米合衆國の中南米からの輸入は一層複雑になつて來た。例へば、珈琲輸入の如き一九三二年に於ては伯刺西爾よりの總輸入が八五%であつたものが、一九三七年には五九%に減少した。現在、北米輸入貿易中比率の増加した産物中には、バスウ・ナッツ、棉實油、罐詰肉及牛皮が含まれてゐる。同様に、中南米に於ける急速なる工業化、最近の購買力増大、及新製品の技術的發展の結果、北米合衆國の對中南米輸出の配分に重大な變化が生じた。亞爾然丁、伯刺西爾、瑪瑪及墨西哥に於ける工業化の進展は近年に於ける此等諸國の二、三に各種機械類及銅板、葉銅、綿絲、苛性曹達、鋳力板及石油等の如き半製品の輸出増加を齎らした。

多くの中南米諸國に於ける經濟狀態の改善によりラヂオ・セット並に同部分品、家庭用冷蔵庫及映畫用フィルム等の米國輸出が増加するに至つた。中南米の大なる収入財源となつてゐる商品の世界的價格の變動は同地方の對合衆國及その他世界との貿易額を決定する上に特に重要となつてゐる。最近十ヶ年間に於ける北米合衆國の中南米からの輸入額の變動は多くは價格の變動を反映してゐる。但し鑛物、羊毛、皮革類、亞麻仁、小麦の

如き或る種の商品は數量の變動が、その貿易に極めて重要な影響を與へる。砂糖、珈琲、バナナ及ココアの如き主要熱帯食料品は毎年出廻り期の供給が明かに定つて居り、市況が變化したとて直に調節されない。之等商品は需要に弾力性がなないので一寸した需要上の變化があつても、價格に大影響を齎らす。即販賣數量は價格が變化したからと云つて直ちにそれに應ずるものではないのである。それ故、財界が不況となつた一九二九年後に觀られた如く、中南米の食料品に對する世界の需要が僅かに減少すると、その價格は著しく暴落した。従つて、中南米よりの北米合衆國の輸入額も非常な低下となり、又一九三二年後世界需要が増加した時、輸入額は著しく増加した。かかる状態であつたから中南米輸出國の購買力の變化は勿論大きく、更に外債及外國資本の支拂並通貨安定と國家財政を維持する必要と相俟つて中南米地方の北米合衆國及その他から輸入能力は決定的な影響を蒙つた。

中南米地方産物の世界消費の變動に伴ふ主要なる中南米輸出品の世界價格に於ける最近十ヶ年間の大幅の變動は北米合衆國の弗公債所有者(一九三六年には約十一億弗即北米合衆國が所有する總外國弗公債額の三〇%)への支拂並に中南米に於ける北米合衆國の直接投資家(約二十八億即北米合衆國の諸外國直接投資總額の四三%)への利益配當に深甚な影響を與へたのであつた。斯かる支拂に利用される外國爲替は常にその大部分が、中南米の對北米合衆國貿易に於ける輸出超過から運用されてゐたが、最近十年間の中南米諸國の大部分の對合衆國貿易バランスは、中南米産物の世界價格並に之等合衆國に於ける中南米産物に對する需要の變化に依り大幅の動きがあつた。同時に中南米の多くの國は一定額の利拂義務を有する多額の弗公債を持つてゐた。中南米諸國に關するかかる状態の結果は大部分の國が利息及償却金の支拂を履行せず、且政府の嚴しい、外國爲替並に貿易管理が實施された一九三〇—三三年の時代に特に著しい。

地方別による中南米の對北米合衆國貿易

中南米の對北米合衆國貿易を分析するに當つて、中南米諸國を四つの地理的地方或はグループに分離し得る。即第一はコロンビア、ヴェネズエラ、中米諸國、墨西哥及西印度諸島共和国から成るカリブ海沿岸諸國、第二は伯刺西爾、第三はボリウイア、智利、エクアドル及秘露より成る南米西海岸諸國、第四は亞爾然丁、パラグアイ及ウルグアイから成る南米東海岸温帯地方である。(第七表参照)此等グループの中で、貿易總額に於て(輸出併せて)對合衆國貿易の重要なものはカリブ海沿岸諸國地方であつて、平均約五〇%を占める。伯刺西爾の對合衆國貿易は總額の約三〇%、南米西海岸諸國は二五%近く、東海岸諸國は二〇%を超えてゐる。

カリブ海沿岸諸國の合衆國向け輸出は量に於て輸入を超過してゐるが、合衆國への總輸出に占める比率は、同國よりの輸入の總輸入に占める比率より低率である。伯刺西爾に於ても同様に對合衆國向け輸出は輸入を超過してゐるが、南米西海岸及東海岸諸國の貿易に於ける合衆國よりの輸入は

同國への輸出よりも一般に多かつた。同じグループの中でも或る國の貿易状況と他の國のそれとは著しく異つてゐる。之れは南米西海岸諸國に於て特にその感が深く、例へば、エクアドルの貿易は同じグループ中の他の國とは全く相違してゐる。カリブ海沿岸諸國中ではヴェネズエラ及墨西哥の貿易は礦産物が、此等二國の輸出の重要部分となつてゐるので他國と異つてゐる。

一九三八年に於ける中南米二十ヶ國の對合衆國輸出入は、地方を基礎として整理し、北米合衆國との各別貿易比率と共に第七表に示した。

第七表 北米合衆國の對中南米二十箇國貿易 (註)

國名	北米合衆國よりの輸入		北米合衆國への輸出	
	價額 千弗	總輸入との百分率	價額 千弗	輸出との百分率
カリブ海沿岸諸國	六三、〇二七	五七・七	一一四、九四四	六七・四
墨西哥	七五、一五二	七〇・九	一〇八、三六三	七六・〇
ドミニカ共和国	六、〇七二	五・三	四、六〇七	三二・一
ハイチ	四、一二六	四・三	二、九七二	四二・八
コスタリカ	六、一九五	四・九	四、六二八	四五・六
エクアドル	四、二七五	四・一	六、七五五	六一・八
ペルー	七、四九二	四・七	一一、三四六	六九・四
ボリウイア	五、八七一	四・二	六、三六二	八六・五
ニカラガ	三、〇五八	二・九	三、九六一	六七・三
パナマ	一、〇一三	一・〇	三、三四〇	八九・二
コロンビア	四五、六四三	五・一	四二、六〇一	五二・七
ヴェネズエラ	五四、九三九	五・一	三六、八五二	一三・二
伯刺西爾	七、五七六	二・四	一〇、四五八	三三・三
南米西海岸諸國	六、五五六	二・五	一、五九五	四・六
智利	二八、六二〇	二・七	二〇、四五八	一四・六
秘露	三、八二八	三・六	四、七三一	三七・五
南米東海岸温帯諸國	二〇、〇〇五	三・四	二〇、五六〇	二六・三

國名	北米合衆國よりの輸入		北米合衆國への輸出	
	額	總輸入との百分率	額	總輸出との百分率
亞爾然丁	七五、八三二	一七・六	三五、二六六	八・五
巴拉グア	八六〇	九・六	一、〇一〇	二・二
ウルグァイ	五、〇三九	一一・八	二、一八〇	四・〇

註 北米合衆國關稅委員會に依る中南米二十箇國の政府統計より編纂。

(一) カリブ海沿岸諸國

一九三八年に於てカリブ海沿岸諸國は、一群として北米合衆國より中南米總輸入額（殆ど六億弗に達する）の五五%を購し、總輸出額（同年七億五千萬弗）の四五%を賣捌いた。此等諸國の貿易が合衆國に依り占められてゐる卓越した位置は種々の素因に依るが、それら素因の中では次の如きものが擧げられるであらう。即此等諸國の産物の性質、斯かる産物に對する合衆國の大量需要、之等諸國に於ける合衆國市民に依る投資、合衆國との接近、主要貿易ルートの方向、船積の便及同諸國通貨と米弗との間に存する正規並に非正規の關係が存在すること等である。

墨西哥北部を除きカリブ海に接する諸國は熱帯地方に屬する。隨つて、同地方で産する農林産物は合衆國産物との競争品ではなく寧ろ大部分合衆國にとつて補足的なものとなつてゐる。特に著しい例外は之等地方から價格の關係で最大の輸出となつて居る砂糖と煙草である。

然し合衆國への砂糖の輸出は、同國産の補助であり、同國の生産は所要量に對し常に不足して居たのである。而して、煙草の輸出も、同じく補助的なものであるが、合衆國産のもの大部分とは異つてゐる。その他同地方より輸出される農林産物は珈琲、ココア、バナナ、チクレ、ヘネケン及家具材（主としてマホガニイ）である。

此等産物は合衆國には産出せず、無税で輸入される。此等産物に對する合衆國市場は極めて大きく、カリブ海沿岸諸國は之等を充分に供給する。實際合衆國はヴェネズエラを除くカリブ海沿岸諸國各國にとつて主要な輸出市場である。

カリブ海沿岸諸國から輸出される主要産物は石油、金及銀である。石油はヴェネズエラ國の輸出貿易に於て最も重要なものであるが、直接合衆國に販賣して居るのは輸出する石油の一五%にしか過ぎない。即ちヴェネズエラの石油は主として蘭領西印度諸島で精製せられた後精製石油として同諸島より輸出されるからである。更に、一九三二年に於て石油及石油製品に課せられた合衆國の消費税は、ヴェネズエラ石油の對合衆國輸出（直接、間接を不問）減少せしめることとなつた。之に反しカリブ海沿岸諸國の金及銀の大部分は近年合衆國の市場で非常に有利に處分されてゐる。

で、北米に向けて流れ入つてゐる。

合衆國市民に依る巨額の資金がカリブ海沿岸諸國の主要輸出品中の或るもの、特に砂糖、バナナ、チクレ、石油及銀の生産事業に投資されてゐる。一九三六年に付て見るに合衆國市民に依り中南米に投資されて居る二十八億四千七百萬弗の内十六億七千五百萬弗即五九%がカリブ海沿岸諸國に投資された。この投資はカリブ海沿岸諸國及合衆國間に於て輸出入共に貿易を活發づける要素となつた。先づ第一にカリブ海沿岸諸國の主要輸出品を運送するため航路が開設せられた。一旦航路が開かれると輸出品も相當運ばれたが、復航には、それにも増して同諸國市場に販賣される合衆國産品が持ち込まれる場合が多かつた。之等の産出地域と市場が近接してゐることは兩國間貿易を有利ならしめる要素であつた。即ち距離には必然的である長距離輸送の費用、或は註文から受渡し間の遅延に依るハンデキヤツプがないからである。更に大部分のカリブ海沿岸諸國の通貨と米弗との密接なる關係が、此等二地域間に於ける商業的、經濟的取引に或る程度の安全性を與へる作用をしてゐる。カリブ海沿岸諸國が合衆國より輸入する産物は大部分之等諸國の生産補助品であり、又輸出品は同じく合衆國に於ける生産補助品である。主として地方消費用に必需食料品を産し、輸出用に熱帯農産物、林産物及礦産物を産出するカリブ海沿岸諸國は、消費、生産用兩品を含んだ所要工業製品の大部分は外國より購入しなければならぬ。之等商品は殆ど全部合衆國から得るのである。實にカリブ海沿岸諸國に於て、合衆國はその輸入總額中遙に他を抜く首位を占める供給國であり、且十二ヶ國中六ヶ國に於ては外國よりの總購入額の三分の二以上に達して居る。

カリブ海沿岸諸國中合衆國との最大貿易國は墨西哥、玖瑪、コロンビア及ヴェネズエラである。その中玖瑪は對合衆國總輸出入割合に於て最高に位する。一九三八年度玖瑪の合衆國向輸出は一億八百萬弗で、輸入は七千五百萬弗であつた。兩國間貿易は特惠關稅待遇の恩恵に浴してゐる。而も玖瑪から輸出される砂糖及砂糖製品（玖瑪輸出貿易の八〇%を占める）は實質的な關稅特惠に加へ合衆國市場に於て相當額の割當を許可せられてゐる。

他の玖瑪主要輸出品たる煙草は總輸出額の一五%を占め、同様に北米合衆國と實質的な特惠關稅を締結してゐる。他の二つの西印度諸島共和國即ちドミニカとハイティは對合衆國輸出割合に於て玖瑪よりも少し。ドミニカの主要輸出品は砂糖であるが、ドミニカの砂糖は、合衆國に於て比較的少い割當に附せられ且同國の關稅の軽減がない。珈琲はハイティ國輸出品中の首位を占めるが、ハイティ珈琲は、合衆國に於ては餘り一般には混用されず主として歐洲市場へ賣出されてゐる。

一九三八年に於ける墨西哥の對合衆國輸出は約一億二千五百萬弗（總輸出の六七%）、同輸入は六千三百萬弗（總輸入の五八%）であつた。同年に於ける合衆國の對墨西哥貿易は、全額に於ては他の中南米の孰れの國よりも多かつた。墨西哥の輸出品としては主として銀、金、鉛、亜鉛及銅等の礦産物並に珈琲、バナナ、チクレ及ヘネケン等の農産物であり、隣國である點、貿易ルート、容易なる船積及資本投下は合衆國と墨西哥兩國の貿易振

興に重要な役割を果たしてゐる。

コスタリカを除く中米の諸國の對合衆國輸出は總輸出額の六〇%以上であり、四五%乃至六〇%を合衆國より輸入する。之等中米六ヶ國各國の對合衆國貿易は、玆瑪或は墨西哥の對合衆國貿易よりも遙かに少額であるが、グループ全體としては重要なものである。

その主要輸出品は珈琲、バナナ、ココア、金及家具材であり、以上の産品は凡て無税で合衆國に輸入される。之等諸國の中、巴奈馬は最も合衆國市場に依存して居り、一九三八年に於ける同國總輸出の殆ど九〇%が合衆國に向けられた。巴奈馬は大部分の中南米諸國のそれに反し、對米輸入は政府記録に依ると、常に對米輸出を遙に超えてゐる。合衆國より運河地帯向けの積出し並に觀光客、合衆國陸海軍及運河地帯に在住する市民に依る消費が此の輸入貿易均衡を保つ上に重要なことは疑ひない處である。

カリブ海沿岸諸國中、コロンビア及ヴェネズエラの對合衆國貿易は金額の點では墨西哥や玆瑪に次いでゐる。一九三八年に於けるコロンビア及ヴェネズエラの輸入は夫々約四千五百萬弗、五千五百萬弗で又輸出は各々四千三百萬弗、三千七百萬弗である。コロンビア外國貿易の五〇%以上は合衆國との間に行はれ、ヴェネズエラ輸入の五〇%以上は合衆國より入つて居る。然しヴェネズエラは同國輸出の大部分を合衆國に向けては輸出しない。即、同國の輸出は主として原油(約九〇%)から成り、之等は蘭領西印度諸島に於て精製され、同所より相當數量は合衆國にも積出されるが、大部分は歐洲市場に積出されるからである。コロンビアの輸出は大部分珈琲(六〇%)、石油(二五%)及バナナ(五%)であるが、珈琲、バナナは多く合衆國へ輸出され、金の相當數量も亦米國に積出されてゐる。

(二) 伯 刺 西 爾

一九三八年に於ける伯刺西爾兩國輸出總額は二億九千六百萬弗、輸入は二億九千三百萬弗であつた。伯刺西爾の對合衆國貿易は南米諸國中最大であり、且中南米三大貿易國(墨西哥、玆瑪及伯刺西爾)の一である。一九三八年には伯刺西爾兩國輸出總額の三四%(一〇一百万弗)以上が合衆國に向けて積出され亦同年伯刺西爾兩國輸入總額の二四%(七二百万弗)が合衆國から輸入された。伯刺西爾兩國貿易に於ける合衆國の重要性は同國市場の珈琲需要に依ることが大である。實際、伯刺西爾最大の輸出品である珈琲はその主要市場を合衆國に見出してゐるのである。その他合衆國に輸出される熱帯産物はココア、パシユ・ナット及ブラジル・ナットである。伯刺西爾輸出高の第二位を占める棉花は合衆國以外の國に殆んど全部が賣捌かれるが合衆國は、伯刺西爾の滿俺、皮革類にとつては重要な市場である。

合衆國市民に依つて伯刺西爾に投下された資本が同國と伯刺西爾兩國の貿易を振興するに與つて力あることは疑ふ迄も無い處であるが、此の資本もカリブ海沿岸諸國に投資されたもの程の重要性はない。一九三六年、伯刺西爾への合衆國投資は總計約二億弗即ち中南米投資總額の約七%であつた。

歐洲に近接して居ること、及歐洲大陸との交通文化的紐帯が、伯刺西爾兩國貿易に於ける合衆國の位置をカリブ海沿岸諸國に於けるそれよりも緊要ならざるものとしてゐる。とは云へ合衆國は伯刺西爾の輸出にとり第一の市場であり又伯刺西爾兩國輸入の主要供給國である。

合衆國から伯刺西爾への輸入は多種多様な消耗生産用兩品から成つて居るが伯刺西爾に於ける工業の發達の爲めに生産用品が同國の對合衆國輸入總額に於いて占める割合はカリブ海沿岸諸國のそれより大きい。合衆國から伯刺西爾への輸入品は、罐詰、食料品、ラヂオ、電気冷凍器、自動車、農工業用機械及鐵竝に鋼鐵製品の如きものである。

(三) 南 米 西 海 岸 諸 國

一九三八年に於て、南米西海岸諸國——ボリヴィア、智利、エクアドル及秘露——は合衆國から輸入總額の殆ど三〇%即一億九千七百萬弗を購入し、輸出總額の約二〇%即ち二億六千三百萬弗を輸出した。合衆國はカリブ海沿岸諸國貿易と同様の大なる割合を南米西海岸諸國貿易に於て享けてはゐないが、それにも拘らず、合衆國とカリブ海沿岸諸國貿易に影響したと同様の要因に依つて程度は低いがこの貿易も影響を受けて來て居る。南米西海岸諸國の主要港はカリブ海沿岸諸國の主要港と合衆國との距離よりも遙に遠いが、それでも歐洲市場よりは合衆國に近い。その總距離はカリブ海沿岸諸國からよりもずつと遠く、又有利な點も少い。加ふるに南米諸國に投資された合衆國資本額はカリブ海沿岸諸國への投資額よりも少く、一九三六年に觀るも、西海岸四ヶ國への合衆國投資額は略々六億弗即ち中南米總投資額の二二%に達する。更に之等諸國と合衆國との貿易はカリブ海沿岸諸國と合衆國との場合の如き各通貨の密接なる關係に依つて助勢されて居ない。

西海岸四ヶ國の對合衆國輸入額は一九三八年には五千八百萬弗で、輸出は四千九百萬弗であつた。之等四ヶ國中、智利的對合衆國貿易は金額の點では最大であり、秘露は第二位を占め、ボリヴィア及エクアドルが之に次ぐ。智利以外の西海岸諸國は大部分或は全部が熱帯地方に位置し、合衆國への輸出品は主に鑛産物及熱帯産物である。合衆國よりの輸入内容は織物、罐詰並味附食料品、自動車、農工業用機械及仕上げ、半仕上げの鐵、鋼鐵製品を含む廣範圍な消耗品、生産用品である。

一九三八年に於ける智利的輸入總額の二八%近く(二千九百萬弗)は合衆國からであり、又同年總輸出額の一五%(二千萬弗)が合衆國へ積出された。智利的輸出品は主として(八〇%)銅及硝酸鹽の鑛物である。

硝石及銅の近年に於ける値下りは智利的對合衆國輸出額を減少せしめた。合衆國の銅に對する一ポンドに付四仙の輸入消費税は同國に於て智利銅の大量消費を妨げてはゐるが、保税の上精煉して歐洲市場に再輸出するため大量の粗鑛が合衆國に積出されてゐる。

一九三八年に於ける秘露の對合衆國輸出入は各々約二千萬弗で、合衆國からの輸入は輸入總額の三四%、輸出は二六%を占めて居る。秘露の輸出中顯著なものは石油(三五%)及銅(一五%)であるが、之等は主として合衆國以外の諸國に輸出される。然し、合衆國は秘露にとり同國の長纖維棉花、砂糖及羊毛の重要な市場である。エクアドル外國貿易(輸出入共に)の略々三分の一は合衆國と取引されて居る。合衆國への輸出品は珈琲、ココア、シアン化沈澱物、金、銀及麥稈帽子である。暮利比亞は合衆國より同國輸入の二五%以上を購入するが、輸出の僅か五%を合衆國に賣るにすぎない。暮利比亞の輸出は大部分(七〇%)鉛で、殆ど全部が英國に積出される。

(四) 東海岸、南米温帯諸國

南米東海岸の温帯地方諸國——亞爾然丁、ブラグアイ及ウルグアイ——一九三八年の輸出額は五億弗を超え、輸入額も之と殆ど同額であつた。この中合衆國への輸出は四千萬弗即輸出總額の八%近く、輸入は約八千萬弗即輸入總額の一六%であつた。温帯諸國貿易に於ける合衆國の割合が少いことは種々の理由に基因すると云へやう。之等南温帯に位置してゐる諸國は、合衆國でも多量に産出する食料品の輸出國である。又位置の點から見ても、之等諸國は歐洲とは合衆國と同程度の近さにある。更に、之等諸國に於ける合衆國の投資額は、歐洲の投資額に比較しても亦他の中南米地域に於ける合衆國投資額に比較しても少額である。一九三六年に付いて云へば、亞爾然丁、ブラグアイ、ウルグアイに投資された合衆國資本は三億六千七百萬弗即中南米に於ける同種投資總額の一三%である。その他温帯諸國貿易に影響せる重要原因は最近に於ける歐洲よりの多數移民の來住並に歐洲大陸との親密なる文化紐帶である。

前記三國の中、亞爾然丁は對合衆國貿易に於て遙に他を抜いて第一位を占め、ウルグアイが第二位、ブラグアイが第三位である。實際亞爾然丁は一九三八年に於て全中南米中合衆國産品の最大市場であつた(七千六百萬弗)。然し、合衆國への輸出國としては第五位であつた(三千五百萬弗)。同年、亞爾然丁は輸入總額の一八%を合衆國より買入れ輸出總額の九%を賣つて居る。亞爾然丁の輸出入内容は主として(九〇%)穀類及畜産品で主要輸出品は小麦、玉蜀黍、亞麻仁、肉並肉製品、羊毛、皮革類及ケブラッチョである。之等産品の大部分は合衆國に於ても亦産出し、その中或る物は輸出して居るので亞爾然丁産品はその主要市場を常に歐洲諸國特に英國に求めて居た。とは云へ合衆國は亞麻仁、罐詰肉、羊毛、皮革類及ケブラッチョ精の大購買國である。

ウルグアイ國は輸入總額の略々一二%が合衆國から輸入され、輸出額の四%が合衆國に積出される。家畜及畜産物はウルグアイ輸出の八〇%を占めるが、歐洲諸國は之等産物の主要輸出市場であり、合衆國は罐詰肉羊毛、及皮革類の消費國としてのみ重要である。合衆國の對ブラグアイ貿易(輸出入共)は他の中南米諸國孰れの國との貿易よりも少額(一九三八年度二百萬弗)である。然し、一九三八年の貿易に於てはブラグアイ輸入の一〇%

輸出の一三%を占めてゐる。ブラグアイ國主要輸出品は動物及動物産品、棉花、ケブラッチョ、材木及丸太である。之等輸出品中、皮革類及ケブラッチョに對してのみ、米國は主要市場である。

北米合衆國貿易に於ける中南米の位置

最近の數年に於て、年々略々十億弗に達する貿易が中南米と合衆國間に行はれて居る。合衆國の對歐洲及對亞細亞貿易は對中南米貿易を凌いでゐるとは云へ、中南米との貿易總額も可成大きい。合衆國の對外貿易總額の約五分の一は對中南米貿易に依つて占められてゐる。

(一) 輸 入

合衆國の輸入原料國として、中南米は事實上合衆國が中南米より輸入する一切の必需食料品、礦物を含む原料品の主要供給國として重要な位置を占めてゐる。中南米からの輸入は合衆國輸入總額の五分の一より稍々多いが、之を多數の商品の一々に就て觀れば、その割合は遙かに大きい。實際、珈琲、バナナ、亞麻仁、硝石、ケブラッチョ精及葉卷の輸入品全部、ココア、甘蔗、サイザル、ヘネケン麻、羊毛及銅の輸入品の大部分は中南米から供給されて居るのである。

最近十年間に於て中南米よりの輸入額總額は非常な變動を見たが、合衆國輸入總額中引續き相當の割合を占めて來て居る。一九二九年に於ける中南米からの一般輸入は約十億弗即輸入總額の二三%であり、一九三三年には僅かに三億一千六百萬弗であつたが、それでも輸入總額の二二%であつた。四年間回復の状態が續き、一九三七年の輸入は六億七千二百萬弗の總額に達し、輸入總額の二二%を繰返した。輸入が四億五千四百萬弗に下落した一九三八年に於ては、輸入總額に對する割合は二三%に上り、一九三九年には輸入は五億一千八百萬弗に増加し、輸入總額の二二%であつた。

(第八表参照)

中南米の多數に上る産物の世界價格の引續く低落のために合衆國の對中南米輸入總額を金額の點に於て不況時代以前の水準に回復せしめることは一部失敗に歸した。近年に於ける多數商品の輸入は事實量の點では一九二九年より著しく増加したが、値段安のため、其の輸入額は甚しく少額であつた。例へば、一九三八年に中南米より輸入した珈琲量は一九二九年度よりも三五%多かつたが、輸入額にすると却つて五四%少かつたのである。

南米は合衆國の對中南米地域輸入の中首位を占める原産地であり、一九三八年には中南米からの總輸入の五七%を供給した。西印度諸島共和國は全輸入の二五%、同じく墨西哥は一一%、中米は七%を占めてゐる。一九二九年から一九三八年の間、南米及墨西哥は合衆國輸入の供給國としての重要性を減じた。西印度諸島及中米は合衆國市場に於ける關係を増加した。

第八表 中南米の北米合衆國外國貿易に於ける地位 (一九二九年—一九三九年)

年	輸 入 (一穀)		輸 出 (再輸出を含む)	
	諸外國より	中南米より	諸外國へ	中南米へ
一九二九年	四三九、九三六	一、〇一四、二七	五、二四〇、九九五	九一、一七四
一九三〇年	三〇六〇、九〇八	六七七、七二二	三、八四三、一八一	六二八、一七四
一九三一年	二、〇九〇、六三五	四七八、一六四	二、四二四、二八九	三二二、六一六
一九三二年	一、三三二、七七四	三三三、一九〇	一、六一一、〇一六	一九五、一一三
一九三三年	一、四四九、五五九	三二六、〇三九	一、六七四、九九四	二一五、六八〇
一九三四年	一、六五五、〇五五	三七〇、九三五	二、一三二、八〇〇	三〇七、二七四
一九三五年	二、〇四七、四八五	四六〇、九九七	二、二八二、八七四	三三四、三六〇
一九三六年	二、四二二、五九二	五〇一、六一〇	二、四五五、九七八	三九五、〇四五
一九三七年	三、〇八三、六六八	六七二、六一一	三、三四九、一六七	五七八、二〇三
一九三八年	一、九六〇、四二八	四五三、五一七	三、〇九四、四四〇	四九四、八二一
一九三九年 (註)	二、三一八、二五八	五一八、一六二	三、一七七、三四四	五六九、〇九八

註 暫定數。

(二) 輸 出

合衆國の對中南米輸出は近年にあつては平均五億弗にして、合衆國輸出總額の一六%から一八%を示して居り、總額に於いて、常に對中南米輸入

額より幾分少く、又同國全貿易に占める割合も少いが、中南米への輸出は合衆國の、主要製造工業の一々にとつて特に重要となるものである。中南米の購入するものは合衆國の輸出するラード、小麦粉、自動車タイヤ、綿布、ブリキ板及薄ブリキ板、油送管、家庭用電気冷蔵庫、ラヂオ受信器、鋸業用機械及鑿井機、タイプライタ、農業用具、收穫機械、自動車、その他多數製品の大部分を占めて居る。

最近十年間に於て合衆國の對中南米輸出總額の割合は、輸入よりも遙かに大きい影響を受けた。一九二九年の對中南米輸出(再輸出を含む)は、九億一千二百萬弗即輸出總額の二七%であつたが、その後減少し、一九三二年には僅かに一億九千五百萬弗、輸出總額の二二%を示した。次の五年間に幾分かの回復を見せ、一九三七年の輸出は五億七千八百萬弗に達し、總額の二七%最近數ヶ年間の最高比率を示した。一九三八年には四億九千五百萬弗即總額の二六%に低落したが、一九三九年には五億六千九百萬弗に上り、輸出總額の二八%に相當した。(第八表參照)

南米は中南米に於ける國産品の最大市場で、一九三八年には合衆國の對中南米輸出總額の六〇%を占めた。同年、西印度諸島共和國は合衆國輸出の一七%、墨西哥は一三%に近く、而して中米は一〇%であつた。墨西哥は合衆國の輸出市場として一九三九年よりも稍重要性を低めたが、南米は重要性を持ち、西印度諸島共和國及中米の位置も全く不變であつた。

北米合衆國貿易に於ける中南米各國の位置

(一) 輸 入

近年に於ける合衆國の對中南米輸入は同國輸入總額の五分の一以上であり且兩者は共に總額の約五%の原産國である。(第九表參照)一九三九年に於ける中南米七ヶ國は合衆國輸入の一〇%を占め、伯利西爾四・六%、玖瑪四・五%、亞爾然丁二・七%、墨西哥二・四%、コロンビア二・一%、智利一・八%、而してヴェネズエラ一%と相次ぎ、残餘の中南米十三ヶ國よりの綜合輸入額は合衆國輸入總額の三%を示した。

一九二九年と一九三九年の間には合衆國輸入貿易に於ける中南米主要各國の位置に或る變更が起つた。一九三九年に於て亞爾然丁を除く七ヶ國に依つて占めた輸入の割合は一九二九年よりも多少少く、智利の割合は特に目立つて少かつた。亞爾然丁は兩年共同重要關係を維持した。その他の中南米諸國の大部分よりの輸入關係は増加した。一般に之等變化の主要原因としては少數の主要中南米輸出品に於ける世界的價格變動と、之等に對する合衆國內の需要並に合衆國關稅の變化を指摘し得るであらう。

合衆國が一九三二年から三九年迄の間の何れの年か一九二九年と同程度(金額の點で)に多く輸入したのは中南米中僅に六ヶ國のみであつた。最近數年間に於ける、暮利比亞、グアテマラ、ハイテイ、パラグアイ及エル・サルヴァドルからの輸入額は一九二九年よりも遙かに多く、又一九三

七年の亞爾然丁よりの輸入額は(玉蜀黍の多量積出に依り)一九二九年よりも多少多かつたが、大部分の中南米諸國からの輸入額は最近は一九二九年よりも非常に少かつた。この事は世界大多數國からの輸入に付ても同様である。

第九表 合衆國の一九二九年乃至一九三九年間に於ける中南米二十箇國よりの輸入總額内譯表

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	金額	比總額との率	金額	比總額との率	金額	比總額との率
合衆國輸入總額	四、三九九、三六一	一〇〇.〇%	一、三三二、七四	一〇〇.〇%	二、四三二、五九二	一〇〇.〇%
内中南米よりの輸入合計	一、〇一四、一二七	二三.一	三三三、一九〇	二四.四	五〇一、六一〇	二〇.七
南	六三七、六二三	一四.五	一九九、六一七	一五.一	二八八、七二六	一一.九
亞爾然丁	一一七、五八一	二.七	一五、七七九	一.二	六五、八八二	二.七
ボリヴァイア(註二)	三七九	(註三)	六	(註三)	五六七	(註三)
伯刺西	二〇七、六八六	四.七	八二、一三九	六.二	一〇二、〇〇四	四.二
智利	一〇二、〇二五	二.三	一一、二七八	〇.九	二五、八〇四	一.一
コロンド	一〇三、五二五	二.四	六〇、八四六	四.六	四三、〇八五	一.八
エクスアド	五、八三〇	〇.一	二、三八六	〇.二	三、三三一	〇.一
ペラグアイ	五二九	(註三)	一〇〇	(註三)	五四〇	(註三)
秘魯	三〇、一六七	〇.七	三、六八五	〇.三	九、〇二三	〇.四
ウエルグエ	一八、六七七	〇.四	二、一〇四	〇.二	一一、二二三	〇.五
グエネズエラ	五二、二二四	一.二	二〇、二九四	一.五	二六、二五八	一.一
中	四一、四三三	〇.九	三三、八二九	一.八	二九、二九九	一.二
ヨスタリ	五、二〇三	〇.一	三、六八七	〇.三	三、三四七	〇.一
サルタタ	三、八三〇	〇.一	一、一四三	〇.一	五、〇二一	〇.二
グアラマ	八、四七〇	〇.二	四、五〇一	〇.三	八、三六四	〇.三

第九表の二

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	金額	比總額との率	金額	比總額との率	金額	比總額との率
合衆國輸入總額	三、〇八三、六六八	一〇〇.〇%	一、九六〇、四二八	一〇〇.〇%	二、三二八、二五八	一〇〇.〇%
内中南米よりの輸入合計	六七二、六一一	二一.八	四五三、五一七	二三.一	五一八、一六二	二二.三
南	四一八、一六五	一三.六	二五八、六九〇	一三.二	三一三、一五三	一三.五
亞爾然丁	一三八、九四〇	四.五	四〇、七〇九	二.一	六一、九二〇	二.七
ボリヴァイア(註二)	一、一三六三	(註三)	八六五	(註三)	二、〇二九	〇.一
伯刺西	一一〇、六三八	三.九	九七、九三三	五.〇	一〇七、二四三	四.六
智利	四六、六六八	一.五	二八、二六八	一.四	四〇、七二六	一.八
コロンド	五二、三四五	一.七	四九、三九八	二.五	四八、九八三	二.一
エクスアド	一、四四五	(註三)	六一一	〇.一	一、八一八	〇.一
ペラグアイ	八、四六五	〇.二	三、三八〇	〇.三	五、三五四	〇.二
秘魯	二〇七、四二一	四.九	五八、三三〇	四.四	一、二七、四七五	五.三
ウエルグエ	二二七、三三一	四.九	六二、三三一	四.七	一三四、六四七	五.六
グエネズエラ	一一七、七三八	二.七	三七、四二二	二.八	四八、九三八	二.〇
中	五、三五一	〇.一	三、五三〇	〇.三	四、五九四	〇.二
ヨスタリ	一一、八三三	〇.三	九、〇〇四	〇.七	一、八九五	〇.一
サルタタ	五、七四八	〇.一	一、九六四	〇.二	一、八九五	〇.一
グアラマ	一一、八三三	〇.三	三、五三〇	〇.三	四、五九四	〇.二

國名	一九三七年		一九三八年(註一)		一九三九年(註一)	
	金額	比總額との率	金額	比總額との率	金額	比總額との率
エックアドル	四、〇一二	〇・一%	二、五八四	〇・一%	三、五一四	〇・一%
パラグアイ	一、〇九五	(註三)	一、三三六	〇・一%	一、八〇三	〇・一%
秘露	一六、五二五	〇・五%	一、二八三	〇・二%	一三、九四八	〇・六%
ウルグアイ	一三、八〇九	〇・五%	四、七五二	〇・二%	九、三七五	〇・四%
ヴェネズエラ	二二、七七〇	〇・七%	二、〇三二	一・〇%	二二、六一二	一・〇%
中米	三六、〇〇八	一・二%	三一、三九四	一・六%	三四、九〇五	一・五%
ユスタリカ	四、四三四	〇・一%	四、一〇二	〇・二%	三、二三〇	〇・一%
サルヴァドル	八、五六三	〇・三%	五、六七二	〇・三%	六、九五七	〇・三%
グアテマラ	九、六一一	〇・三%	九、五二九	〇・五%	一〇、七二五	〇・五%
ホンデュラス	五、六七四	〇・二%	五、六九二	〇・三%	七、〇三一	〇・三%
ニカラガ	三、一〇三	〇・一%	二、四七八	〇・一%	二、九〇二	〇・一%
墨西哥	四、六二三	〇・二%	三、九二一	〇・二%	四、〇六〇	〇・二%
巴拿馬	六〇、一一〇	二・〇%	四九、〇三〇	二・五%	五六、三一九	二・四%
西印度	一五八、三一八	五・一%	一一四、四〇三	五・八%	一一三、七八五	四・九%
玖瑪	一四八、〇四五	四・八%	一〇五、六九一	五・四%	一〇四、九三〇	四・五%
ドミニカ	七、三七七	〇・二%	五、七四五	〇・三%	五、八二四	〇・三%
ハイチ	二、八九六	〇・一%	二、九六七	〇・二%	三、〇三一	〇・一%

註一 暫定數。
 註二 本國より輸入額は大部分第三國に支拂はる。(第七表参照)
 註三 一パーセントの〇・〇五以下。

(二) 地金銀輸入

中南米は長い間合衆國への金銀の重要な供給地であり、其の輸入額は一九二九年に一五二百萬米弗、一九三八年に一五六百萬米弗、一九三九年に一三三三萬米弗を示した。
 一九三九年に至り此の種貴金屬の輸入額の減少したのは主として同年に於ける銀の價格の下落と輸入量の減少に依つたものである。米國の對中南米貿易に關する地金銀輸入の重要性は商品の輸入が最も減少した時に最も大きいもので商品の輸入額の上下により變動して居る、即一九二九年に於ける金銀の輸入は中南米からの輸入額合計の約一五%に達し、一九三八年には三四%、一九三九年には二六%であつた。
 中南米より輸入の主なる貴金屬は新規採掘のもので、之は他の鑽石の輸出と同じく積出輸出國を代表して居る少數の場合には(主として亞爾然丁の如く)國際收支決済用又弗債務履行用に金銀を現送することがある。
 一九三九年中に中南米から合衆國へ輸入せられた金銀總額の九五%は八ヶ國が供給した。墨西哥だけで全部の約五〇%を供給して居り、其他の主なる供給國はコロンビア、秘露、智利である。以上の諸國からの貴金屬の輸入額は商品の輸入に比し大であつた。是を墨西哥の金銀輸入に就て觀れば一九三九年に於ける商品輸入を遙かに超えて居る(前者は六五五十萬米弗に對し、後者は五六三十萬米弗)。
 秘露の金銀輸入額は商品輸入額の約九〇%に達し、コロンビアは約五〇%、智利は二五%を超えて居る。輸入貴金屬と輸入商品とを合計すれば墨西哥は一九三九年に於て中南米諸國中合衆國への第四位輸入重要供給國より第一位になり、コロンビアは第五位より第四位となり、亞爾然丁を凌いで居る。中南米諸國中ブラジル及玖瑪は一九三九年に於て第一位乃至第二位の商品供給國であつたが、右の他金銀輸入額と商品輸入額とを合計すれば第二位、第三位に低下する。

第十表 合衆國の一九二九年、一九三八年及一九三九年に於ける中南米二十箇國よりの一般商品及金銀輸入高内譯表

國名	一九二九年		一九三八年	
	商 品	計の中南米よりの輸入率	商 品	計の中南米よりの輸入率
合衆國の中南米二十箇國よりの總輸入高	一、〇一四、二七千弗	一、一六五、九二〇千弗	一、〇〇〇千弗	六〇九、三三二千弗
米	六三七、六二三	九九、二二三	七三六、八三六	六三、二二五
			六九、七九三	三二八、四八二
			五三、九	

國名	一九二九年		一九三〇年		中南米よりの輸入率			
	商	品	金及銀	計				
亞爾然丁(註二)	一一七、五八一	七二、四八三	一九〇、〇六四	一六、三三	四〇、七〇九	三三、四三九	七三、一四八	一一、〇〇%
伯刺西	二〇七、六八六	四、六二一	二〇七、六八六	一七、八	九七、九三三	六四八	一、五一三	〇、三三
智利	一〇三、五二五	二、八一七	一〇四、八四二	九、〇	二八、二六八	九、一一一	九、三九八	一、六三
秘魯	五、八三〇	一、四二二	七、二五二	〇、六	四九、三九八	一〇、五五九	五九、九五七	九、八
ウエルグ	三〇、一六七	一、二二二	三二、三九	〇、一	一、三三六	一、三三六	一、三三六	〇、二
コスタリカ	一八、六七七	二、五	二〇、一七二	〇、一	一、四一八	一、四一八	二、四、二三一	四、〇
サルグ	五、二二四	三、八三	九、〇五七	一、六	四、七五二	一、四八六	二、一、五一八	三、五
グアタマラ	四、四三三	二、六三八	七、〇二一	三、八	二〇、〇三二	五、七一四	二、一、〇八	六、一
ホンデラス	一、二八三	一、〇五	二、三三三	〇、五	四、一〇二	六、一九	四、七二一	〇、八
ニカラガ	五、七四八	三、七三	九、四八一	一、二	五、六九二	二、〇六	九、七三三	一、〇
バネマ	五、三五一	二、九七	八、三二二	〇、五	二、四七八	一、五九一	四、〇六九	一、三
西印度	一一七、七三八	四九、六八五	一六七、四三三	〇、五	三、九二一	二、四二	四、一六三	〇、七
西印度	二二七、三三一	二五七	二二七、五八八	一、八七	一一四、四〇三	七三五	一一五、一三八	一、八九
西印度	二〇七、四二一	一三三	二〇七、五五四	一、七八	一〇五、六九一	二二二	一〇五、九一三	一、七四
西印度	八、四六五	七九	八、五四四	〇、八	五、七四五	五〇七	六、二五二	一、〇
西印度	一、四四五	四五	一、四九〇	〇、一	二、九六七	六	二、九七三	〇、五

第十表の二

國名	一九二九年		一九三〇年		中南米よりの輸入率
	商	品	金及銀	計	
南米	五、一八、一六二	一、三三、四一四	五、九四二	六、五、一、五七六	一〇〇、〇%
亞爾然丁(註二)	三、一三、一五三	五、一三三	三、一三三	三、一三三	五七、二
伯刺西	六、一、九二〇	七、二五	六、一、九二〇	六、七、〇五三	一〇、三
智利	一〇七、二四三	三	一〇七、二四三	一〇七、二四三	一、六五
コスタリカ	四〇、七二六	一〇、九九五	五、二二四	五、二二四	七、九
グアタマラ	四八、九八三	二、三、二四六	五、一、九六	七、二、二二九	一、一
ホンデラス	三、五一四	三、〇九六	三、〇九六	六、六一〇	一、〇
ニカラガ	一、八〇三	一、一、七八五	一、八〇三	一、八〇三	〇、三
バネマ	一三、九四八	一、	一三、九四八	二、五、七三三	四、〇
ウエルグ	九、三七五	一、	九、三七五	九、三七五	一、四
秘魯	二、三、六一二	四、四四一	七、八五七	二、八、〇五三	四、三
コスタリカ	三、四、九〇五	七、八五七	五、五七	四、二、七六二	六、六
サルグ	三、二、三三〇	五、五七	六、五九	三、七、八七	〇、六
グアタマラ	六、九五七	六、五九	一、七一	七、六一六	一、二
ホンデラス	一〇、七二五	一、七一	一、七一	一〇、八九六	一、七
ニカラガ	七、〇三一	二、八一七	三、五二一	九、八四八	一、五
バネマ	二、九〇二	一、三二	一、三二	四、一九二	〇、六
グアタマラ	四、〇六〇	一、三二	一、三二	一、二、九〇八	〇、六
ホンデラス	五、六、三一九	一、三二	一、三二	一、二、九〇八	一、八、七

國名	一九三九年		一九三九年(註一)	
	商出品	金及銀	計	中南米よりの輸入率
西印度	一一三、七八五	五四千弗	一一四、三二九	一七・五%
玖瑪	一〇四、九三〇	二一五	一〇五、一四五	一六・一
ドミ	五、八二四	二六六	六、〇九〇	〇・九
ハイ	三、〇三一	六三	三、〇九四	〇・五

註一 暫定数。
註二 亞爾然丁國産出の金銀は少し、輸入の大部分は正貨準備用なり。

(三) 輸 出

合衆國への輸入に對する主要なる中南米市場として擧げられてゐる七ヶ國は、順序は異なるが(第十一表参照)同じく合衆國の輸出にとり主要なる中南米市場である。一九三九年には墨西哥及玖瑪は、合衆國總輸出額約二・六%を占めて居て米國産品市場としては中南米中第一位を占めたが、輸入供給國としては各々第四位及第二位に在る。

ブラジルは合衆國總輸出額の二・五%を占め、中南米中第三位の市場であるが、合衆國輸入の源としては第一位をなす。其他合衆國に取り重要な市場は亞爾然丁、ヴェネズエラ、コロンビア及智利である。

以上の七ヶ國への賣行は一九三九年の合衆國總輸出額の一四・三%となり、一方其他の中南米十三ヶ國への合衆國よりの輸出合計は全體の三・六%に達する。

一九二九年乃至一九三九年間に於て中南米各國への合衆國輸出貿易は異動を來たした。一九三九年に於て、ヴェネズエラ及コロンビア向け輸出は全體より見て概して大であつたが、對亞爾然丁及對智利輸出は一九二九年よりも合衆國總輸出額に占める割合は著しく減少した、斯る變動に與つて力あつた要因中には貿易の範圍と運用の變化、爲替管理、通貨の下落、第三國と中南米諸國との二國間の協定及中南米の或る國の國民所得の著しい増減等を擧げ得る。

第十一表 一九二九年乃至一九三九年間に於ける合衆國對中南米國別輸出表

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	金額	總計との比率	金額	總計との比率	金額	總計との比率
合衆國輸出總額	五、二四〇、九九五	一〇〇・〇%	一、六一一、〇一六	一〇〇・〇%	二、四五五、九七八	一〇〇・〇%
内中南米二十箇國向け輸出合計	九一一、七四九	一七・四	一九五、一一三	一一・一	三九五、〇四五	一六・一
南米	五三七、一三四	一〇・三	九五、五七七	五・九	二〇二、六六〇	八・三
亞爾然丁	二一〇、二八八	四・〇	三一、一三三	一・九	五六、九一〇	二・三
ボリ	五、九八五	〇・一	二、一六三	〇・一	三、五六四	〇・一
伯刺西爾	一〇八、七八七	二・一	二八、六〇〇	一・八	四九、〇一九	二・〇
智利	五五、七七六	一・一	三、五六八	〇・二	一五、七三九	〇・六
コロン	四八、九八三	〇・九	一〇、六七〇	〇・七	二七、七二九	一・一
エアド	六、〇六九	〇・一	一、七五四	〇・一	三、三二六	〇・一
ペラ	一、五〇〇	(註二)	二八一	(註二)	三三四	(註二)
秘魯	二六、一七六	〇・五	三、九六二	〇・三	一三、四三九	〇・六
ウエル	二八、二四五	〇・五	三、二一七	〇・二	八、五三一	〇・四
ダネズ	四五、三二五	〇・九	一〇、二二九	〇・六	二四、〇七九	一・〇
中米	八八、八六三	一・七	二九、六一九	一・八	四〇、四〇三	一・七
コスタ	八、三一一	〇・二	二、四三三	〇・一	三、〇二七	〇・一
サル	八、〇五〇	〇・二	二、二八九	〇・一	二、七九四	〇・一
グア	一一、五二五	〇・二	二、八二〇	〇・一	四、五五三	〇・二
ホン	一一、八一	〇・三	四、四七三	〇・三	四、九〇〇	〇・二
ニカラ	七、〇三一	〇・一	一、九九三	〇・一	二、四一一	〇・一
巴拿馬	四、一三三	〇・八	一五、六〇九	一・〇	二二、七一七	〇・九

國名	一九二九年		一九三二年		一九三六年	
	金額	比總計との率	金額	比總計との率	金額	比總計との率
西印	一三三、八六三	二六%	三二、五二七	二〇%	六七、〇四一	三一%
西	一五一、八八九	二九%	三七、三九〇	二三%	七五、九四一	三一%
次	一二八、九〇九	二五%	二八、七五五	一八%	六七、四二一	二七%
ド	一四、一九〇	〇三%	四、六三〇	〇三%	四、五七八	〇二%
ハ	八、七九〇	〇二%	四、〇〇五	〇三%	三、九四二	〇二%
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						
イ						
テ						
ニ						
ミ						
カ						
マ						
ル						
レ						
ハ						

(第十二表参照)

粗製食料品(主に珈琲、ココア、バナナ)は主要輸入品であるが、輸出の少部分をなしてゐる。逆に製造品は輸入中極少部分であるが輸出の約四分の三である。

中南米は食料品輸入の大なる源泉をなして居り、一九三八年には合衆國に粗製食料品の全輸入の殆ど四分の三と、加工食料品類(主として砂糖)の輸入の三分の一とを供給した。然るに輸出市場として中南米は特に完成製品(主に自動車、機械類)及加工食料品類(メリケン粉、ラード、罐詰類を含む)の購買者として重要であり、一九三八年には、合衆國輸出の此種産物の五分の一以上を占めた。

中南米より輸入の約五分の二は關稅又は輸入消費稅に懸つて居る、特に加工食料品類の輸入はすべて有稅で大部分は砂糖である。之に反して粗製食料品類の輸入は極小部分が有稅となつてゐる。原料品の輸入は有稅と無稅とに平等に分れてゐる。主なる有稅品は亞麻仁、石油及皮革類で、主要無稅品は硝酸曹達、絨氈用羊毛、サイザル及ヘネケンである。銅は主として保稅工場にて精練の上再輸出として輸入せられるから、半製品の輸入は大部分無稅である。

第十二表 一九三八年に於ける合衆國の對中南米二十箇國輸出入品類別表(註二)

貿易	單位	原料品	生食料品	加工食料品及飲料	半製品	精製品	合計
輸出	千弗	一〇五、〇一四	一八七、八六四	一〇三、八八九	四三、一七九	三六三、二五〇	四四七、六〇四
輸入	同	二二六、一八四	四〇、七七九	三三八、八四二	六四、一七九	四八、二一〇	四八九、六六五
貿易總額	百分率	二二・五	四二・〇	二二・三	一三・六	七・九	一〇〇・〇
對中南米貿易の合衆國(輸出)	百分率	一八・二	七・二	三三・一	一一・二	三・九	二二・九
貿易總額に對する割合(輸入)	百分率	二一・一	四・三	二二・一	一〇・七	三・〇	一六・〇
輸入關稅狀況(無稅)	百分率	五七・二	九三・五	九一・七	八四・六	七四・七	三九・七

註一 輸出入共再輸出分を含まず。
註二 米國商務省編纂。

(二) 商品別輸入

中南米よりの輸入品は主として植物性食料品で農産物及礦物類は極僅かである。第十三表は一九二九年から一九三八年迄の間の合衆國商務省採用の第十一表商品別に依り區分した中南米より合衆國への輸入品を示して居り又一九二九年以降商品別貿易に於ける變遷の百分率を示して居る。

植物性食料品及飲料(主として砂糖、珈琲、バナナ及ココア)は第十三表商品別の大部分であり、一九三八年に於ける中南米よりの輸入總額の六〇%を表はして居る。次に重要なものは「農産物」(主として亞麻仁、煙草、カルナウバ蠟及蓖麻)で一九三八年總額の一〇%、「金屬及同製品」(主に銅)は九%となつてゐる、一九二九年から一九三二年の間中南米よりの輸入金額は六九%減少をなし、一九三二年以後多少の恢復をしたが、一九三七年及一九三八年に於ける金額は一九二九年に於ける額より非常に少なかつた。各品目の輸入品は「機械器具類」の如き小品目を除き、一九二九年より一九三二年間に減少した。貿易全體に比し十一品目中七品目の遞減率は比較的大であつた。主要品目の中、「金屬」の輸入は八七%の大減少を來した原因の主なるものは産業が不景氣の爲銅相場下落し、需要が減少した爲である。一九三三年以降輸入額は多少増加し、又二箇の品目即ち非金屬礦物(主として石油)及雜貨に於ては一九三二年に比し一九三八年は減少した。

一九三八年に於ける十一品目の内五品目の輸入は中南米よりの輸入額よりは、其の比率に於て一九二九年より小となつた。價格より見て最も重要なものは「金屬類」で、之の輸入額は一九二九年に比し七〇%に減少し、「非金屬礦物」の輸入は七二%少なく、「織物纖維」(主として羊毛、サイザル及ヘネケン)は六三%小である。「非金屬礦物」(主として石油)及其他の品目を除き各品目の輸入は一九三二年に比し一九三八年は大である。

「食用畜産物」(主に牛肉、罐詰)、「化學藥品」(主として硝酸鹽)等は非常な増加を示した。各種の輸入品の傾向は個々別々の場合に依り決定せられてゐる。例へば「非金屬礦物」(主として石油)及「金屬」(主として銅)の輸入減少は合衆國に於て消費する石油及銅の輸入に對し一九三二年合衆國利益稅が賦課せられた爲である。

「化學藥品」(主として天然硝酸鹽)は輸入減少を來した、其の理由は歐洲戰亂以降合衆國に於て用ひられる合成窒素の供給が次第に増加した爲である。
一九二九年以降の主要商品の價格暴落は一九三八年には一部恢復し、一九二九年以來或品目の輸入額の一般的減少に比しより以上與かつて力があつた。

中南米諸國より合衆國への輸入品は主要農産物及礦産物から出來て居るが、此の中南米諸國よりの輸入量及價格の上下は以上の國々の經濟に影響し輸入の商品別の相關的な重要性を有する。例へば家畜及畜産物、食用及非食料品の二品目の中南米より合衆國へ輸入せらるる額が一九二九年以降減少したのは斯る產品の主なる供給國である、亞爾然丁、墨西哥、ウルグアイ及ブラジル等にとつては非常時であつた。
最大品目なる「植物性食料品」の取引價格の下落は主として、ブラジル、玫瑰、コロンビア、墨西哥及中米六ヶ國に影響を及ぼし「其の他の農産

物」の輸入の減少は逆に、亞爾然丁、ブラジル、墨西哥、ウルグアイの經濟に影響を及ぼした。中南米より輸入する織物繊維の五分の四の資源をなす亞爾然丁の羊毛及墨西哥のヘネケンと同じく此等の産品(特に羊毛)の輸入の減少に依り影響を受けた。多數の國は木材及紙類品目(主に家具材)の輸入價額の變動により影響を受けた。「非金屬礦物」(主として石油)の輸入額の減少はヴェネズエラ及墨西哥にとり特別重大であつた。智利、祕魯、墨西哥及玖瑪は金屬類の輸入額が減少し、一方智利一國だけは「化學藥品」主として硝酸鹽)の輸入が著しく減少した。合衆國輸入總計に於ける中南米より一九二九年より一九三八年に至る年別による輸入比率は第十四表の通りである。一九三八年に於ける植物性食料品の如き主要品目の中南米よりの輸入は此の品目の合衆國輸入總計の過半を占め、食料品資源として中南米は合衆國にとり非常な重要性を表はしてゐる。

残つた唯一の品目の輸入率は合衆國輸入總計に對し中南米全輸入額の割合より大である。一九三八年中南米よりの輸入全額は略々一九二九年に於ける合衆國輸入額の比率に等しく、中南米よりの或種の輸入品は一九二九年以來其の地位が反對になつた。一九二九年に比較して、一九三八年の中南米よりの「化學藥品、同類似品」(此の種の中南米よりの輸入品は主として硝酸鹽、金屬類(主として銅)及非金屬礦物(主として石油)等の輸入は比較的少なかつた。前述の如く、一九三二年に於ける石油及銅の輸入に課せられた收入税と合成窒素の國內生産の進歩とは此等減少の相關的要因をなした。只三個の品目即ち「織物」(主として織物繊維)、「機械類」及「其の他」の品目の輸入が増加したが、之等三品目は合衆國の中南米よりの輸入額に比すれば小である。

第十三表 一九二九年、一九三二年、一九三七年及一九三八年に於ける中南米よりの主要商品別輸入表

品目	一九二九年		一九三二年		一九三七年		一九三八年	
	(A)千弗	(B)千弗	(A)千弗	(B)千弗	(A)千弗	(B)千弗	(A)千弗	(B)千弗
家畜及畜産物(食用)、(主として猪肉、牛)	二七、九五八	四、七七〇	八二・九%	一六、四八二	一四、七五四	四七・二%	二〇、九三三	二六・五%
其他家畜及畜産物(主として皮革)	六一、一六二	一〇、六七〇	八二・六%	三四、六〇六	一四、一七五	七六・八%	三三・一八	二六・五%
植物性食料品及飲料(主として咖啡、砂糖、バナナ、ココア、糖蜜)	五三三、三八八	二二八、一七七	五九・二%	三三八、六四九	二七六、〇〇〇	四八・四%	二六・五	二六・五%
其の他の農産物(主として亞麻種子、葉煙草、カルナワ、ワックス、蓖麻)	八七、二〇一	一八、九三三	七八・三%	六九、五四五	四五、三六九	四八・〇%	一三九・八	一三九・八%

品目	一九二九年		一九三二年		一九三七年		一九三八年	
	(A)千弗	(B)千弗	(A)千弗	(B)千弗	(A)千弗	(B)千弗	(A)千弗	(B)千弗
織物繊維及同製品(羊毛、サイザル麻及ヘネケン)	四七、六〇八	九、三四九	八〇・四%	四〇、七四三	一七、四一五	六三・四%	八六・三%	八六・三%
木材及紙類(主として家具材)	二、八三四	七三六	七四・〇%	一、九九八	一、五八八	四四・〇%	一一五・八	一一五・八%
非金屬礦物(石油)	七三、八八三	三三、八〇七	五五・六%	二四、三一二	二〇、三九七	七二・四%	三七・八	三七・八%
金屬及同製品(主として未精鍊銅、滿佻鐵)	一二七、三五九	一六、八五〇	八六・八%	五七、〇九九	三七、八九五	七〇・二%	一二四・九	一二四・九%
機械器具類	九六	一〇七	一一・五%	一九九	一〇八	一二・五%	〇・九	〇・九%
化學製品(主として硝酸鹽)	四〇、五九五	四、九九四	八七・七%	一七、九五〇	一四、五九六	六四・〇%	一九二・三	一九二・三%
其他	一〇、〇四三	五、八〇七	四二・二%	四、六六一	五、一〇一	四九・二%	一一二・二	一一二・二%
總計	一、〇一四、一二七	三三三、一九〇	六九・一%	六五六、二四四	四四七、三九八	五五・三%	三八・四	三八・四%

註 一九二九年及一九三二年は一般輸入高、一九三七年及一九三八年は消費輸入高。

第十四表 中南米よりの消耗輸入品目別に依る一九二九年より一九三八年迄の各國よりの全輸入品に對する輸入率表(註一)

品目	一九二九年	一九三二年	一九三七年	一九三八年(註二)
家畜及畜産物(食用)	一九・四%	一〇・六%	一四・四%	一八・〇%
其他家畜及畜産物	一五・六%	一三・三%	一五・六%	一二・三%
植物性食料品及飲料品	六五四	六〇・三%	五二・六%	五六・五%
其の他の農産物	一五・七%	一五・一%	一四・三%	一五・五%
織物繊維及同製品	四・七%	三・八%	八・五%	六・二%
木材及紙類	〇・八%	〇・四%	〇・七%	〇・七%
非金屬礦物	二四・一%	三四・一%	一五・九%	一八・六%

品目	一九二九年	一九三二年	一九三七年	一九三八年(註二)
金屬及同製品	三三・二%	二二・七%	二〇・三%	二二・九%
機械器具類	〇・二	一・三	〇・八	〇・六
化學藥品	二八・二	一〇・四	一七・五	一八・七
其他	四・六	八・一	四・六	五・六
合計	二三・一	二四・四	二一・八	二二・九

註一 一九二九年及一九三二年は一般輸入品。

註二 暫定数。

註三 米國商務省發表。

(三) 商品別輸出

米國の對中南米輸入品は主として食糧品及礦物であるのに對し、米國よりの對中南米輸出品中九五%は製品及半製品である。而して近年米國よりの輸出の過半数は「機械及自動車其他車輛、金屬及同製品」等の如き二商品目であつた。

第十五表は一九二九年より一九三八年の間の數年度に於ける米國産品の合衆國より中南米向け商品別輸出を表はして居る。又一九二九年以降商品別貿易の變化を百分率にて示して居る。

一九二九年より一九三二年の間には對中南米輸出額の合計は七九%減少した。一般に此の輸出減少は總べて各種品目に亘つた、「化學藥品」の輸出は減少率少く(六三%)、最も重要な品目である「機械及自動車其他車輛」の輸出は其の大(八七%)なるものであつた。

一九三二年以降の各種輸出は實質的には元に戻したが、輸出額に於ては如何なる年も一九二九年の輸出額に及ばなかつた。即輸出總額は一九三七年は三七%、一九三八年には四六%を一九二九年に比し減少して居る。一九三八年に於ける或る種の輸出品は一九三二年と同様少ない。之は食用及非食用動物及同製品の二品目に見られる如く妥當なことで一九三八年に於ては一九二九年に比し七〇%少い。然るに或種の商品は一九三二年以後の恢復著しいものがある。

化學製品の輸出は一九三二年乃至一九三八年の間に二倍以上となつたが、一九三八年には一九二九年より其の價格が二%減少し、「機械及自動車其他車輛」は一九三二年より一九三八年の間にほとんど五倍の増加を示したが、一九三八年は一九二八年に比し三分一減であつた。

合衆國に於ける品目別輸出は様々に傾向が岐れた爲、中南米二十ヶ國の各市場に於ける米國産品に對する多大の需要の影響する種々の因素となつた。

通貨の下落、關稅、爲替管理、第三國との二國間協定、輸出減少より來る購買力の減退及工業化の進捗等は、合衆國に於ける物價下落の爲、重要な役割を演ずるに至つた。中南米に於ける工業の發展は一九三二年以後の金屬及製品品目の並々な輸出の恢復に依り、合衆國輸出に一部反映してゐる。

然し一九三八年の輸出は總體より見て一九三二年に比し増加をなし、一九二九年から一九三二年の間には大減少をした、「機械及自動車其他車輛」「金屬及同製品」等は多大の増加をした。

中南米市場に於ては全體として合衆國輸出總額の約一六%を占めて居るが、其の大部分は「機械及自動車其他車輛」「化學製品」「家畜及畜産物」等である。(第十六表参照)

一九三八年の對中南米輸出品目の少部分のものは一九二九年に於けるものより著しく少額である。

「其他家畜及畜産物」「植物性食料品及飲料」「其他の農産物」「非金屬礦物」等の對中南米輸出割合は實質的に全中南米輸出總額よりも大なる減少をなした。

一九三八年の只一品目である「織物纖維及同製品」の輸出は、一九二九年の此の種の産品の合衆國よりの輸出に比し大であつた(第十六條参照)。

中南米向け輸出が相對的に増加したのは、其他の世界市場に對する合衆國輸出(主として棉花)の極度の減少が反映したのであらう。

第十五表 合衆國の一九二九年乃至一九三八年に於ける主要商品別中南米向け輸出表(註)

品目	一九二九年 (A)		一九三二年 (B)		一九三七年 (C)		一九三八年 (D)	
	千弗	(A)に對する増減%	千弗	(B)に對する増減%	千弗	(C)に對する増減%	千弗	(D)に對する増減%
家畜及畜産物(食用)	五二、二二九	〇	一〇、四八一	七九・九%	一三、四五三	二四・九%	一四、六九八	二八・〇%
其他家畜及畜産物	二〇、二五九	〇	三、九〇九	八〇・七%	七、一四三	七〇・五%	五、九七二	七〇・二%
植物性食料品及飲料	七〇、六九三	〇	二四、九五二	六四・七%	三四、九七一	五〇・九%	三四、七二六	五〇・九%
其他の農産物	三六、三一六	〇	九、〇六四	七五・〇%	二〇、〇九三	五四・六%	一六、四七三	八一・七%
織物纖維及同製品	八四、八九二	〇	二七、九八六	六七・〇%	三九、四六〇	六〇・二%	三三、八二二	二〇・九%

品目	一九二九年 (A)		一九三二年 (B)		一九三七年 (C)		一九三八年 (D)	
	千弗	(A)に對する(B)との比較	千弗	(B)に對する(C)との比較	千弗	(C)に對する(D)との比較	千弗	(D)に對する(B)との比較
木材及紙類	四七、六七七	◎	九、五八七	◎	二七、四四一	◎	二〇、五〇三	◎
非金屬礦物	一〇一、五六四	◎	二三、六一三	◎	五〇、一三四	◎	四六、二四六	◎
金屬及同製品	九九、六一八	◎	一七、四六二	◎	八六、二五三	◎	六四、四九五	◎
機械器具類	三一四、五四一	◎	四一、九四五	◎	二二六、二九三	◎	二〇一、一五二	◎
化學藥品	三七、〇〇七	◎	一三、六三七	◎	三〇、五四七	◎	二八、七七二	◎
其他	三七、六七五	◎	一〇、二〇八	◎	二四、五八六	◎	二二、八〇六	◎
合計	九〇二、四七一	◎	一九二、八四三	◎	七八六、五七〇、三七四	◎	四八九、六六五	◎

註 米國商務省編纂。

第十六表 一九二九年乃至一九三八年に於ける主要商品別合衆國産品の中南米向け輸出の合衆國輸出總額に對する百分率(註)

品目	一九二九年	一九三二年	一九三七年	一九三八年
	家畜及畜産物(食用)	二一・四%	一五・一%	二一・六%
其他家畜及畜産物	一七・二	一〇・八	一三・三	一四・〇
植物性食料品及飲料品	一三・九	一四・五	一五・九	九・六
其他の農産物	一一・〇	七・九	九・二	七・三
織物纖維及同製品	八・七	六・九	八・四	一〇・五
木材及紙類	二二・六	一六・七	二〇・〇	二一・八
非金屬礦物	一三・七	八・五	一〇・〇	九・四
金屬及同製品	一八・六	二〇・六	一七・二	一七・八
機械器具類	二六・二	一八・九	二六・六	二三・七

品目	一九二九年	一九三二年	一九三七年	一九三八年
	化學藥品	二四・三	一九・四	二一・九
其他	二三・〇	一六・三	二二・三	二一・四
合計	一七・五	一二・二	一七・三	一六・〇

註 米國商務省編纂。

中南米より合衆國への輸入關稅狀況

(一) 中南米及其他の諸國よりの有税及無税輸入

中南米よりの主要輸入品の内には合衆國には殆ど産出しない爲、無税扱をなして居るものもあるが、中南米より輸入總額の四〇%近くは關稅又は輸入消費税を課せられて居る產品である。一九三六年より一九三八年迄の三ヶ年間に中南米よりの輸入に對する課稅額は他の世界各國よりの之に對する課稅額よりも稍々多かつた。(第十七表参照)

歐洲よりの有税輸入に反し、中南米よりの分は僅かな商品に集中されて居る、即砂糖を第一とし、亞麻仁、石油、煙草、皮革類及罐詰牛肉が之に續く。

銅は相當重要な輸入品ではあるが、中南米よりの輸入の大部分は一九三二年の Revenue Act の特別條項に屬してゐるので、極めて低額の課税品目である。同法は精煉用、精製用、輸出用等の輸入品或は玫瑰よりの輸入品等を免稅とする旨を定めて居る。

一方課税せられる石油の輸入も多く、之も亦一九三二年の Revenue Act の條項に屬するとは云へ、大部分は國內消費用に輸入せられたもので精製及輸出のために輸入せられたものではない。

中南米よりの免稅輸入品の主なるものは珈琲、バナナ、ココア、硝石、家具材、サイザル、ヘネケン、絨氈用毛絲、銅(精煉用及再輸出)等である。

免稅又は有税輸入の比率が年々變化するのには種々の原因がある。即免稅輸入の重要性の變動は主要商品の有税表と免稅表間に於ける入替、課税目的たる產品を極度に輸入制限せん爲の高率關稅の賦課、有税品又は免稅品の需要に増減を來たす産業活動の變化、有税品及免稅品の價格變動、有税品又は免稅品の輸入増加を齎らす合衆國に於ける一時的不足、及有税品又は免稅品の何れかに需要を起す工藝の發達又は戰時狀態等に依り生じ得

るのである。

これ等總べての原因が有税品或は免税品の輸入増進を助長した。且つ右原因の一、二は或る方向に働き、同時に他の原因は反対の方向に働いた。近年中南米より合衆國への輸入品は有税品が一九二九年又は一九三二年に比し著しく増加して來た。此の増加の理由の一部は重要物資が一九二九年乃至一九三八年間に關稅を賦課せられたからであり、即一九三〇年に獸皮を無税より有税に變更し、又一九三二年には石油及同製品に對し輸入消費税を賦課したことが此の種の主なるものである。

有税輸入の増加したのは合衆國の經濟狀態の改善も亦反映し、一九三三年以降締結した貿易協定に於ける關稅許可の結果、有税品の小規模ながらの貿易發展を來した。數年間合衆國に早魃があつたため有税農産品の輸入の増加を招いたが、その最も顯著なものは、當國の一九三六年に於ける穀類減收の爲、一九三七年亞爾然丁國よりの穀類が一時的増加したことであつた。

第十七表 合衆國の一九二九年乃至一九三八年に於ける中南米及全世界よりの無税品及有税品消費輸入表(註四)

年 度	中南米よりの輸入		合衆國總輸入高	
	無税品	有税品(註二)	無税品	有税品(註二)
一九二九年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三〇年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三一年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三二年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三三年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三四年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三五年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三六年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三七年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬
一九三八年	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬	百九十九萬

註一 一九二九年及一九三二年に於ける總輸入高。
 註二 輸入消費税に依る産品を含む。
 註三 暫定數。
 註四 米國商務省調査。

(二) 從價相當率關稅

中南米よりの有税輸入品は他の世界各國よりの斯る輸入より幾分か高い平均の稅率を課せられる(第十八表參照)砂糖は全有税輸入品額の約二分の一を占めるので總輸入品の平均稅率に影響すること大なるものであるが、その砂糖の平均稅率は玫瑰瑪よりの輸入品には特惠稅率に支配されてゐるに拘らず、多くの有税輸入品よりも甚だしく高率である。

祕露、グアテマラ、ニカラグア、ドミニカ及ハイテイ等より輸入せられる砂糖は最高關稅が賦課せられたので、前記各國よりの全有税輸入の平均稅率は中南米の他の諸國よりの此の種輸入より遙に高率である。

第十八表 一九三八年に於ける合衆國の有税品の輸入即ち輸入高、推算關稅及從價率表(註)

有税輸入内譯	輸入額	推算關稅	從價相當率
中南米諸國よりの有税輸入總計	百九十九萬	百九十九萬	四七・五%
内 砂 糖	一七七	八四	五三・八
其他の有税輸入品	八〇	四三	四〇・八
其他の諸國よりの有税輸入總計	九八	四〇	三六・八
其の他の諸國よりの有税輸入總計	五八九	二一七	

註 米國商務省、關稅局、大藏省統計に據る。

(三) 商品別の課稅狀態

大體論として一九三八年に於ては中南米よりの輸入の十一品目中三品目を除く他の總べては有税であつた。(第十九表參照)其の大部分が殆んど免税となつて居る金屬類の輸入は主として智利、祕露及墨西哥よりの未精鍊銅が占めて居り、精鍊銅と再輸出用分は免税せられた。有税銅は極く僅かの量が若干の國より輸入せられ、其の大部分は之れによる製品が輸出せられた場合戻税として拂戻される。「化學藥品」の輸入は大部分免税せられるが、その主なるものは免税表に記載せられてゐる硝石の場合である。雜種輸入は多様であるが、中南米より輸入した場合は合衆國の製品として其の國へ還されるのである。

一九三八年の有税輸入品の最大割合を占めるものは「家畜及畜産物(食用)」で、亞爾然丁、ウルグアイ及ブラジルよりの牛肉罐詰及墨西哥よりの家畜等を主とし、共に課税せられる。原油の輸入は大部分消費で、従つて課税されるが、同品は「非金屬礦物」中有税輸入品の主要割合を占めて居る。最大の輸入品目である「植物性食料品」の輸入中約三分の一は有税であるが、主なる有税品は砂糖で、其の輸入額は中南米より輸入する有税品の如何なるものよりも多額である。此の品目の内免税輸入品は主として珈琲、ココア及バナナである。

小部分の商品に付ては一九二九年と一九三八年の間に課税された輸入比例が大に變化したものである。斯かる變化は慎重に説明しなければならぬ。一九三八年に於て一九二九年より有税の「其他家畜及畜産物」の輸入比例が遙に多かつたことは、一九三〇年の關稅法に於て、或種の皮革類を免税から有税に變更したことに一部の原因がある。「織物纖維」の有税輸入割合は一九二九年以來著しく上下し、之は主として羊毛の有税輸入の大きな變化の反映である。一九三二年に於ける石油に輸入消費税が課された爲、「非金屬礦物」の有税輸入は多大の増加を示した。其他の品目有税輸入率の一九三七年と一九三八年に生じた著しい減少は一部有税農産物の輸入の大減少の爲であつた。即ち農産物の國內供給は旱魃後天候が良くなつた爲増大したからである。

第十九表 一九二九年乃至一九三八年の中南米よりの品目別無税及有税商品の合衆國輸入消費品内課税表(註四)

商 品 別	一 九 二 九 年			一 九 三 八 年 (註二)		
	無 税	有税(註三)	合 計	無 税	有税(註三)	合 計
家畜及畜産物(食用)	五、七五〇	二二、二〇八	二七、九五八	二、一九九	一、二六三	一四、七五四
其他家畜及畜産物	五六五三七	四、六二五	六一、一六二	一〇、〇一〇	四、一六五	一四、一七五
植物性食料品及飲料品	三四六、七一六	一八八、六七一	五三五、三八八	一七四、八二八	一〇一、一七二	二七六、〇〇〇
其他の農産物	一〇、一〇六	七七、〇九四	八七、二〇一	一一、八九二	三三、四七七	四五、三六九
織物纖維及同製品	二四〇、二九	二二、五七九	四七、六〇八	一三、一一六	四、二九九	一七、四一五
木材及紙類	六九〇	二、一四三	二、八三四	六九二	八九六	一、五八八
非金屬礦物	七三、二九三	五九〇	七三、八八三	三、四五三	一六、九四四	二〇、三九七
金屬及同製品	一一、〇一一	一五、三三九	二七、三五九	三、四三三	三、〇六一	三七、八九五
合計	一、一〇一、〇一六	二、一〇一、〇一六	三、二〇二、〇三二	一、一〇一、〇一六	二、一〇一、〇一六	三、二〇二、〇三二
合計に對する有税百分率			七九・四%			八五・六%

商 品 別	一 九 二 九 年			一 九 三 八 年 (註二)		
	無 税	有税(註三)	合 計	無 税	有税(註三)	合 計
機械器具類	五、千	四、千	九、千	四、千	六、千	一、〇千
化學製品	四〇、二三六	三六〇	四〇、五九五	一四、一五〇	四四六	一四、五九六
其他	九、三〇六	七三七	一〇、〇四三	四、七八八	三一四	五、一〇一
合計	六七五、七三六	三三三、三九二	一、〇〇九、一二八	二六九、九二四	一七七、四七四	四四七、三九八
合計に對する有税百分率			三三・一%			三九・七%

- 註一 一九二九年に於ける一般輸入を指す。
- 註二 暫定數。
- 註三 輸入消費税に關する産物を含む。
- 註四 米國商務省調査。

(四) 各國よりの輸入品に對する課税状態

中南米諸國よりの輸入は殆ど總べて無税であるが、少數國よりの輸入は一般に有税である。(第二十表参照)
 一九三八年に於ける主として砂糖及煙草の如き玖瑪からの輸入は(特惠關稅ではあるが)殆ど全部有税であつて、アルゼンティン、パラグアイ及ウルグアイの主として罐詰肉、獸皮類、亞麻仁、羊毛及ケブラツチヨ精の如き、ヴェネズエラの主として石油の如き輸入品は大體有税であつた。一般に、合衆國産物と競争する商品を提供する中南米よりの輸入は、合衆國に産しない商品を提供する國々のものよりも關稅を賦課する割合が多い。
 一九二九年以來ポリヴィア、ブラジル、ヴェネズエラ、ドミニカ、ハイテイよりする全輸入品に對する有税輸入の比率は著しい變化が生じた。ポリヴィアからの輸入品の大部分が有税より無税になつたのは第一に有税のタンクステン鐵を合衆國に輸入するの契約をしたこと、第二に共に免稅たるアンチモニー鍍及精製錫等が近來輸入増加した爲であり、ブラジルよりの有税輸入品は明に重要性を増したが、其の理由はブラジルよりの特殊の有税輸入品例へば牛肉罐詰、或る種の皮革類、棉實油の如きものに對する合衆國の需要が増加した爲である。
 ヴェネズエラからの輸入品の有税の部分が著増したのは一九三二年に於て石油に輸入消費税を賦課した爲であり、ドミニカ共和國及ハイテイより

の砂糖輸入量の増加により、これ等の國よりの有税輸入率は近年高くなつて来た。

第二十表 一九二九年、一九三二年及一九三八年に於ける中南米二十箇國より合衆國への
消耗輸入品總輸入高に對する有税率(註五)

輸入相手國	一九二九年	一九三二年	一九三八年(註三)
南米			
亞爾然丁	六二・六%	六九・四%	七三・八%
ボリヴァ(註三)	九一・三	(註四)	一四・五
伯刺西爾	二・二	二・五	一〇・二
智利	二・八	九・六	五・四
コロンビア	〇・四	五・九	〇・三
エクスアドル	一五・六	二六・七	一八・四
パラグアイル	七四・七	八九・〇	九一・八
秘魯	一五・四	四四・二	二二・〇
ウルグアイ	七二・二	七三・一	九〇・五
中米			
グatemala	〇・一	二〇・六	七四・九
エルサルバドル	〇・四	(註四)	(註四)
コスタリカ	五・三	二・一	〇・九
サルバドル	〇・六	〇・二	〇・四
グアテマラ	五・七	一・三	一・八
ホンデュラス	一五・八	二・二	七・六
ニカラグア	七・三	四・〇	三・一
パナマ	二七・〇	三一・八	二二・九

輸入相手國	一九二九年	一九三二年	一九三八年(註三)
西印度			
玖瑪	九五・四	九一・二	九九・二
ドミニカ	二四・九	四一・四	四一・四
ハイチ	九・一	一一・八	一六・五
合計	三三・一	二八・七	三九・七

- 註一 一九二九年及一九三二年に於ける一般輸入品。
- 註二 暫定數。
- 註三 本國よりの輸入品は大部分第三國に支拂はるるものなり。
- 註四 一パーセントの一分の一以下。
- 註五 米國商務省調査。

(五) 合衆國對中南米諸國通商協定

一九三四年に初めて立法せられ、其の後三ヶ年間宛二回延長した通商協定法に基き合衆國は二十一ヶ國と通商協定を結んだ。其の中の十一は中南米諸國で即ブラジル、コロンビア、コスタリカ、玖瑪、サルヴァドル、エクアドル、グアテマラ、ハイチ、ホンデュラス、ニカラグア及ヴェネズエラである。最初の協定は玖瑪と締結せられ一九三四年九月三日より效力を生じ、最近のものは一九三九年十二月十六日に效力を生じたヴェネズエラとの協定である。

玖瑪及ヴェネズエラからの輸入を除き、右の如くにして成立した協定による中南米諸國よりの輸入は大部分免税品であり、從て、大部分の協定中讓歩は主として或る商品目を無税表に拘束することである。其の影響を受けた主要産品は珈琲、バナナ、及コ、ア實であつた。關稅の減少を見た主なる輸入品は玖瑪の砂糖、原油、燃料用油、ブラジル・ナット、蓖麻子或種の煙草(玖瑪より)及、パイナップルである。

合衆國の對中南米貿易尻及支拂尻

合衆國は全體としては對中南米貿易に於て常に輸入超過となつて居た。只一九二九年より一九三九年間の中、一九三八年及一九三九年に於ては合衆國の對中南米輸出は輸入額を超過した。これ等の輸入超過は廣幅に増減した。

一九三二年に於ける中南米よりの輸入は同地域への輸出を超過すること一億六千五百五十萬弗即中南米に對する合衆國輸出の五〇%以上に當る。一九三〇年には四千九百萬弗即合衆國輸出の約八%、一九三七年には九千四百萬弗即合衆國輸出の約一六%に當る、中南米は全部が債務國地方であるので若し合衆國に拂ふべき債務の利息や合衆國の投資に依る収益が支拂はれるならば、中南米よりの總輸出額(金、銀を含む)は總輸入額を超過する筈である。中南米は單に米國産品の支拂債務への利息や直接投資に於ける利益の送金に備へるため資金を獲得せねばならぬのみならず、合衆國市民より几帳面に買入れた爲の運賃や其他諸費用を支拂ふ資金も亦得なければならぬ(第二十一表参照)中南米は合衆國其他の國々への商品の賣上を米國に對する債務の決済に充當して居るのみならず、中南米諸國を旅行する合衆國市民の落す金額(一九三八年に六千八百六十萬弗に上る)或は中南米に於ける合衆國の諸協會の支出金(三百三十萬弗)或は合衆國に對する金銀の現送一億四千九百九十萬弗も債務決済の一助となつて居る。然し近年はこれ等各種よりの金額は合衆國に送金すべき總額には足りなくなつて居る。

一九三九年の終りの四ヶ月に於ける合衆國の對中南米輸出の急速なる増加は同年の輸入より輸出を斯くの如く大ならしめた。然るに中南米は適當な支拂手段がなくては漠然と合衆國産品の買付量を増加することは出来ない。一般に輸入に對する支拂方法は金、銀、信用、商品及サービスである。假令新たに採掘せられた金銀が増加したにしても中南米の金保有高は多量の合衆國輸出入の支拂には充分ではない。輸出の増加は信用の擴大により決済されるかも知れないが結局は増加した債務を辨済するために資金を得なければならぬのであるから此の事は單に一時の便法に過ぎない。

假りに第三國向の中南米輸出が増加し、之により合衆國に支拂ふ自由爲替が得れるならば中南米向合衆國輸出に於ける増加も亦處理することが出来るであらう。然し、現在の狀態に於ては、第三國市場に對する中南米輸出を合計しても増加はしないであらうし、若し増加するとしても、中南米産品の主要なる市場は(合衆國以外の)、軍需資材購入用の自由爲替供給を慎重に節用してゐる歐洲なので、輸出する中南米諸國に利用させる自由爲替の増加は疑問である。故に若し合衆國が中南米に對して輸出貿易を促進し且つ永久に増加した貿易を維持せんとするならば、合衆國は先づ以て自ら支拂方法を準備してやらねばならない、即中南米諸國をして合衆國市場に彼等の産品をより多く賣込ませしめる様にしてやることである。

一九二九年より一九三八年までの合衆國と中南米間の支拂残高の統計は第二十一表に示す通りである。右表は慎重に説明せねばならぬ、即或種の品目は概算であり、其他のもの統計は不明なものもある。商品別貿易統計は正確なものではなく、普通双方の表から除かれて居る再輸出品(輸入及輸出を含む)が這入つて居る。合衆國と中南米間の双方の支拂残高を分析して見ると、第三國との三角的取引を考慮に入れてある、之れは表が一國と他の世界各國との取引に關する場合は含まないものである。例へば(其の表の最後の項目)正味差引は支拂残高の「不均衡」を表はさない

であらう。何故ならば此の項目は表中に誤記や省略がある上に他の諸國との取引によつて決済される正味差引残高を表はしてゐるからである。

第二十一表 一九二九年乃至一九三八年に於ける合衆國對中南米二十箇國の諸支拂一部差引残高表(註十一)

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
貿易及交通關係勘定					
中南米向け輸出商品(註一)	百萬弗 九一・一八	百萬弗 六二八・四	百萬弗 三二二・八	百萬弗 一九四・六	百萬弗 二一五・六
中南米よりの輸入商品(註一)	一、〇二四・〇	六七七・八	四七八・三	三三三・一	三二六・〇
差引	一、〇二二・二	四九四・四	一六五・五	一一八・五	一〇〇・四
船積みに依る中南米よりの受取勘定(註二)	三三二・八	二二・六	一六・三	八・二	四・五
合衆國に於ける中南米旅行者の經費	一九七	二四四	一六・八	一〇・六	九・二
中南米に於ける合衆國旅行者の經費	六三・四	八二・七	六七・二	五二・〇	四〇・二
中南米に於ける合衆國學校に對する支拂(註三)	九〇	八〇	七・二	五・〇	三・九
中南米よりの受入利子	八七・六	九五・五	八〇・五	四六・八	三七・三
中南米直接投資に對する収益		二〇・七	四八・〇	三〇・〇	四〇・〇
差引純受取高(註三、註五)		一七二・五	八七・二	三八・六	四六・九
貿易及交通勘定總差引残高		一一三・一	七八・三	八九・九	五三・五
地金銀勘定					
中南米よりの地金實際輸入高	八九九	一六五・一	二〇〇・七	五一・三	一〇・二
中南米よりの地銀實際輸入高	四九九	三二・九	二〇・七	一三・九	二〇・一
合	一三九・八	一九八・〇	二二一・四	六五・二	三〇・三
資本勘定					
中南米よりの公社償還及減價資金受入(註六)		三九・三	八三・〇	三七・〇	一九・二
抵當物件取引に依る公表資本移動總額(註五、註七)					
短期銀行資金に依る公表資本移動總額(註五、註七)					
紙幣の公表せられたる輸出と輸入と正味高(註八)	六七	七〇	三一・〇	一四・四	二・六

差引	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
高(註九)	百萬弗	百萬弗	百萬弗	百萬弗	百萬弗
本表に依る正味差引残高(註九)	一八一・〇	四二・六	二四七・七	一三三・五	六二・〇

第二十一表の二

貿易及交通關係勘定	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
中南米向けの輸出商品(註一)	百萬弗 三〇七・〇	百萬弗 三四四・一	百萬弗 三九四・八	百萬弗 五七八・四	百萬弗 四九四・八
中南米よりの輸入商品(註一)	三七〇・九	四六一・〇	五〇一・六	六七二・五	四五三・五
差引	六三三・九	一一六・九	一〇六・八	九四・一	四一・三
船積みに依る中南米よりの受取勘定(註二)	六・四	七・二	八・三	一一・一	一〇・四
合衆國に於ける中南米旅行者の経費	一〇・四	一二・三	一四・三	一五・二	一五・一
中南米に於ける合衆國旅行者の経費	五六・八	四六・八	六一・三	六八・七	六八・六
中南米に於ける合衆國學校に對する支拂(註三)	三・四	二・八	二・九	三・二	三・三
中南米よりの受入利子	三二・八	三五・九	三五・五	三六・八	(註四) 一四・六
中南米直接投資に對する収益	六五・〇	九五・〇	一三五・〇	一九〇・〇	一七五・〇
差引純受取高(註三、註五)	五四・四	一〇〇・八	一二八・九	一八二・二	一四三・二
貿易及交通勘定總差引残高	九・五	一六・一	二二・一	八八・一	一八四・五
地金					
中南米よりの地金實際輸入高	五七・八	四二・八	七〇・六	七七・九	一〇一・五
中南米よりの地銀實際輸入高	二四・〇	六四・七	三三・〇	三一・一	四八・三
合計	八一・八	一〇七・五	一〇二・六	一〇九・〇	一四九・九
資本					
中南米よりの公社償還及減價資金受入(註六)	一五・七	(註) 二二・四	(註) 三二・四	(註) 九六・九	(註) 三八・四
抵當物件取引に依る公表資本移動總額(註五、註七)		一六・〇	一五・〇	一六二・〇	三・〇

短期銀行資金に依る公表資本移動總額(註五、註七)	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
紙幣の公表せられたる輸出中輸入正味高(註八)	百萬弗 〇・一	百萬弗 五五・〇	百萬弗 一一五・〇	百萬弗 四七・〇	百萬弗 一八・〇
差引	一五・八	六四・一	一二四・五	二二・三	二二・七
本表に依る正味差引残高(註九)	(註十) 七五・五	五九・五	四四・〇	一九〇・四	一〇・九

註一 合衆國統計に依る、補正未済。
 註二 概算。
 註三 國別は未だ不明なり。
 註四 外國人の中南米弗公債の買戻は許可を要す。
 註五 本表は中南米二十ヶ國以外に全西印度及びパミューダを含む。
 註六 公社償還受入は各年度に於ける外國人の買入れを除く。
 註七 本表は合衆國大蔵省調査。
 註八 本表は合衆國とイタリヤ、ドミニカ、バネマとの米弗紙幣の移動をも含む。
 註九 一九二九年乃至一九三四年の主として中南米に於ける新投資を指し、一九三五年乃至一九三八年の擔保に依る新投資を含みます。
 註十 合衆國の中南米に於ける直接投資に依る収益及總べての資本取引を指し、貨幣移動を除く。
 註十一 米國商務省内外通商局財務部調査。

附 中南米諸國の外國貿易に於ける特殊問題

現今に於ける中南米貿易の發展

今次歐洲大戰が長く續けば中南米貿易に著しい影響を及ぼすにちがいない。既に貿易統制、爲替管理等の影響を受けて居る歐洲との貿易は交戦國との取引妨害や軍需材料及糧食への要求によつて更に混亂するに至るであらう。斯る需要が増加するか否かは勿論交戦國が彼等の物資を中南米に對

して輸出する能力、或は他の満足な支拂方法を取極めるか否かにかゝつてゐるのである。
 戦争中獨逸は中南米産品にとり、重要な市場となり得ないし、中南米輸入の重要な資源國ともなり得ないであらう。これが一番中南米諸國及中南米物資に重大なる影響を及ぼすものである。中南米は英國及佛蘭西への賣込を増加して此の損失の一部を補填するであらう。然し財政上の理由から此等國々は出来る限り各領土内に専ら買付を集中するであらう。

中南米貿易を混亂せしめる現情勢並に中南米産品の販賣制限が續く限り此の地方の物價及人民の購買力は低下するであらう。假令英國及佛蘭西への二三の中南米産品の輸出が値上りしたとするも此の輸出品の支拂が自由爲替で支拂はれるのでなければ、中南米諸國民の購買力が非常に高くなると思へない。何となれば英國及佛蘭西の生産能力は専ら戦争實行に必須な生産品の製造に熱中するに至るからである。

中南米諸國が交戦國に對しブロック通貨を以て産品を賣つて居る限り他の諸國にとつては中南米市場に於て其の賣上げを増加する機會は實質的に減少するであらう。中南米諸國は自由爲替を得ることが出来ない上に、交戦國側には海外に賣込んだ商品に對して特定外國通貨を以て支拂はしめやうとする傾向がある、即英國は近來或る種の輸出品は指定外貨のみで支拂ふことを條件として居る。

獨逸は中南米の輸入に於ける供給國としては實質的に除外されたので、英國は喪失市場を取り返す機會を得、合衆國は既に事實上中南米輸入貿易に激増を來す機會を得て居る。英國は或る中南米産品の大購買者となるであらうが、軍需品生産に多忙の爲、多數の商品に對する中南米の需要に應ずることは出来ないであらう。然るに合衆國は取引上の支拂決済に若し適當の方法が発見されれば斯る需要に應じ得る立場に有るのである。

合衆國の對中南米貿易を増進せんとするにはこの問題に附隨する二、三の根本的な要因を考慮せねばならぬ。中南米よりの合衆國輸入（金銀を除く）の約六〇％は合衆國に産出の無い原料及熱帯産物であつて此等は無税で輸入されて居る。斯る産品の輸入は關稅の拘束を受けず、且つ、其の多くは如何なる貿易制限に依つても調節せられないので合衆國の之れに對する消費を増加する以外には此種商品の輸入が多少でも増加することは覺えないと觀られる。加之或種の中南米産品例へば棉花、小麥、玉蜀黍、大麥、燕麥、果實等の輸入はこれ等大部分を合衆國自身でさへ輸出してゐるので大いなる増加は望めない。

若し合衆國の對中南米輸出を増加せんとせば現在中南米より得て居る或る種の有税品の合衆國輸入を増加するか又は合衆國が最早從來の供給國より入手することが出来ないか、或ひは現に中南米以外から輸入して居る或種の産品を中南米より輸入することが必要と思はれる。中南米諸國との通商協定の結果、有税品の合衆國向け輸入は多量とは云へないが多少増加するであらう。又、其の製品を合衆國市場に供給せんとする中南米の新興産業の發達は尙ほ時日、資本の兩者を要するであらう。もし斯る過程を進める場合、他國の同種産業との競争或は、例へば熟練工の不足、動力の不充分、氣候及地質の不適當の如き地方的不利なる條件の何れによつても新興産業は不利な立場に置かれることに注意しなければならぬ。然し中南米

が、現在合衆國が他の諸國より得て居る物資の供給國となる場合、總計に於て合衆國の輸出超過を來すものとは思へない。

更に平常の状態に於ては合衆國の對中南米輸出の増加は中南米の第三國輸出により決済し得る事が豫期出来るのであるが、現今の大戦に依り歐洲市場（中南米産品の米國を除く主要市場）への中南米産品の賣込が多額の自由爲替を獲得し、合衆國よりの買入れ商品に對する支拂に利用出来るとは思はれない。歐洲の交戦國は軍需品購入の爲弗爲替を大切に居るので、之を合衆國の對中南米輸出決済に利用を許すことは有り得ないであらう。

一九三九年及一九四〇年の最初の二ヶ月の貿易統計によれば歐洲大戦及合衆國の改善せられた經濟状態は合衆國と中南米間の貿易に満足すべき影響を與へて居る（第二十二表参照）一九三九年に於ける最初八ヶ月間の中南米よりの合衆國輸入は前年同期より僅かに五％増加したのみで、合衆國の全輸入程の激増を見なかつたが歐洲大戦勃發後此の状況は逆轉した。一九三九年末迄の四ヶ月の中南米よりの合衆國輸入は前年同期より三五％増加し、之に反し其他諸國よりの輸入は二五％しか増加しなかつた。一九三九年九月から一九四〇年二月迄の六ヶ月間の中南米よりの輸入増加率は一九三九年末の四ヶ月間のもの程急速ではなかつたが、他の總べての國からの輸入はそれ以上急速に増加した。大戦の最初の六ヶ月である一九三九年九月より一九四〇年二月迄の間に於ける中南米よりの輸入は前年同期に比し三二％大で、其他の國よりの輸入は二七％大であつた。一九三九年初八ヶ月に於ける合衆國の對中南米輸出は前年同期より僅か減少したが、其の減少は他の諸國に對する合衆國の輸出程大ではなかつた。大戦勃發後、合衆國の輸出傾向は變化した。總輸出は増加し、中南米への輸出は一層増大した。一九三九年末の四ヶ月に於ける中南米への輸出は前年同期に比し他の諸國に對する輸出は單に一九％のみ増加しなかつたのに四八％大であつた。一九四〇年初の二ヶ月間は中南米向け輸出は増加し續け、他の總べての國に對する輸出も同じ現象を呈した。一九三九年九月乃至一九四〇年二月間の對中南米輸出は前年同期に比し五四％増加し、總べての他の國からの輸入は三三％大であつた。

第二十二表 一九三八年、一九三九年乃至一九四〇年の合衆國對中南米並に其他の諸國との貿易に對する期間別比較表(註三)

總 輸 入 高	一月乃至八月		九月乃至十二月		一九三八年 一九三九年 増減率		一九三八年 一九三九年 増減率	
	千弗	%	千弗	%	千弗	%	千弗	%
中 南 米 諸 國	2,353	38.0	1,100	19.3	1,938	31.0	2,353	38.0
其 他 の 諸 國	3,677	58.8	4,518	78.8	3,551	56.8	3,677	58.8
總 輸 入 高	6,030	96.8	5,618	98.1	5,489	90.8	6,030	96.8

總輸出高(註二)	一月乃至八月		九月乃至十二月		一九三八年 一九三九年 増減率		一九三八年 一九三九年 増減率	
	千弗	%	千弗	%	千弗	%	千弗	%
中南米諸國	1,777,171	100.0	1,592,200	89.6	1,633,333	91.9	1,392,900	78.5
其の他の諸國	3,142,829	177.4	2,788,833	157.4	3,142,829	177.4	2,788,833	157.4
暫定數								
再輸出を含む								
米國商務省編								

一九一三年乃至一九一九年間の中南米對合衆國貿易の比較

合衆國は絶對的にも又相對的にも一九一四年乃至一九一八年間に中南米の輸入貿易に於ける割合を増加することが出来たが、今次大戦中の中南米貿易今後の動きは、前大戦の經驗を基礎として正確に豫言し得るものと斷言してはならない、事實今次大戦の結果として合衆國對中南米貿易の發展は第一次大戦當時の貿易と著しく趣を異にして居ると云へる。とは言へ一九一四年から一九一八年迄の歐洲大戦期間の中南米の國際貿易及對合衆國貿易の動向を検討することは必要なことと云へやう。

大戦の結果中南米貿易は著しく増大した。一九一三年から一九一九年に至る七ヶ年間に金額に於て一〇〇%の増加、輸入に於て殆ど五〇%の増加を示した。斯の如く中南米貿易の増加は著しく、從つて合衆國貿易類總計も一九一九年は一九一三年に比し合衆國の對世界輸出額は二〇〇%以上、輸入額は一〇〇%増加した。大戦中合衆國は必要物資を二、三の交戦國に供給した。一九一三年乃至一九一九年の或る期間には合衆國自身も戰爭に參加し原料品の生産を獎勵し又其需要が増加した結果輸入品の數量及價額は著しく増加を來した。合衆國が大戦に參加する前後に於ける合衆國の聯合國への貸付は殆ど全部合衆國に於て必要軍需品(食料品を含む)の購入に充てられ、斯くして合衆國の輸出獎勵に役立つた。合衆國の小麦、木綿、銅及石油等の如き原料品の輸出に加へて、其の生産能力は他の地方より供給を受けることが出来ない軍需製造品の歐洲列國の需要に應ずることが出来た。其の上合衆國は有利なことには運輸の便があり、又重要な歐洲市場に接近して居た。一九一三年乃至一九一九年間の中南米の對外貿易の動向の比較は第二十三表にある。

第二十三表 一九一三年乃至一九一九年の合衆國の對中南米輸出入比較表(註四、五)

年 度 (註一)	輸 出		輸 入	
	中 南 米 (註二)	合 衆 國 (註三)	中 南 米 (註二)	合 衆 國 (註三)
一九一三年	1,547,989	1,326,640	1,813,008	1,813,008
一九一四年	1,274,997	2,364,579	907,841	1,893,926
一九一五年	1,658,469	2,768,589	809,926	1,674,170
一九一六年	1,866,967	4,333,483	1,040,662	2,197,884
一九一七年	2,062,424	6,290,048	1,367,239	2,659,355
一九一八年	2,408,444	5,919,711	1,549,685	2,945,655
一九一九年	3,103,406	7,920,426	1,949,367	3,904,365
一九一九年の一九一三年に對する増加率	100.5%	221.2%	46.9%	115.4%

註一 中南米は曆年、北米合衆國は六月三十日を期末とする會計年度とす、但し一九一九年は曆年なり。
 註二 再輸出を含む。
 註三 一般輸入額。
 註四 中南米貿易はパン・アメリカカン・ユニオン發行の世界大戦前後の中南米貿易統計に據る。
 註五 合衆國貿易はアオリン・コマース・アンド・ナヴィゲーション・オブ・ザ・ユナイテッド・ステイツに據る。

一九一三年乃至一九一九年に於ける中南米貿易

輸出 中南米輸出貿易は世界大戦により多大の影響を受けた。一般に此の地方の主要輸出品の價額が増し、輸出货量も亦、特に錫、銅、小麦、棉花、肉類、羊毛及皮革類の如き戰爭遂行に對して必要不可欠の產品が増加した。然し中南米よりの輸出數量及金額の増加は宣戰布告後直に起つたの

ではなかつた。事實輸出額は一九一四年に於ては一九一三年に比し少なかつた。此の減少は一九一四年に生じた經濟狀態の急變や市場及貿易ルートの破滅や宣戰布告に續く運輸の不便等の反映であつた。此の状態は多くの輸出品の價額を低落せしめ輸出額及數量を減少するに至つた。一九一五年の輸出は一九一三年を凌いで増加し、其の後輸出額は戦争が始まる前年に比し價額に於て一〇〇%大となり一九一九年迄逐年増加を辿つた。

中南米各國の輸出貿易が戦争で受けた影響の範圍は主として輸出品の性質及軍需如何にかゝるものである。必要な或種の礦物、食料品、及其他の農産物の値段は戦争中二倍三倍となつたが、珈琲、ココア豆の如き産品の値段は休戦直後迄安定を續けて居た。此の状態は中南米諸國の輸出貿易に反映した。殆ど總ての國は一九一四年に於て戦争の衝撃を受け、同年の輸出は一九一三年の輸出に比べて減少するに至つた。然し、一九一四年後の貿易は斯る著しい傾向は見られなかつた。

現在と同じく主として礦物特に錫よりなる當時のボリヴィアの輸出貿易は一九一四年以降急増し、戦争の最終年たる一九一八年に最高となつた。一九一八年のボ國輸出は一九一三年に比し約一〇〇%多かつたが、一九一九年には激減した。智利の輸出貿易は主として銅及硝石であるが、殆ど同一の傾向を辿つた。前述の諸國が供給した礦物は戦争が繼續中大なる需要があつたが、戦争の終りには需要は減少し、輸出貿易は減少した。

亞爾然丁よりの輸出は異つた傾向を辿つた。一九一四年以降増加はしたが、増加率は一九一五年乃至一九一七年には著しくなかつた。然し、一九一八年に輸出は非常に増大し、平和克復の一九一九年に於ても上向きを續けた。當時の主なる亞國輸出品は小麦、玉蜀黍、亞麻仁、肉類、羊毛、皮革類、ケブラツチヨ等であつたが、此等産品の大部分は戦時經濟上重要であるため、歐洲に需要があつたのである。合衆國が大戦に参加し、輸送の便の改善及一九一七年より一九九年までの急速なる物價騰貴の爲、一九一八年より一九一九年迄の亞國輸出は大體、著しい増進を示した。尤も之れには休戦後、歐洲の多大の食糧を要求したのが明らかに輸出額の増加に寄與して居る。

一九一四年以後のブラジルの輸出は比較的安定し、一九一九年迄輸出額は一九一三年の額を超過しなかつた。珈琲及ココアは必要軍需品と看做されず、ブラジルの輸出の主要部分を占めてゐる此の商品の價額は、一九一九年迄思ふ程増加をしなかつたが、同年は前年平均の殆んど一〇〇%近くに上つた。

長期間斯かる産品の輸入を阻止して來た歐洲は再び此等の飲料品を思ふ儘に味へることとなつたので、伯國の輸出は一九一八年の二億八千四百萬弗から、一九一九年には五億七千四百萬弗に上昇した。コロンビア及ヴェネズエラよりの輸出は當時主として珈琲とココアであつたが同じ傾向を辿つた。玫瑰の輸出は一九一三年より一九一九年の間年々増加した。

一九一六年の増加は特に著しく一九一五年を超過して一億弗に達し、一九一九年には一九一八年を超過して一億六千萬弗に増加した。此等の増加は長い間玫瑰國輸出總額の大部分を占めた砂糖の價格が著しく騰貴したことに因つて居る。實際玫瑰國の輸出増加は大部分は砂糖價格の騰貴であり、一

部は大戦中歐洲に於ける甘蔗糖生産の減少に依る砂糖輸出品の増加とにより生じたものである。

合衆國に對する中南米輸出總額は一九一三年より一九一九年を通じ年々増加した。一九一三年に四億八千萬弗に達し、一九一九年には十三億八千九百萬弗で一九〇%の増加を示した。更に合衆國は中南米産品に對する輸入割合を増加した。

一九一三年には中南米輸出の三二%は合衆國向けで、一九一七年には五一%、一九一九年には四五% (第二十六表参照) であつた。

此の間殆ど總べての中南米諸國の合衆國向け輸出は増加した。就中其の著しいものは亞爾然丁、ボリヴィア、エクアドル、パラグアイ、祕露、ウルグアイ、玫瑰、ドミニカ共和國及ハイチであつた。

智利よりの合衆國向け輸出はボリヴィアよりの輸出があつたため (智利に比し少量ではあつたが) 一九一九年は著しく減少した。即ち智利の主要輸出品たる硝石、銅、錫の價格下落及需要が減少したからである。然し伯利西爾の合衆國向け輸出及ヴェネズエラよりの輸出額は一九一九年には著しく増加した、之れは休戦の爲歐洲の珈琲及ココアの大消費を可能ならしめ、其年此等の産品の價格が騰貴したからである。西印度共和國よりの輸出は一九一三年より一九一九年の全期間を通じ徐々に増加したが、砂糖の價格が急騰した一九一九年には大増加を來した。

輸入 一九一三年より一九一九年の間の中南米向け輸入は同期間に於ける輸出よりも増加は急激でなく更に同期末に輸入の増加を見るに至つた。一九一三年に於ける十三億弗の輸入は一九一四年と一九一五年には急減した。一九一七年までは元の水準に復さなかつた。然し、一九一九年には輸入は十九億弗の額に達し、一九一三年を超過すること約五〇%の増加を示した (第二十七表参照)。當初の減少は一部には中南米諸國が獨逸、塊地利及洪牙利より商品を得ること及其他交戦國より或種の商品を得ることが困難になつたからであり、其上、確然とした貿易のルート及配船が戦時中著しく亂れ、且つ輸送の便が甚だしく不足するに至つた爲めである。後に至つて中南米諸國は輸入の大部分を合衆國より得て居り物價の騰貴も亦中南米の輸入額増加の一助となつて居る。

中南米二十ヶ國の内ウルグアイとコスタリカを除き各國共一九一三年に較べ一九一九年は輸入貿易が増加した。どの國も貿易は一九一三年より一九一五年迄の間は減少し、其後に至り増加を辿つた。但し亞爾然丁及ウルグアイの輸入は玫瑰の貿易が一九一五年に増加し始めたのに一九一七年迄増加しなかつた。此の貿易傾向の相違は此等諸國の輸出动向と輸出品の差異、購買力に依る輸出への影響によるものと云へる。智利及墨西哥を除き總べての中南米諸國の輸入は一九一九年大戦終了後は前年に比し増加した。一九一九年の智利及墨西哥の輸入減少は大體に於て需要の杜絶と戦争終了に伴ふ礦産物の價格の下落に依つて起つたものである。

中南米の合衆國よりの輸入は一九一三年の三億二千八百萬弗から一九一四年には二億五千四百萬弗に減少したが、其の後一九一九年には十億二千萬弗即一九一三年の水準を越すこと二〇〇%以上に達する迄増加した (第二十八表参照)。其の上中南米輸入貿易に占める合衆國の割合は一九一三年に

於ける二五%より一九一六年乃至一九一八年間に五〇%に増加した。合衆國の割合は一九一七年は筆頭で總額の五六%に達し、翌年合衆國が戦争に全力を盡してゐた時は五三%に減少し、一九一九年には五二%となつた。一九一九年に平和が克復し、歐洲諸國は直ちに中南米市場の舊地盤を回收することは出来なかつたが、再び自由に外國貿易に従事することとなつた。一九一九年の合衆國より全中南米諸國への輸入は一九一三年よりも多く、一九一九年に於て智利及墨西哥を除き總べての之等の國々は前年に比し、合衆國より弗を以て多額の買付を行つた。合衆國よりの中南米輸入額の増加は數量、價額共増加し特に價額に於て著しいものがあつたためである。

第二十四表 一九一三年乃至一九一九年に於ける中南米輸出貿易中の重要商品物價表(註三)

産品	單位	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
鑛産物	封度當りの仙	一五・五〇	一三・六〇	一七・三〇	二七・二〇	二四・六〇	一八・七〇	
電解銅	噸當りの弗	〇・九四	〇・七八	〇・五八	一・二〇	一・七三	二・二〇	
滿蒙油	封度當りの仙	四四・三〇	三五・八〇	三八・六〇	四三・四〇	六一・九〇	八五・三〇	六五・七〇
原産油	封度當りの仙	一九・七〇	一九・四〇	二二・六〇	二六・九〇	三三・四〇	三〇・九〇	三八・二〇
畜産物	封度當りの仙	一三・八〇	二八・三〇	三七・一〇	四四・二〇	七二・〇〇	八〇・三〇	八〇・八〇
皮革	同	一二・七〇	一三・五〇	一六・一〇	一九・三〇	二〇・八〇	二六・二〇	二二・三〇
羊毛	同	八・六〇	一〇・七〇	一四・四〇	一六・八〇	二二・〇〇	二二・三〇	二二・五〇
小羊	同	〇・六五	〇・七二	〇・六九	一・一九	一・四六	一・〇四	一・四五
牛	封度當りの仙	一五・三〇	一三・〇〇	一七・六〇	一七・〇〇	二二・九〇	一三・六〇	二二・五〇
大麥	封度當りの仙	一一・一〇	八・二〇	七・五〇	九・二〇	九・三〇	九・四〇	一七・九〇
豆	封度當りの仙	〇・七〇	〇・七〇	〇・七九	一・一一	一・六三	一・六二	一・五九
胡椒	封度當りの仙	一五・〇〇	一一・六〇	二五・九〇	四七・八〇	四六・九〇	四八・四〇	
棉花、伯國産「フニヤ」	封度當りの仙	一五・〇〇	一一・六〇	二五・九〇	四七・八〇	四六・九〇	四八・四〇	

産品	單位	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
同上、秘魯産「グッド」	同	一六・三〇	一一・四〇	一六・六〇	二六・八〇	五〇・一〇	四九・七〇	六二・一〇
亞麻仁	「フツシエル」當りの弗	一・一一	一・二六	一・二二	一・五八	二・四〇	二・五六	
ヘネケン	封度當りの仙	四・三〇	五・一〇	五・九〇	九・〇〇	一七・七〇	一七・八〇	一三・三〇
燕麥	「フツシエル」當りの弗	四・〇〇	五・〇〇	四・一〇	五・四〇	七・一〇	七・〇〇	八・〇〇
砂糖	封度當りの仙	二・〇〇	二・六〇	三・三〇	四・四〇	四・六〇	四・二〇	五・一〇
小麥	「フツシエル」當りの弗	一・〇六	一・五七	一・七五	二・二四	二・三五	二・四〇	二・一五
化學藥品	封度當りの仙	四・八〇	五・〇〇	五・〇〇	一五・〇〇	一五・〇〇	一三・五〇	九・八〇
ケブラツチ石	同	二・五〇	二・一〇	二・四〇	三・二〇	四・〇〇	四・七〇	三・六〇

第二十五表 一九一三年乃至一九一九年に至る中南米二十箇國輸出總額(註三)

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
中南米二十箇國輸出合計	一、五四七、九八九	一、二七四、九九七	一、六五八、四六九	一、八六六、九六七	二、〇六二、四二四	二、四〇八、四四四	三、一〇三、四〇六
亞爾然丁	四六八、九九九	三三八、七七七	五四一、五三二	五二七、〇四五	五三三、六六五	七七七、三五八	一、〇〇〇、〇三六
ボリヂイア	三六、五五一	二五、六六二	三七、一三二	三九、五七九	六一、五二二	七一、二一九	五六、二五八
伯刺西爾	三一五、一六五	二二一、五三九	二五七、一七七	二七二、八五三	三〇六、三八九	二八四、二七五	五七〇、九四三
智利	一四四、六五三	一〇九、三八二	一一九、五三〇	一八七、四五八	二五九、九八五	二九一、八六三	一一五、六九七
コロンビア	三四、三一六	三三、六三三	三一、五七九	三一、六五四	三一、八九三	三七、七二九	七六、九一七
エタアドル	一五、七八九	一三、〇六二	一七、八九五	一七、五七〇	一六、三〇九	一三、三六五	二一、〇〇五
パラグアイ	五、四六二	四、四四七	八、六二四	八一、九〇	一一、三六四	一一、〇五八	一四、三七二
秘魯	四四、四一〇	四二、六一一	六八、六三八	八〇、三九〇	九〇、六〇七	九七、〇六七	一三〇、七三一
ウルグアイ	六五、一四二	五四、五一六	七六、二二二	七二、〇七四	九六、二一七	一一〇、二四九	一五三、一八二

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
中米	二九、四八四	二一、五二二	二二、四〇四	二二、七〇七	二二、一六五	一九、八一三	四九、九二三
グアタマラ	一〇、四三三	一〇、九七九	九、九七二	一一、一二一	一一、三八二	九、六二四	一七、七四九
サルヴァドル	九、九二九	一〇、七九六	一〇、五六四	一一、六〇五	一六、〇五〇	一七、三六〇	一六、七四五
グアテマラ	一四、四五〇	一二、七五四	一一、五六七	一〇、六三八	七、八一〇	一一、三一九	二二、四一九
ホンデユラス	三、三〇〇	三、四二一	三、一四二	四、一九一	八、〇三〇	五、七三四	五、九九八
ニカラガア	七、七二二	四、九五五	四、五六七	五、二八五	五、九七五	七、七五五	一一、四〇九
バ、奈、馬	五、三八三	三、八〇一	三、四二三	五、五〇七	五、六二四	二、九〇〇	三、七五七
墨、西、哥	一五、〇二三	(註)一六五、〇〇〇	(註)二五六、〇〇〇	(註)二七〇、〇〇〇	(註)二八〇、〇〇〇	(註)二八七、七八四	(註)一九八、二三四
西、印、度	一六、四八三	一七、七五四	二五四、二九二	三五六、五七一	三六六、七七二	四一三、三三五	五七五、九六八
玖、瑪	一〇、四七〇	一〇、五八九	一五、二〇九	二一、五二八	二二、四四五	二二、三七二	三九、六〇二
ドミニカ	一一、三一六	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	七、二二〇	六、二七六	二一、四六〇
ハイテイ	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇

註一 推定。
 註二 墨西哥國統計に據る(一九二九年々鑑)、換算率一九一八年〇・五〇弗、一九一九年〇・五〇三四弗(商業年鑑)。
 註三 一九一九年パン・アメリカカン・ユニオン發行「大戦前後の中南米貿易」中の統計に據る。

第二十六表 一九一三年乃至一九一九年に至る中南米二十箇國の合衆國向け輸出額(註二)

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
中南米二十箇國 よりの輸出合計	四八一、一二七	四八六、八三五	六六七、五六五	八六八、四三三	一、〇六一、七〇一	一、二二六、六八二	一、三八九、二九三
全輸出の百分率	三一・一%	三八・二%	四〇・三%	四六・五%	五一・五%	四六・九%	四四・八%

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
南米	二二、二〇八	四一、五八一	八七、一四八	一一〇、〇六四	一五六、四三三	一六〇、一四七	一八五、〇〇七
亞爾然丁	二一八	九五六	九、七五七	一一、二六九	二二、一九三	二九、六三七	二二、三三七
ボリヴィア	一〇二、五六三	九二、〇九六	一〇七、五二四	一二四、九二〇	一三四、一三一	九八、四七四	二三四、四六一
伯刺西爾	三〇、四一三	三一、四三三	五〇、一九九	九二、〇三三	一五四、九四三	一七八、四八三	四七、六二三
智利	一八、八六二	一八、二七二	二一、九四六	二七、二九四	二六、〇〇〇	三一、一三四	五四、〇〇〇
コロンビア	三、八三四	三、五八八	五、六七八	八、五八五	一一、七七一	一〇、四二九	一〇、一〇〇
エクアドル	一四、七四二	一四、八〇八	三一、〇五七	五〇、五六五	五三、一八〇	四五、一九三	六〇、七四六
ペラグアイ	二、九七二	九、五九七	一一、二一七	一七、五五四	二六、二一九	二四、一七四	四四、六〇三
秘露	八、四七六	九、三七九	一三、一七〇	一一、七九六	一二、七九三	八、八八九	二二、六四二
ウルグアイ	五、二九七	四、八九四	四、八六五	六、八三一	八、一一九	八、七〇六	九、八一二
ヴェネズエラ	二、八二四	二、六六二	三、七一六	四、一〇二	一〇、〇四三	一四、七六六	八、三四〇
中米	三、九二二	四、八七四	六、八八一	八、六六九	七、六〇〇	八、一〇〇	一九、一八七
グアテマラ	二、八六九	二、九七四	三、〇四一	四、〇〇〇	七、六七九	五、四二九	五、五四二
ホンデユラス	二、七二二	二、四二八	三、〇八〇	三、七三一	五、〇九二	六、四一三	七、六六四
ニカラガア	四、八〇二	三、二七〇	三、一一九	五、三六一	五、五二八	二、八四六	三、四九三
巴、奈、馬	一、六〇一	(註)八六、〇〇〇	(註)八、〇〇〇	(註)一一、〇〇〇	(註)一二、〇〇〇	(註)一二、〇〇〇	(註)一七五、〇三七
墨、西、哥	一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一
西、印、度	一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一
玖、瑪	一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一
ドミニカ	一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一
ハイテイ	一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一	(註)一、三二一

註一 推定。
註二 一九一九年パン・アメリカン・ユニオン発行「大戦前後の中南米貿易」中の統計に據る。

第二十七表 一九一三年乃至一九一九年に至る中南米二十箇國輸入總額(註三)

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
中南米二十箇國輸入合計	一、三二六、六四〇	九〇七、八四一	八〇九、九二六	一、〇四〇、六六二	一、三六七、二二九	一、五四九、六八五	一、九四九、三六七
南米							
亞爾然丁	四〇八、七二二	二六三、六六三	二二〇、〇八六	二一〇、八八七	三六八、九一二	四八五、五八二	六三六、〇九九
ボリグイア	二二、三三八	一五、五〇七	八、八〇四	一一、一二八	一三、〇五八	一三、六〇一	二四、一七九
伯刺西爾	三二六、四二九	一六五、七四七	一四六、〇八二	一九四、五八二	二一五、二九九	二四七、三五一	三四九、六四八
智利	一一〇、二七四	九八、四六一	五五、九二二	八一、二二〇	一一九、六〇三	一五九、一六七	一四六、四八三
コロンビア	二八、五三六	二〇、九七九	一七、八四〇	二九、六六〇	二六、〇九八	二二、〇三四	四六、一九四
エタアドル	八、八三七	八、四〇三	八、四〇八	九、三三〇	一〇、一七七	八、一一二	一一、六六八
巴拉グアイ	七、八七六	四、九九五	二、三三四	四、五五九	八、九〇二	一〇、七二〇	一五、三六一
秘露	二九、五九一	二二、四六四	一五、〇四四	四二、二〇〇	六五、六二四	四七、一六七	五九、三一
ウルグアイ	五〇、六六六	三八、七二四	三六、三七九	三五、一五五	三八、七〇一	三九、八二二	四三、七八八
ヴェネズエラ	一八、〇三〇	一三、九八七	一三、四七〇	二二、二九二	二二、一八八	一五、四三四	三五、九〇四
中米							
コスタリカ	八、七七八	七、六三三	四、四七九	六、六〇四	五、五九五	三、七三五	七、五一八
サルヴァドル	六、一七四	四、九五九	四、〇二二	五、八二四	六、八九六	六、一四三	一四、九五八
グアテマラ	一〇、〇六二	九、三三一	五、〇七二	八、五三九	八、九九二	六、六三四	一四、二一六
ホンデユラス	五、一三三	六、六二五	五、八七四	四、四五二	六、二九三	四、七八四	六、九三一
ニカラグア	五、七七〇	四、一三四	三、一五九	四、七七八	六、三九三	五、九三〇	七、九一三

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
巴奈馬	一一、三九七	九、八八五	九、〇三七	九、一九七	九、二二三	七、八二二	一一、四〇七
墨西哥	九七、八八六 (註二)	七八、〇〇〇 (註二)	八五、〇〇〇 (註二)	九〇、〇〇〇 (註二)	九二、二二八 (註二)	一〇一、一〇八 (註二)	一一〇、三二五 (註二)
西印度							
玖瑪	一四三、七五九	一一九、〇〇一	一五五、四四八	二四八、二七八	二七一、二八〇	二九七、六二二	三五九、三二七
ドミニカ	九、二七二	六、七二九	九、一一九	一一、六六四	一七、四〇〇	一九、七三六	二二、〇一九
ハイテイ	八、一〇〇	七、六一三	四、三四五	一〇、三二二	八、六〇六	一〇、一八一	一七、一一八

註一 推定。
註二 墨西哥國統計に據る(一九二九年々鑑)換算率一九一八年〇・五〇弗、一九一九年〇・五〇三四弗(商業年鑑)
註三 一九一九年パン・アメリカン・ユニオン発行「大戦前後の中南米貿易」中の統計に據る。

第二十八表 一九一三年乃至一九一九年間に於ける中南米二十箇國の合衆國よりの輸入額(註一)

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
中南米二十箇國輸入合計	三二七、五八九	二五三、五九六	三三七、五一九	五三八、〇六四	七六九、六五六	七九三、三八四	一、〇一九、六三三
南米							
亞爾然丁	六〇、一七二	三五、五八四	五四、四七四	六一、六二六	一三三、九四二	一六四、四一五	二二五、八一五
ボリグイア	一、五七七	一、八〇八	一、八五九	三、六六四	四、三三五	四、四一一	五、八〇四
伯刺西爾	五一、二九〇	三〇、〇七五	四六、八五八	七六、二九九	一〇一、〇九二	八八、九八三	一四六、〇四八
智利	二〇、〇八九	二〇、一四九	一八、六三八	三四、四五九	六三、五三五	七四、二六〇	七〇、〇二七
コロンビア	七、六三〇	六、四八七	八、六六二	一五、〇九八 (註二)	一四、七〇〇	一一、三七〇 (註二)	二八、〇〇〇
エタアドル	二、八一八	二、七七一	三、二〇四	五、三五四	五、九三二	四、六三三	八、一七一
中南米二十箇國輸入總額の百分率	二四・七%	二七・九%	四一・七%	五一・七%	五六・三%	五三・一%	五二・三%

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年
巴拉グアイ	千弗 四七四	千弗 四一六	千弗 二七三	千弗 八四七	千弗 一、五一六	千弗 一、七六三	千弗 二、六三二
秘魯	八、五三一	七、六三四	七、二二三	二四、八六七	四二、七三三	二五、六〇六	三六、六九一
ウルグアイ	六、六三七 (註)	四、一五〇	七、五六二	九、二六二	一一、〇〇九	九、五一〇	一五、五七一
ヴェネズエラ	六、九四四	六、〇一五	七、九四三	一一、九五九	一五、五六二	八、八六七	二五、六二三
中米							
コスタリカ	四、五一六	四、〇三二	三、〇三二	四、六七七	三、八八八	二、一六二	五、八九一
サルヴァドル	二、四九一	二、〇二八	二、四七四	三、五八七	四、二六〇	三、四五五	九、〇六四
グアテマラ	五、〇五三	四、八七九	三、七五二	六、五三五 (註)	七、二〇〇	六、一一八	一〇、二一三
ホンデウラス	三、四五七	五、二六二	五、一七七	四、〇八五	五、七九五	四、三五八 (註)	六、五〇〇
ニカラグア	三、二四四	二、五六六	二、五九三	三、八五六	五、一七一	四、六三〇	六、六八八
巴拿馬	六、三七九	六、三九六	六、八二二	六、六七五	七、〇六三	六、三五一	九、三九九
墨西哥	四八、六四四 (註)	三三、二一六 (註)	四一、〇七一 (註)	六〇、〇〇〇 (註)	一一、一五、〇〇〇 (註)	一一、三、七六九	一〇〇、二八〇
西印度							
珠瑪	七五、九六八	六九、三〇五	一〇、四七三	一八、五三三	二〇、五、一〇四	二二、二、二六二	二八、三、二〇二
ドミニカ	五、七六九	四、四五二	七、三六一	一〇、六六三	一四、三二〇	一七、〇三七	一八、一、一三
ハイチ	五、九〇九	六、三八二	三、八〇七	八、七七五	七、四七八	九、四二三	一五、九四〇

註一 推定。
註二 一九一九年パン・アメリカン・ユニオン銀行「大戦前後の中南米貿易」中の統計に據る。

一九一四年より一九三九年間の經濟狀態の變遷

一九一四年乃至一九一八年以來世界の經濟及貿易に多大の變動が起つて來た。中南米の世界各國及合衆國との貿易は價額の點で一九二二年及一九二三年に突如として減少し、一九二三年乃至一九二九年間は不規則に増加したが一九一九年及一九二〇年の水準には達しなかつた。合衆國を含む一

般の他の國々の貿易も同様の傾向を辿つた。貿易以外にも亦變化が起つた。

世界の主要な地理的區域の經濟組織、又此等の地域内の各國の經濟組織は非常に變つて來た。之が合衆國の外國貿易に影響し、大戦中米國の中南米との貿易に一層影響を被つたことは疑ないことである。合衆國經濟は一九一四年以降本質的に變化して來た。新しい工業や農業の生産力は發達して來た。米國は今や債務國と云ふよりもむしろ債權國であり爲に世界の金供給の大部分を蓄積した。中南米及その他諸國との一九一四年乃至一九一八年に生じた様な合衆國貿易の伸展の可能性は問題である。將來の合衆國貿易の方向は合衆國並に其他諸國の各國内需要を自給する能力に於て一九一四年以來起つた變化や合衆國の關稅やクレジット政策並に中南米の輸出市場の確保と彼等が賣却する商品に對して自由爲替を取得する能力如何に懸るであらう。一九一四年大戦勃發當時英國は世界通商の中心であつた。金融、取引上の便宜及通商取極等により英國は最も重要な仲介國となり、同國を通じて比較的未開の地域から生ずる原料を消費地に送り、又これ等未開地域は英國から製品の供給を受けた。それより小範圍ではあるが、白耳義、佛蘭西、獨逸及伊太利は國際經濟に於て同一の機能を發揮した。一九一四年から一九一八年の戰爭に依つて生じた蹉跌により經濟活動の中心は歐洲を去り、合衆國はこれ迄歐洲諸國に依つて行はれて居た國際貿易及國際金融業務の役割の大部分を漸次引繼いだ。加之、合衆國と原料生産諸國との直接交易を可能ならしめる新たな商業便宜が發達した。思ふに商品の動きに影響する點に於て商業の變化よりも一層重要性を持つものは各種の商品に關し各國の過不足狀況を變へた農業及工業の發達であつた。此等の變化の最も顯著なものは日本及ソ聯の工業的膨脹と獨逸及伊太利の農業的擴充である。中南米に於ても亦多くの國は農業の多角化を計り、工業の發達を刺戟せんと試みた。農工業の何れに於ても自給自足への動きが擴大したが、このことは各國内に新しい供給をするのみでなく、英國、佛蘭西及和蘭の如き政治的に有力な區域並に獨逸、伊太利及日本等の作つて居る經濟的に有力な地域内にも亦同様の發達を助成するに至つた。之等の影響は合衆國の輸入資源地として又合衆國輸出市場としての主なる地域の重要性が變化したことによつて明確に説明せられる。一九一四年に歐洲は合衆國總輸入の約四七%を供給し、中南米は二五%、亞細亞は一五%、北部北米(主として加奈陀とニューファンドランド)は九%を供給したが、一九三八年には歐洲は全合衆國輸入の約二九%を供給し、亞細亞二五%、中南米二三%、北部北米一四%を供給した。

合衆國は輸出市場に於ても略々類似の變化があつた。即一九一四年には、歐洲は全米國輸出の六三%を輸入し、北米北部は一五%、中南米は一二%、亞細亞は五%輸入したが、一九三八年には歐洲は合衆國の外國向け船積み約四〇%、亞細亞は約一七%、中南米一六%、北米北部は一五%を占めた。合衆國の貿易に對する各國重要性の變化は單に貿易と金融の提供、生産能力が變つた爲のみでなく、特に一九三〇年以降は、必要消費品や其の供給方法に影響を與へた政府の政策の結果である。之等は貿易管理の形式を採つたが、この貿易管理は斯の如き統制を採用する國のみならず、此の統制國と貿易を行ふ國にも亦影響を與へた。

世界貿易の大部分は二十五年來、比較的自由市場（關稅を除き）であつたのが、今や政府の政策により透られた運河を通して流れる様になつた。其の政策とは即ち割當制、爲替管理、清算協定及バーター協定の如き制限措置となつて現はれたのである。之等の政策は特に外國爲替及金融に影響を與へた爲、國際貿易の活動に重大な支障となつた。此の状態は政府間の協定及政策が貿易活動に大なる影響を與へた南米の諸國、歐洲の或る國、及亞細亞の諸國に特に著しい。

世界經濟に及ぼせる戰爭の影響

尙他の點より觀ても現状は一九一四年に於ける状態よりも異つてゐる、第一次大戦中の原料不足は主として戰亂の初めに適當の統制が行はれなかつた爲に生じたものであつた。農業及工業資源を有効に用ふる爲の保存や方法に失敗したので浪費し遂には缺乏するに至つた。事實戰亂の終局に至る迄外國爲替にさへも統制が有るか無いかの状態であつた。然し今次大戦に於ては歐洲諸國は戰前に行つてゐなかつた國も最初より經濟生活に嚴重な統制を行つた。必需の食料品や原料等の消費は極力切りつめられて居り、その結果は當然前記輸入品に對する需要を制限することゝなつた。第一次大戦に比較して、今次大戦中商品の需要を減少せしめた第二の要因は、交戰國の經濟が戰亂勃發に先だつて軍需に應ずる様作り替へられたことであつた。それは生産力を平和的消耗品の製造より工業用及その他原料の大消費を來す軍需品製造に轉換せしめることであるが、然し交戰國の生産力の大部分は既に戰前に於て戰時産業に變へられた。

従つて戰時に於て需要を増加せしめる主要要因の一つは時には作用はしたが一九一四年より一九一八年に至る間に於ける程の經濟的影響は無かつた様である。事實増加率は緩慢となり又多數の商品に對する需要の顯著な増加は第一次大戦に比し確かに少くなるであらう。

一九一四年當時に比し商品の需要は單に政府の活動、計畫及統制の結果として減少してゐるだけでなく、交戰國の購買力も亦幾分か減じてゐる。今次大戦勃發に當り英國及伊國の金保有高、弗爲替及外國證券は總計約七十億弗と云はれたが、該資金は第一次歐洲大戦當時合衆國の貸付金の利用をも含み歐洲の交戰國により外國市場に費やされた資金の一部にしか當らない。當時英國と佛蘭西の保有する巨額の在外資金に加へて獨逸と埃地利、匈牙利の兩國も海外諸國に相當の勘定尻を持つて居た。加之獨逸は英國や佛蘭西と同様金、爲替及證券等の如き在外有價資産を有し、此等の或る物は主要な軍需品の購入資金とする爲に流動化された。斯かる資産は現在では一九一四年當時程使用されて居ない。其の上中立國特に合衆國は第一次大戦中、交戰國に對して一大クレジットを設定したが、今次は同様のクレジットの擴大がなく、又擴大せられるとしてもつと極限された基準で許可して居る。

一九三九年に於ける全主要原料品の世界生産は一九一四年に於けるよりも甚だしく多かつた。之れは石油、銅、棉花、羊毛、砂糖及穀類等の如き産物に於ても同じ事が言へる。若し今次歐洲戰爭が長期に亘るとすれば之等商品の大部分の價額は騰貴するであらう。生活必需品の價額は實際には多少騰貴したが原料不足の結果速からず生ずると思はれるが、價格の急激且つ一律の騰貴を來すものとは信ぜられない。蓋し僅な價格騰貴が新らたな産業を振興する原因とならなかつたのみならず、現在の生産力が此の需要の著しい増加に應ずるに充分でない爲、斯かる物資の不足を來した。之等の總べての素因が中南米の對外及對米貿易上に影響して來るであらう。

中南米の對外貿易に受ける大戦の影響

斯くの如く中南米貿易の上に戰爭の與へた最も直接的且つ明白な衝激は中南米産品の消費國として又廣範圍にわたる消耗品及主要商品の供給國としての獨逸を輸出すに至つたことである。中南米諸國と他の歐洲諸國との貿易も亦大戦により確かに影響を受けることが頗る多いと思はれる。交戰國に於ける商品の需要は或種の産業人が軍務に轉ずるに従ひ、歐洲諸國の中南米及其他の海外市場への輸出を減少せしめるであらう。同じく英國、佛蘭西其他歐洲中立國への或る種の中南米産品の輸入は萎縮する傾向を辿るべく、又伊太利は財政上の理由で中南米商品の二、三のものゝ輸入制限を行ひ、政府の統制及其他の方法を採用する、其の他の歐洲諸國は或る種の中南米商品にとり以前程重要な市場ではなくなるであらう。其の上、英國や佛蘭西は自國領土内或は磅ブロック諸國よりの輸入の増加をはかるものと觀られ、船腹の不足や船積の障害、及聯合國に依る必需品の割當制も亦中南米商品に對する歐洲の市場性を減ずる原因になるものと思はれる。

然し大戦が獨逸以外の歐洲諸國と中南米輸出貿易とに及ぼした眞の影響は未だ全く不明である。

肉類、羊毛の如き物資の歐洲に於ける消費は石油及銅と同じく増加するは必然であり且つ英國及佛蘭西が假令自給自足に躍氣となつても、從來中南米から輸入して居るやうな大量を自國領土内から獲得することは不可能に違ひない。

更に獨逸は以前よりも一層南歐及東歐洲諸國から農産物を獲得せんことに努め、他の西歐諸國は中南米を含む海外資源に以前よりも一段と依存するの已むなきに至るであらう。

一方、軍需による價格の騰貴特に銅、石油、羊毛の如き産品の騰貴は歐洲並に其他諸國向けの中南米の輸出額を増加せしめるであらう。

一九二九年乃至一九三八年に至る間の中南米二十ヶ國の貿易及合衆國、英國、獨逸、日本、伊太利及佛蘭西の貿易狀況は第六表の通りである。中南米二十ヶ國貿易統計を更に検討すれば一九三七年に於ては第六表（總額三億五千萬弗同年の中南米總輸出額の約一五%）に掲げた國以外の歐洲諸國に總額の約四五%が輸出せられたことを示し、その中白耳義は最大であり和蘭、瑞典及其の他の國は之れよりも少額であつた。

中南米二十ヶ國の相互間及西半球諸國間との貿易は同額か或は幾分の輸出超過となつてゐる。

西半球諸國との貿易中、ヴェネズエラから蘭領西印度諸島向けを主とする原油の輸出は約二億弗に達した。此の原油の大部分は其の後精製品として外國に積出されるもので合衆國と英國が主要市場である。此等の精製品の輸出は海外國の中南米に於ける屬領地の貿易に屬し、本書は之れに觸れないので示さなかつた。若し此の種の貿易が包含されば合衆國及歐洲諸國殊に英國で輸入せられる中南米産品の数字は表よりも多くなるだらう。一九三七年に於ける加

奈陀向け中南米産品の輸出額は約三千九百萬弗に達した。
一九三七年に於ける中南米諸國の輸入總額(約二億二千五百萬弗)の約一四%は第六表に掲げて居る國以外の歐洲諸國より輸入し、約一二%(凡そ一億八千二百萬弗)は中南米共和國相互間の貿易であつた。

第二十九表は別個に示した第六表中の六ヶ國と同様一九三七年に於ける之等六國に關係ある地域との貿易状況如何を知るため中南米二十ヶ國の輸出入を表はしたものである。此の統計は不充且つ不正確な爲、数字は單に概算的なものである。兎も角通商に關する國や地域の立場は年々甚だしく變化するので、細かな数字は何ら重要でない。表は單に今次大戰前の中南米貿易の大體の分布を示すものと看做せば良いのである。

大戰中、中南米諸國にとり殆んど失はれる獨逸市場は中南米の全輸出の七%乃至九%を占めて居たものであり、寧ろ複雑且つ豫言し得ない状態に置かれるであらうと思はれる、其他の歐洲市場は全中南米輸出額の約四〇%を占めて居た。

大戰中、中南米諸國は總輸入額の一〇%から一六%に達して居た獨逸よりの輸入を殆んど中止し、又中南米總輸入額の約三三%を供給して居た歐洲諸國よりの輸入も亦減少するに至るであらう。大戰勃發により歐洲諸國は中南米への輸入供給國としての重要性が減じた爲、合衆國の此等諸國向輸出は既に増加を來し中南米の輸入業者中には從來歐洲より輸入したるた商品に代つた合衆國商品の代理權を得て非常に儲けたものもある。この傾向が繼續するや否やは専ら合衆國よりの増加する輸入商品に對して支拂ふ自由爲替を中南米諸國がどれだけ獲得するか能力如何に掛つてゐる。換言すれば中南米諸國がクレヂットの入手、舊市場の維持並にこれ等市場向けの自由爲替の獲得或はこれ等の或る市場で受けた損失を他市場への輸出増進によつて填補する能力如何に掛るものである。

中南米諸國に於ける通商が大戰により蒙る影響の範圍は大戰前に占めて居た對獨貿易の重要程度と其の商品の特異性等により國によつて趣を異にする。

例へば、獨逸を最大の顧客とするブラジルが之を失ふことは其他の中南米諸國よりも重大なる損失を受ける譯である。獨逸はブラジル珈琲の重要顧客であり、他に代る好市場を見出すことは困難であらう。之に反しヴェネズエラにとつては獨逸は重要な市場でなくなつて居り、特定國向けヴェネズエラの重要産品が蒙る如何なる損失も他國向け石油の輸出増加に依り填補せられるであらう。

近年獨逸はブラジル、エクアドル、パラグアイ、コスタリカ、グアテマラ及ニカラグアの輸出の一六%から二二%を占め、智利、コロンビア、ペルー、ウルグアイ、サルヴァドル及墨西哥の輸出貿易の九%から一五%を占めて居た。亞爾然丁の獨逸向け輸出は亞國の全輸出の六%乃至七%に達した。其の他の中南米諸國即ボリヴィヤ、ヴェネズエラ、ホンデラス、巴奈馬、玖瑪、ドミニカ及ハイテイ等の諸國にとつては、獨逸は差して重要な顧客ではなかつた。

合衆國、英國、獨逸、日本、伊太利及佛蘭西等の諸國と中南米二十ヶ國との貿易を表はす最近數年間の統計は次の報告書に記載した。
獨逸は珈琲(一九三七年の中南米輸出總額の一六%)、棉花(二〇%)、羊毛(三三%)、皮革類(二五%)、ココア(二〇%)、大麥(四六%)、穀類(九%)等の如く中南米産品の重要な市場であつた。

此等の商品中、例へば珈琲、ココア及大麥等に對して中南米の爲に他に市場を見出すことは困難であらう。近年獨逸は墨西哥石油の著しく重要な顧客となつて來たが、其他の中南米産品例へば石油、チクレ、バナナ、砂糖等に關しては、獨逸は重要な市場ではなかつた。

假りに獨逸向以外の航路の自由が保たれ、適當な運輸の便を有し、歐洲諸國と満足すべき金融上の取極が成立したとすれば中南米産の各種商品の輸出は差して大戰の影響を受けないであらうと言ひ得る。

或る種の軍需品(例へば銅、石油、肉類、及羊毛)の輸出は數量に於ても増加し、且つ價格に於ても亦騰貴するに違ひない。
中南米重要輸出品に關する特殊問題の更に深い検討は後の報告に發表することにする。





Handwritten Japanese text on a slip of paper, including characters like 昭和十六年二月五日發行 and 東京市世田谷區世田谷三ノ二一〇七.

昭和十六年二月一日印刷
昭和十六年二月五日發行

最近十年中南米の對世界及米國貿易概況

定價壹圓貳拾錢

編纂 外務省 通商局

東京市世田谷區世田谷三ノ二一〇七

發行者 川名 達 潤

東京市品川區東大崎三ノ二三九

印刷者 北村 恒 次

東京市世田谷區世田谷三ノ二一〇七

發行所 八 紘 閣

振替東京一六九八三二番





昭和六年五月廿九日

製本控

907	125	年	月	日
最近十年の 中南米諸國の對世界及ハ 對米國貿易				
備考	外務省通商局編			

發行所

八

社

振替東京一六九八三二番



678.25
G 15



謹告

從來弊社に於て内地滿支は(紅)、第三國は(CI)の社標を使用致し來り候處近時株式會社丸紅商店の海外進出に
れ之と混同を避ける爲爾今弊社は

(紅)の社標を廢し

社標は(CI)、略稱は「伊藤忠」を使用
する事に相定め申候

伊藤忠商事株式會社

本店 大阪市東區安土町二丁目

所張出・店支

第三國	香港・盤谷・スマラン・サンチャゴ・サンパウロ・ブエノスアイレス・リマ
中南支	上海・南京・漢口・廣東・杭州・無錫・蕪湖・蚌埠・新隄・漢川・葛店・鄂城・石家審・武穴・黄石港・倉子埠・周山舖
北支	天津・北京・濟南・青島・海州・芝罘・張家口・保定・石家莊・彰德・開封・徐州
關滿	大連・奉天・新京・哈爾濱・營口・安東・北安・齊々哈爾・吉林・四平街・開原・赤峰
内支	東京・函館・前橋・橫濱・濱松・名古屋・神戸・京城・平壤

取扱商品

輸出商品(内地向共) 綿糸 綿織物 人絹糸 人絹織物 生糸 絹紡糸 絹織物 人織 人織糸 人織織物 麻糸 麻織物 毛糸 毛織物 更生糸 更生系織物 交織織物 各種纖維製品 豚毛 紙類 木材 ゴム製品 計量器 罐詰 海産物 油脂類 石鹼 小麥粉 穀類 其他

輸入商品 棉花 バルブ 羊毛 コーヒ 油脂類 鑛石 屑鐵 其他

關係會社特約商品 各種バルブ 鑛石 金物 機械工具 車輛 建築材料 靴下 染料 藥品 其他

終